文部省囑託 権田保之助著

ナチス厚生團(KdF)

東京

栗田書店刊

例言

本研究所は時局に對應する新秩序の建設に資するため、夙に先進諸國、なかんづく新獨逸における經濟的社會的諸問題の客觀的討究をその研究課題の一つに加へ、且つその結果の適當なる部分はこれを通俗的な形で隨時發表して行く計畫を立てた。この目論見の一端として、本書は大東亞戰爭下におけるわが國防國家の體制の建設にあたり切實なる問題の一つをなしつつある國民厚生問題の處理にとつて最適の一範例と考へられるナチス厚生團ＫｄＦに關し、所員權田保之助氏を煩はし、原資料を涉獵してその全貌を明らかにしたるもの。大方の叱正をえば幸甚である。

大原社會問題研究所

序

眞珠灣頭の電擊、マレー沖の覆滅、かくて世界は遂に來るべき最後の現實に當面した。舊體制國家群凋落の挽歌に相對して、世界新秩序の建設、大東亞共榮圈の確立の雄々しい跫音が戞々として鳴り響く。而して此の決戰態勢下に於ける高度國防國家の要請に相應じ、大東亞戰爭有終の美を濟さんが爲めには、國民生產力の增强と國民勞働力の維持培養を不可缺の要體となすと同時に、勤勞國民の生活の向上と勤勞國民の文化の昂揚とを絕對的な條件としてゐることには何人も異論を挾むものはないであらう。然るに此の不可缺なる要件と絕對的なる條件とを滿足せしめんが爲めには、先づ以て勤勞國民の生活の積極化を圖らなくてはならないのであるが、此の勤勞國民の生活の積極化は、今日の國民一般に對して國家が要請しつゝある勤勞の量と質とを考へ來る時、それは到底過去に於けるが如き個人主義的な方法、自由主義的な取扱ひに放置してはこれを所期し得べきものでない事には何人も肯首する所であると信ずる。即ち其處にはこれに對する國

家的な對策と公明な施設とが樹立され實施されなくてはならぬものであることは否む譯には行かないのである。斯くして此處に勤勞國民の生活向上と勤勞國民の文化水準昂揚との爲めの國家的對策と國民的施設とが時代の脚光を浴びて登場せざるを得なくなる。斯くて勤勞文化の逞ましい創造の喊聲の裡に、國民文化向上の勇ましい夜が明けやうとしてゐる。

此の時に際して、我が盟邦獨逸に於ける勤勞國民大衆の厚生の爲めの國家的大機構たるＫｄＦの意圖とその事業とを知ることは、それが決して徒爾でないばかりか、其處に極めて多くの示唆を發見し得るものがあると思ふ。蓋しナチス獨逸は其の政權確立の其の日已に今日の歐洲戰爭を的確に想定して之れに備へ、今日より既に十年の以前に既に早く全面的に戰時體制に突入してゐたのであり、其の勤勞者厚生の大施設ＫｄＦも儼然たる臨戰態勢下に於ける心構へを以て一切が組織整備されてゐたのであり、現時の實戰態勢下に入るや、直ちに其の在來の面目を發揮し來つて、國民生產力の全的增高と、進んでは戰線將士の戰鬪意識の發揚とに其の得意の貢獻をなし得てゐるのである。然かもそれが舊き福利施設の範域に於ける低迷を超脫し、又狹き厚生施設の領域に於ける跼蹐より蟬脫して、絕えず淸新なる勤勞者生活の創造と勤勞文化の建設とに其の重點を据え、此處にその目標を置いてゐる所にナチス當事者の達識と慧眼とを窺ひ得るものがあると

思ふ。

由來、彼此夫々に其の國情と民性とを異にしてゐる。故に遽かに彼の長とする所を以て其の儘に取つて以て我が範となすことは出來ない。さりながら今や西南太平洋より印度洋に及ぶ廣大なる新天地を我が勢力圏内に加へて、其の南方の大開發によつて大東亞共榮圏の完成を所期すべき一大使命を擔ふに至つた皇國が此の使命達成の根柢たるべき人的資材の培養を思ひ、その爲めの勤勞文化の昂揚を稽ふる時、ＫｄＦの實驗は甚だ尊い他山の石に値するであらうことは確かである。

顧ふに、從來、ＫｄＦの事を說く人は尠くはなかつた。然るに夫れにも拘らずその全貌を傳へ、その眞趣を紹介する書に至つては、殆んど之れに接するを得なかつた憾が乏しくなかつた。それ此のＫｄＦの事を簡潔に傳ふる書の未だ彼の國に存しゐざるに據るものではあるまいかと思ふ。此處に私は、ナチス政權の確立前既に發刊されて、該政權確立の後「獨逸勞働戰線」の成立するやその機關誌になり、やがてＫｄＦの創立さるゝや更に其の機關誌ともなつた „Arbeitertum" 誌（月二回發行）を其の創刊の頭初より今日まで前後十年間に跨つて涉獵し、それに二三の關係書を參照して、其の機構と事業との概要を紹介せんと試みたのである。唯だ此の際、該典據が右

に揚げたるが如き勤勞大衆に對する啓發と宣傳とを目的とする冊子なるが爲めに、我々が最も多く知らんと願ひつゝある行政的機構及び財政的編成、計數的企劃及び成績の點に於て十分なるを得なかつた事は止むを得ざりし所であるとはいへ、遺憾とせざるを得ないものがある。然しながら敢て此處に此の小冊を世に送る所以は第一次歐洲大戰後悲慘と絕望とのどん底に轉落せしめられた獨逸を爾來僅かに七、八年の短時日の間に雄々しくも剛健に建直さしめて、今次の歐洲戰爭に躍出して八面六臂の敢鬪に尙ほ綽々の餘裕を示しつゝある其の現狀を築き上げた礎石の一つが實に此のＫｄＦであるといふ事を明らかにしようとするにあつたのである。もしそれ此の小冊子が世の勤勞文化を考ふる人々に一片の參考を供し、文化政策に就いて施策する人々に若干の資料を呈し得るものありとすれば、まことに望外の幸であるといはなくてはならない。

昭和十七年一月

著　者　識

ナチス厚生團（KOF）

目次

附　錄

序說

KdF、詳しく云へば『ナチス協同體・歡による力』[1]はナチス政權確立の年、一九三三年の十二月に創設されたのであつて、爾後玆に漸く八年、然かも最近三年は歐洲否な世界が未だ曾て經驗した事のない程の大動亂の眞の渦中に立ちながら、極めて順調なと云はんよりは寧ろ驚歎すべき程に著しい發達を遂げて來たのである。尤も創設後漸く五年を經て、創業頭初の文字通りの苦難の歷史の一頁を終つて、次いで躍進の輝やかしい頁に筆を落さんとするに際し、突如として起つた第二次歐洲大戰に遭遇し、空前の大國難に當面して、其の計畫の多くの部面が改變又は遷延を餘儀なくされた事は寧ろ當然の事ではあつたけれども、戰爭といふ新事態、戰時下國民生活及び產業生活の新しい狀態に對處して、此の組織は他の何物も企及することすら爲し得なかつた尊く逞ましい仕事を計畫し且つこれを美事に遂行してゐる事實に接するのである。

1) Die Nationalsozialistische Gemeinschaft „Kraft durch Freude"

第一　KdFの目標

其の設立の經過、其の機構及び事業等に就いては、以下本篇に於て詳しく叙述せんと欲するが、此處には先づ以てKdFの目標を明らかにして、それが勤勞する獨逸の國民、即ち獨逸の勞働者及び農民の生活に對する意味深き且つ周到なる用意に立つ働き掛けと施設とに依つて、新しき獨逸國民の生活新體制の構築に、即ち民族協同體の建設に寄與せんとする努力の方向を指示し來らんと欲するのである。

ナチス獨逸の勞働觀は勞働は營利の手段に非ず、又賃銀に代へて取引すべきものには非ずして、民族協同體の福祉に對する奉仕であり、作業は商品を作ることを目的とすべきものではなくて、人格の流露でなくてはならぬといふ事に根柢してゐる。此の勞働觀を徹底させやうが爲めには、先づ以て勤勞する國民の生活を調へ、これを巧妙に組み立てゝ、勤勞國民の生活と勤勞との間に新しい意義ある結合を招來せしめ、以て勞働は賤役であり、勤勞は苦難であるといふ舊い觀念を拂拭して、勤勞する國民僚友の間に勞働尊重、勞働榮譽、勞働歡喜の念を油然として湧き上らしめなくてはならないと云ふのである。然るに勤勞する國民の生活には、勤勞生活、餘暇生活、家

庭生活及び社會生活の各面があるが、夫等の生活の各々の面に就いて各種の施策が行はれ、上述の目的の達成に努力すべきであるが、其の間にあつて、生活の夫等の面の中へ「歡喜」を挿入し、「慰樂」を編入する事に依つて、働くことによつて齎らさるゝ消耗、疲勞を同復して新しき明日への創造力を獲得せしめ、勤勞に歡喜を覺えしむると共に、歡びを共にし樂しみを偕にするといふ事に依つて、此の勤勞する國民僚友の間に民族協同の精神を燃え上らしめ、民族協同體の結成に熱意を懷かしめやうとする一つの努力が生れ出でた。これが卽ちＫｄＦの事業なのである。

從つてＫｄＦの事業の活動領域には、勤勞の行はるゝ場所の環境を整備し美化することによつて勤勞の生活その物を快適ならしめる部面と、餘暇の生活を合目的に且つ最も有效に構成する事によつて勤勞する國民の生活に愉快なる諧調を持ち來し、生活內容を豐富ならしめ、以て勤勞國民僚友の生活の文化水準を向上せしむる事を期する部面とが考へ得らるゝのであるが、殊に此の後者の餘暇生活の構成には特に多大の期待が懸けられてゐることを知らなくてはならぬ。

ナチス獨逸に於ては、勞働を新しき世界觀人生觀に基いて組織することに重大意義を認めてゐるのと相並んで、餘暇の組織化に重大な關心が寄せられてゐるのである。餘暇をたゞ徒らに費消するに任かせ、もしくは低級俗惡なる手段を以てこれを埋め盡すことを以て國民生活に對する一

種の冒瀆であることを指摘して、これを有意義に構成して、勤勞する國民僚友を國民全體と密接に結合させ、かくて彼等の間に己れも亦、貴く權能ある國民協同體を構成する一員であるといふ意識を喚起すべきであり、此處に勤勞する國民僚友は國民的文化的な發展に關與し、國民の藝術的享受に參加する權利を獲らるゝやうにせねばならぬと主張する。從つて此の餘暇の組織化の爲めには、映畫、演劇、音樂、演藝等の藝術的な提供物が大きな役割を演ずることは云ふまでもない所であるけれども、唯だそれ丈けに局限さるべきものではなくて、十分なる教育的顧慮の下に運營さるゝスポーツ、ハイキング等の體育の部門も亦、忘るべからざるものであり、旅行、遊覽の如きも十分に考へらるべきである。殊に祖國獨逸の鄕土の美と、其處に住む種族の生活とに接する事は祖國に對する深き了解と熱情的な愛とを掴ましむる起因となるものであつて、これが爲めの旅行は十分大きく評價されて可なるものである。

以上の如くであつて、此の事業を實行せんとする施設たるＫｄＦに特に「協同體」の名を冠した所以は、此の施設を通しても亦、民族協同體の實現が可能であるといふ意味なのであつて、要するに此の施設を通して民族協同體の實現に到達せんとする所に此の事業本來の意味が置かれてゐるのであり、此の窮極目標を忘れてはＫｄＦの事業は魂なき形骸と擇ぶなきものとなり終るで

あらう。

ウィリー・ミュラーは「KdFの精神と價値」[1]を述べて次の如く云つてゐる。

「KdFは個人的體驗を目覺まし、勞働者の生活の中に、形成へと突き進む新しい力となつて現はれて來るものを啓開させる助けとならなくてはならぬ。高い手段によつて體驗の世界を形作ることが出來る斯かる力が躍動してゐる所では、此の力は當然認められなくてはならない。現代國民の間に根差してゐる新文化の世界圖は勞働者の體驗からして創り出さるべきであつて、此の時にこそ、働く人々は己が價値を認識することが出來るやうになり、唯物主義的な生活範域にある自分の生存を理想主義的に解釋する助けを得ることが出來る。而して更らに彼れの生活の意味は最高の命令であり、同時に最高の義務である勞働の中に成り立つべきである。斯かる考へ方は人をして自分の運命を藝術の中にも發見することが出來るやうにさせるであらう。KdFは勞働者の心靈そのものゝ爲めの、勞働の體驗よりする新しき文化形成の爲めの闘爭なのである。蓋し餘暇と休暇とは勞働日の疲勞を前提としてゐるが故である。

僚友精神に立つ勞働の體驗と、同じく僚友精神に立脚する餘暇の協同體驗とは合致する。夫等の中に社會生活一般の理念が横はつてゐる。KdFの陸上及び海上の旅行は普通の意味の國

1) Willy Müller, Das soziale Leben im neuen Deutschland. S. 189—190.

體旅行よりも遙かに大きい意味を持つてゐる。即ちその價値は運輸機關の種類にあるのでもなければ、又その旅行の目標にあるのでもなく、唯だ一に懸つてその協同體驗にあるのである。自然より得る大なる體驗こそは、僚友精神に對する最良の前提を與ふるものである。斯くて協同的に企てられて、しかも實際に體驗さるゝ此の旅行に於て、社會生活變化の道が拓かれると言ふも過言ではあるまい。今や新しい文化形成が行はれんとしつゝある。而して工業人口と農業人口とをして時々相互の生活法とその窮狀とをよく知悉させる事によつて、彼等の見聞は擴げられ、同時に文化創造的實行力の萠芽は目覺まされる。

舊い形式のスポーツはＫｄＦの運動から締め出された。そして今日では、個人的競爭から共同業績を目指す共同競技が生じてゐる。英國人は之を稱してチーム・ワークと云つてゐる。此れは僚友主義的業績なのであつて、それは最早個人のレコードに表はれるものではなくて、總體の業績に表はれて來るものである。

此處に勞働者はその勞働體驗と餘暇體驗とから、新しい文化價値の構成者として、又獨逸の文化生活の共同責任に立つ擔當者として復活して來るであらうことを獨逸勞働戰線は期待してゐる。」

第二　獨逸勞働戰線[1]に於けるその地位

ＫｄＦは獨逸勞働戰線の中に於ける一個大なる機構であつて、その設立に就いては本篇第一章に詳述せんと欲するのであるが、此處にはそれが獨逸勞働戰線に於て如何なる地位を占めて居り、又如何なる意義を有してゐるかを觀察して見やうと思ふ。

一九三三年一月三十日ナチス政權が確立して、其の翌々日の二月一日にはヒットラーはマイクの前に立つて昂然舊體制の徹底的打破の決意を國民の前に披瀝したのである。かくてナチスは時を移さずその年來抱懷しゐたる其の勞働對策の實現に驀進した。然しながらそれには十分に周到なる注意と極めて愼重なる手段とを併せて既存の各種勞働組合及び資本家團體との交渉に臨み、勞働施策基線の把握に努力して來たのであるが、四月初旬に至つてヒットラー總統は遂にナチス黨組織部長プロイセン邦顧問官ローベルト・ライ博士[2]に『獨逸勞働保護實行委員會[3]』の構成と指導とを委任するに至つて漸く其の方向が明確になつて來た。そしてライは彼の外に七名の委員を選んで該委員會を構成し、勞働組合問題の解決はたゞマルクス主義勞働組合の根本的壞滅によつてのみ行はれ得るとの信條の下に其の計畫を進めたのである。

1) die Deutsche Arbeitsfront
2) Dr. Robert Ley
3) Aktionskomittee zum Schutz der Deutschen Arbeit

かくて五月一日、新しく法律を以て定められた「國民勞働祭[1]」の第一回に當つて、國啓發宣傳大臣は「獨逸國民に告ぐ」といふ宣言に於て

「勞働を尊び、勞働者を敬へ！　額と拳とは相結んで解き放し得ざる一團を作らねばならぬ。犂の後の農民、鐵砲と萬力の傍の勞働者、研究室の學者、病床に侍する醫師、設計圖に對する技師、彼等は皆、國民勞働祭に當つて國民とその將來は凡べてに立ち勝るものであり、各人は己が立場にあつて祖國と從つて公益に寄與すべく心構えしてゐるものを行ふといふ事を意識するであらう……」

と述べて、ナチス政權が將來に目指す社會政策の方向を指摘したのであるが、其の翌二日に於ては、已に四月二十一日にライが降した命令に依つて疾風迅雷的にマルクス主義勞働組合の全的覆滅を敢行した。そして四日には、ライは基督教主義勞働組合、獨逸俸給生活者組合等々爾餘一切の勞働組合及び俸給生活者組合が前日を以て無條件にヒットラーの指導の下に立ち、獨逸勞働保護實行委員會の命令下に服することゝなつた旨を發表した。而して五月五日、ライは此處に該委員會を解散して、今後の仕事を働く一切の獨逸人の協同組織である「獨逸勞働戰線」に委ねたのである。五月十日、總統はライを此の獨逸勞働戰線全國指導官に任命した。斯くて此處に獨逸勞

1) Feiertag der nationalen Arbeit

働戰線が創立されたのである。

獨逸勞働戰線はかくて創設されたのであるが、其の組織體制の完備までには各方面への努力を必要とし、爲めに一年以上の日子を要したのである。

然るに其の年の十一月十二日には國會議員の選擧が行はれて、ナチスは全國投票の九割二分を占めて完勝を博したのであるが、これより半月にして十一月二十七日に獨逸勞働戰線全國指導官ライは其の組織の内に「ナチス協同體『歡による力』（ＫｄＦ）」の大きな機構を設置することを宣言したのである。而して此の組織は以下本篇各部に於て記述するが如き驚異すべき躍進的な發展を遂げ、美事な發達を示すに至つたのであるが、遂に翌一九三四年十月二十四日の總統令に於て獨逸勞働戰線の本質及び目標が規定されるに至り、其の第八條第一項に

獨逸勞働戰線ハ「ナチス」協同體『歡ニヨル力』ノ擔當者タリ

の一條が加へられたのであつて、此處にＫｄＦの獨逸勞働戰線に於ける地位は確定し、餘暇利用の大施設たるＫｄＦの仕事が獨逸勞働戰線の手に委任されたのである。

然るに獨逸勞働戰線が其の初期の體制より漸次展開して、一九三七年一月に入り其の陣容の整備を行ひ今日の如き組織を取るに至つたのであるが、これは一九三七年より始まる第二次四ケ年

計畫に對應せんとするものであつて、其の中特に注意すべきは「社會平和の確保」と「生活基準の向上」といふ二つの主要事業部門が創り出されたことであつて、其の後者の中にＫｄＦの仕事が編入されたのである。今、此の獨逸勞働戰線中央事務局の機構を示せば次の如くである。

獨逸勞働戰線全國指導官――ナチス全國組織部長邦顧問ローベルト・ライ博士

第一主要事業部門　副官部

第二主要事業部門　司令部

　　司法局

　　報道局

第三主要事業部門　組織部

第四主要事業部門　人事部

第五主要事業部門　養成部

第六主要事業部門　社會平和確保部

　　社會局

　　社會的自治局

法律相談所
青年局
婦人局
國經營協同體
第七主要事業部門　生活基準向上部
職業教育職業指導局
國民保健局
住宅局
ナチス協同體「KdF」
第八主要事業部門　獨逸勞働戰線財政部
第九主要事業部門　獨逸勞働戰線最高名譽及懲戒裁判所
第十主要事業部門　獨逸勞働戰線工場突擊隊
獨立事業部門　新聞雜誌局

宣傳局

勞働科學研究所

技術科學局

四ケ年計畫中央局

右の通りであつて、獨逸勞働戰線の組織内部に於けるＫｄＦの位置を知ることが出來るであらう。

此の餘暇利用施設としてのＫｄＦが一見悠長なる事業であるかの如くに見られながら、ナチス政權掌握のその年、從來マルクス主義的指導原理の下に固められて來た勞働體制を擊破して、其の混沌の間より新しき勞働政策體系の創造を爲さんとする極めて多事なる頭初に當つて、將來への驚くべく大規模なる企畫の下に、それを取り上げて力强き發足を爲さしむるに至つたナチス獨逸當事者の慧眼と達識とに深甚の敬意を表せざるを得ないものがある。而して獨逸勞働戰線が勤勞する獨逸國民僚友の勞働生活及び社會生活に對して各種の施設對策を實行して、彼等の福祉に功献する所が甚だ尠くないのであるが、此の間にあつてＫｄＦが彼等に對する絶大の魅力となつてゐることは見遁がすことの出來ない事實であると云はなくてはならぬ。此處にＫｄＦの獨逸勞

働戰線に於ける大きな意義が橫はつてゐる。

第三　ドッポラヴォーロとの差異點

獨逸のKdFを考へる時、直ちに想起せらるゝものはファシスト伊太利に於ける餘暇利用組織であるドッポラヴォーロ事業[1]である。否、それのみか實はKdFの創設に際しては、此のドッポラヴォーロ事業が最も大きな刺激となり、又有力なる範例となつたのであつて、始めの程は全く此の行き方に則つて組織、名稱もドッポラヴォーロに因んで『勞働の後』[2]としやうとさへ考へられた位である。然しながらその考へ方はやがて乘り踰えられて、全く新しい考へ方の下に、そして全然獨創的な組織の下にKdFが創り上げられたのである。今、此處にKdFがドッポラヴォーロと相異る特徴を指摘して、KdFの性格を一層明確ならしめやうと思ふのである。

共の爲めには先づドッポラヴォーロの事を簡單に說明して置かう。これは一九二五年卽ちファシストの羅馬進軍の三年後に、青年敎育事業[3]と殆んど同時に創設されたものであるが、此の時はファシストの全國征服の事業は尙ほ進行中であつて、伊太利の國民全體がまだ彼等の陣營に殘らずは立つてゐなかつたのである。此の點は獨逸に於けるナチスの政策敢行とは餘程事情が異つて

1) Opera Nazionale Dopolavoro
2) „Nach der Arbeit"
3) Opera Nazionale Balilla

ゐる事を注意しなくてはならない。即ちファシストは先づ以て勞働者を忠實な味方として獲得しなくてはならなかつたといふ事からして、而して之に加ふるに國家の綜合施設として之を行ふには必要な金に乏しかつたといふ根本的な理由からして、ドッポラヴォーロは此處に獨自の展開を驗せざるを得なかつたのである。其處で伊太利の各地に、各省や大きな經濟企業が先頭に立つて、餘暇利用團體を組織させて之を管理するといふ事になつたのである。從つて此等の團體は夫々自由な育成を遂ぐるに至つたのであつて、其の間に統一的な基準を樹つる爲めに、ムッソリニーはファシスト主義に立つ餘暇利用團體の全體を直接、黨書記長の下に歸屬せしむる規定を發布するに至つた。そして其の後各地方又は大きな地方團體の間には簇々とドッポラヴォーロ支部の設立を見るやうになつたのである。然しその運營經理は大部分各自に獨立であつて、其の大綱の方針に關してのみ羅馬に於ける指導組織部に隷屬してゐるといふ組織になつてゐるのである。

ドッポラヴォーロの會員數二百萬であつて、これが享受する特權は何であるかといへば、其の一つは會員は夫々其の勞働や職業に應じて一定のドッポラヴォーロに所屬し、その資格に於て共同ホーム、食堂、圖書館、體育館、スポーツ場を自由に利用することが出來るし、補習教育講座に參加し、音樂會、觀劇會に臨むことが出來る。ハイキング、見學旅行にも加はれるし、政治的

又は文藝的な講演にも出席出來、個々のドッポラヴォーロ間に擧行されるスポーツ祭にも參加することが出來るのである。其の二は一般の興行物、例へば映畫や演劇の興行には、ドッポラヴォーロの會員證を提示すれば入場料の非常な割引がされるし、多數のデパートや商店では一割の割引を受けることが出來るやうになつてゐる。

然し此處で注意しなくてはならぬことは伊太利のドッポラヴォーロがファシスト伊太利の國家體系と相應じて組合主義的であるといふその性格である。其の爲めにドッポラヴォーロの各會員が餘りに夫々のドッポラヴォーロに結び付けられ過ぎてゐて、其の發展が妨げられてゐるといふ事、そして各々のドッポラヴォーロが殘らず凡べて皆等しい高さの發達をして同じやうな活動をしてゐない爲めに、多くのドッポラヴォーロの間にその仕事とその效果の上に甚しい優劣の差を生じ來るといふ事が最も大きな缺陷として指摘されなくてはならない。そして獨逸のＫｄＦに見るやうな全獨逸勤勞同胞が皆等しく利用するといふ協同營舍と云つたやうな國民協同の家を所有してゐない。そして此の樣に組合を據點とするドッポラヴォーロは其の會員の數が限られてゐて、餘暇利用の十分な施設を望むことが出來ず、例へば映畫館、劇場の利用にしても、十分に獨自の主張を通すことが出來ないで、普通一般の興行――其の內容から云つて餘り感服出來ないものも

ある――を利用するより他ないといふ弱點もある。此の缺陷、此の弱點を克服して、其處に働く國民同胞に文化的跳躍の堅固な基底を構築するといふ大任務を遂行することに成功してゐるものが實にKdFなのである。ドッポラヴォーロとKdFとの性格の此の差異點は我々に極めて多くの示唆を與へるものがあると信ずる。

第一章　KdFの成立及び展開

ナチス政權の確立、引き續いての獨逸勞働戰線の結成、そして其の間にKdFが創設される迄の概略の經過は已に序說中に述べた通りであるが、此處に少しく詳細に其の成立當時の情況等を記して見やうと思ふ。

一九三三年五月二日マルクス主義的勞働組合を彈壓して解散せしめ、階級鬪爭の理論に立つ勞働觀を擊破して、同五日遂に、獨逸勞働戰線の結成に乘り出したナチス勞働政策は其の全體主義的民族協同の世界觀に立脚した新しき勞働觀を確立し、其の下に勞働者、雇傭者及び事業主を打つて一丸とした經營協同體の創設への街道を驀らに突進したのであるが、此の時に最も大きな問題の一つとして取り上げられたものが、此の勤勞者の餘暇構成の問題であつたが、此處に於て直接の刺戟となり範例となつたものは實にかのファッショ伊太利に於ける餘暇利用機構たるドッポラヴォーロであつた事は已に前述せる通りである。斯くして其の初めには此の伊太利のそれに則

つて、其の名稱までも之れを直譯して「餘暇利用事業『勞働の後』[1]」としやうとした位である。然し伊太利のドッポラヴォーロとは異つた任務と、從つて異つた體制とを採るであらう此の獨逸の新しい事業には、其處に別な名稱が與へられて、別な旗幟が掲げられねばならぬ事が當然に考へられて、遂に「ナチス協同體『歡による力』」の名が與へらるゝに至つた。ＫｄＦとドッポラヴォーロとの差異に就いては已に前に述べた通りであるが、ドッポラヴォーロが今日の勞働後の疲勞の回復に主眼點を置いてゐるのに對して、ＫｄＦが歡喜を通して明日の創造の爲めへの力を獲得せんとする所に、その兩者の社會心理學的な意義の相異が認められ得はしまいか。

同年十一月十二日の總選擧に於けるナチス黨の絶對的完勝は遂に同黨をして其の政策の完全なる實行への勇氣と決心とを掴ましめたのであつて、同二十七日ナチス黨尖端及び他の公的組織の總括的統治に關する獨逸勞働戰線の特別會議が開催されたのであるが、其の席上で獨逸勞働戰線全國指導官ローベルト・ライ博士がＫｄＦ創設の宣言をなしたのである。

今此處に、ナチス經營細胞組織の理論と實際の爲めの機關紙として一九三一年三月一日に創刊され、獨逸勞働戰線の成立するや、直ちにその機關となり、一九三六年十二月十五日號以降は獨逸勞働戰線及びＫｄＦの公的機關となつた「アルバイテルトゥーム」[2]誌のＫｄＦ特輯號とも稱す

1) Feierabendwerk „Nach der Arbeit"
2) „Arbeitertum"

ることの出來る一九三三年十二月十五日號を取つて、其のＫｄＦ創立當時に於ける一般の考へ方とその意氣込とを窺はうと思ふ。

同號には先づゲルハルト・シュタルケが「ナチス變革の特徴を現はせる獨逸勞働戰線[1]」と題して、獨逸勞働戰線が國民全體の總意の支持を得て成立し來つた經過を述べた後、

「國民協同體はナチス變革の特徴としていよ〳〵明徴になり來る合言葉である。國民協同體は啻だに信仰の告白としてゞはなくて、正に實踐としてゞある。獨逸的生活がどの範圍にも提示し來る一切のものに何人をも參與させるといふのが眞の國民協同體の結果なのであつて、これはナチス協同體ＫｄＦといふ尨大な事業に於ける程明瞭に表はれてゐるものは他にないのである。それは少數でなく、一切の者が國民の文化財に參與すべきであり、一切の働く獨逸の人々が已が祖國の美を識り學ぶべきであるといふ點に於て獨逸の餘暇構成は伊太利のそれと異つてゐる。獨逸の勞働者は我々に贈るに信賴を以てした。ＫｄＦの餘暇構成は之れに對する百倍の返禮を彼等になすべきである。即ちナチス變革は彼等の爲めに永久にその祖國に於ける安住の場所を闘ひ取つたといふ事を自ら認めるであらうからである。」

と云つてゐる。これに次いで左記五個の論說が載せられてゐる。

1) Gerhard Starcke, Die Deutsche Arbeitsfront im Zuge der nationalsozialistische Revolution.

一、ローベルト・マチューク「ファッショの餘暇組織・ドッポラヴォーロ」

二、醫學博士エル・コンティ「餘暇構成と國民健康」

三、オスワルト・レントロープ「音樂と餘暇構成」

四、フランツ・グーツミーデル「農村に於ける國民協同體」

五、ルードルフ・ライシッヒ「歡を通して力、歡を通して光明へ!」

マチュークの論述は伊太利に於ける餘暇利用組織であるドッポラヴォーロの成立と事業とを紹介し、これと今度創立されたKdFとの差異點を指摘して、KdFのみに賦課されてゐる重大任務に就いて述べ、其の意義を明らかにしてゐる。プロイセン内務省參事官コンティ博士は國民厚生の上に餘暇構成が有する重要性に就いて述べ、此の餘暇を休憩時間、仕事の餘暇時間、週末餘暇及び休暇期間の四つに分つて、其の各々を如何に巧妙に構成して國民慰安の爲め、殊に國民保健の爲めに資すべきかの各種の注意及び方法を說いてゐる。レントロープは共同に音樂することが規律への敎育を達成せしむるものであつて、やがて國民協同體の結成に大きな寄與を爲すものであることを述べてゐるが、ナチス黨團體部長グーツミーデルは獨逸勞働戰線とその中に今度新たに創設されたKdFとによつて、都市及び工業中心地

1) Robert Matschuk, Dopolavoro, die faschistische Feierabend-Organisation
2) Dr. med. L. Conti, Freizeitgestaltung und Volksgesundheit
3) Oswald Rentrop, Musik und Freizeitgestaltung
4) Franz Gutsmiedl, Volksgemeinschaft auf dem Lande
5) Rudolf Reissig, Kraft durch Freude, durch Freude zum Licht!

に住む工場勞働者のみならず、地方の農民一般も國民協同體に組織されるやうになるであらうし、又そうなるべきであると述べてゐる。ライシッヒは國民全體が國民の精神財及び文化財に均霑すべきであつて、ＫｄＦの餘暇構成の事業は正に此處に意味がなくてはならぬ、そして其の爲めには良書を國民の全層に遍通させることが必要であると主張してゐる。

斯かる元氣な出發をしたＫｄＦは次章以下に述べるやうな整備したその機構を提げて、各方面への活潑な事業の展開を示したのであるが、斯くて爾後一年、翌一九三四年十一月二十七日に伯林の電機會社ＡＥＧの機械場に開催されたＫｄＦ創立第一周年記念大會の席上ライ博士は十分の滿足を以て過去一年間のＫｄＦの歩みを顧望して、其の事業成績を報告し、將來への大發展を約束したのであるが、其の中にあつてＫｄＦが働く獨逸の國民同胞の年來の憧れ通してゐた夢であり宿願であつたものを滿たさせやうとして、先づ以て大きな企畫の下にその事業に着手した「旅行局」の此の一年間に於ける業績を取り上げて次の如くに述べてゐる。

「ＫｄＦ第一年の結果中、最も光彩を放つてゐるものは旅行局のそれである。此處にＫｄＦの驚歎すべき結果が示されて居り、總計二百十六萬八千三十二人の勞働者が旅行へと送り出され、然かも其の中の百七十五萬人は七日乃至十日の休暇旅行を樂しむことが出來たのである。

此の局の事業規模の雄大さは此等の同胞を運搬する爲めに約三萬六千輛の鐵道客車が必要であつたといふ事を考へて見て、漸く了解が出來るであらう。今此等の客車を連結するとすれば、機關車は伯林にあつて、最終客車はブレスラウにあるといふ怖ろしく巨大なＫｄＦ臨時列車が出來上らう。それで最後車に立つ發車信號手が機關手に出發の合圖を與へやうとして機關車の所まで赴くとなれば、急行列車の速度を以て四時間乃至五時間を駈け通さなくてはならなかつたであらう。ＫｄＦ休暇列車の走破路程は地球周邊の約十九倍に當る距離である。」

これと同時にＫｄＦ伯林大管區長ギュンテル・アダム[1)]は「アルバイテルトゥーム」誌一九三四年十二月十五號に「ＫｄＦ第一年の回顧」と題して、

「ＫｄＦは此の十一月二十七日にその第一事業年度を顧望することが出來るのであるが、此の第一年の間にそれは已に獨逸の頭腦勞働者と筋肉勞働者とが更らに多くをそれから期待することの出來るやうな一組織へと展開したのである。此の建設と發展の第一年に約二百五十萬の伯林人がＫｄＦ大伯林大管區の諸施設に參加したといふ事實だけでも提起されてゐる任務の偉大なることを明らかに示すものであり、斯くて來年に於ては已に參加員數が著しく增高するであらうといふ事が豫期されてゐる。」

1) Günther Adam

と述べて、次の如き一年間の事業成績を報告してゐる。

入場券、旅行券等の總賣上高は十二ケ月間に約三百五十萬マルクに達し、旅行季節の七月だけで約一百萬マルクの賣上を算した。

旅　行　部

一、本年二月、伯林第一回休暇旅行を上部バイエルンに行ひ、次いで獨逸各地方への旅行又は海洋旅行が企てられたが、これに參加したもの總計約七萬七千人。其の中最多かつたものは上部バイエルンのアルゴイ[1]で、參加者一六、六一七名。次はライン地方への參加者の一六、二八三名、北海及び東海への參加者の一一、三九四名である。

二、日曜を利用して鐵道、バス、汽船によるハイキングには約十二萬五千人が參加した。故に此の部で取扱つた數は十一月中旬までゞ二十萬人以上を算してゐる。

八日間の休暇旅行の費用は二十一マルク乃至三十六マルク、海洋旅行は三十二マルク、四十二マルク、場合によつては四十七マルクであつた。

此のKdF休暇旅行者の大部分はこれまで曾てその休暇中に旅行することが出來なかつた人達であつた。その理由は單にそれに必要な金が無かつたといふ事であつた。

養成習練部

一九三四年四月より九月迄の第一半年度に、七ツの學校で、獨逸語、英語、佛蘭西語、商業算術、速記

1) Oberbayern-Allgäu

術、地理、地政治學及び歴史の講習を行ひ、約三千五百名の聽講者があつた。教師は百二十二名で、皆ナチス教員同盟[1)]のメンバーである。

此の夏學期には、授業時間總數四千四百二十六時間であつた。

一九三四年十月より一九三五年三月迄の第二學期の新申込數は七千名以上を算してゐる。

スポーツ部

大伯林大管區スポーツ部と呼ばれてゐるが、此處では四月十三日に第一回講習を開始した。そして今日までに三萬五千枚に近い「スポーツ年劵[2)]」が發行されたが、これは三萬五千の伯林人がスポーツ講習に參加してゐるといふ事である。

十月三十一日迄に百名餘のスポーツ教師によつてスポーツ講習ダブル時間約十二萬六千時數が、行はれたが、此等の教師は皆、獨逸體操スポーツ運動教師全國聯盟[3)]の會員である。

勞働の美部

此の部も仕事に着手したが、まだ直接に具體的な仕事を始めてはゐない。しかし此の部の任務は職場及び工場の社會的設備を出來る丈け心持よく又美しく構成して、作業場が勤勞同胞の第二の故鄕となるやうにしやうとするのである。光線、空氣、太陽と花とがどの工場にも無くてはならぬといふのである。

自助及びジードルング部

最近二三箇月中に約二千人に住宅の問題に就ての相談や質問に應じた。

1) NS.-Lehrerbund
2) Jahressportkarte
3) Reichsverband Deutscher Turn-, Sport- und Gymnastiklehrer



KdF創立第四周年記念祭に於けるローベルト・ライ博士



AEG工場從業者團に演説するローベルト・ライ博士

ＫｄＦ大伯林大管區の斡旋で、伯林展覽會へ半額の入場料で約十五萬人が入場した。四月一日の大飛行式日[1]にはテムペルホーフ飛行場では約二十五萬人、アードラーホーフ飛行場では約十二萬人の參加者があつた。

演劇、演奏會等には約七十萬人が參加し、國立オペラ座[2]を始め國民座[3]の入場者は約五十萬と稱す。

民俗鄕土部

伯林に於ける此の部の催しには今日迄に約七十萬人の參會者を數へた。

以上によつてＫｄＦが其の出發の匆々にどれ程の勇ましい躍進を示したかを知ることが出來ると思ふのである。然るに一九三五年十一月二十七日、伯林の國民座にヒットラー總統臨場の下に、宣傳相ゲッベルスの祝辭を以て開始されたＫｄＦ創立第二周年記念大會に於て、ローベルト・ライは始めて二年間刻苦經營の成果を獨逸國民の感謝と全世界の驚歎との前に堂々披瀝して、ＫｄＦが爲せる極めて健全なる發展を確證し、其の將來への大野心を獅子吼したのである。私は此の發表[4]を以てＫｄＦの事業の創立初期に於ける總決算であると思惟すると共に、ＫｄＦの事業が有する抱負と範域との一般概念を極めてよく語るものであると考ふるが故に、以下ＫｄＦの機構及び事業の細說に入るに先立つて、豫め讀者がその一般を了知し置かれることの便多きを思うて、此處に其の全體を譯出し紹介しやうと思ふのである。

1) Grossflugtag　2) Staatsoper　3) Theater des Volkes

4) Dr. Robert Ley, Deutschland ist schöner geworden.—Zwei Iahre "Kraft durch Freude„ (Ein Leistungsbericht) S. 80—112.

「昨年には私はKdFが疾風迅雷の勢で獨逸を征服したと云ふ事が出來たが、今日では我々の業績は極めて偉大であつて、全世界がこれを問題とせねばならないまでになつてしまつた。獨逸に對して好意を懷くと敵意を挾むとを問はず、外國に於けるどの人も、從來は不可能とされて已に數十年の長い間世界一切の社會主義者の夢であつたものを可能ならしめた我々の若い組織を注視し、それに興味を抱いてゐる。

*　*　*

然り、我々は惡意を含む某誌が屢々虛構しやうとしてゐるのとは全く異つて、新しい獨逸を考へるやうにと實績によつて世界を强制したのである。私は諸君に最近の日附の數篇の記事を讀み上げて見やうと思ふ。リサボン發行の Diario de Manha 紙の一九三五年十月十二日號はKdF航海に就いて次の如く敍してゐる。

『獨逸がアドルフ・ヒットラーを中心として相集つた國民の堅固な規律ある意志を以てその貫徹に着手してゐるのは變革である。その影響と決定的な結果がどうなるであらうか。夫等を計量するには、今はなほ未だ時機尙早である。然し一つの事だけは確實だ。それは新しい生活概念を創造し、現代の最も不安な問題を解決しやうとしてゲルマン魂が働いてゐるといふ事が卽

ちそれである』

一九三五年九月二十七日附の諾威の新聞 Karmoy Posten は KdF旅行の價値に就いて一諾威人とラビノウィッツと呼ぶ一紳士との間に交された興味ある論爭を紹介してゐるが、その諾威人はその航海に就いて次の如く書いてゐる。

『…君が此のやうな旅行では、船の生活は餘地が少く何かと狹隘で甚だ興醒めたものに違ひないといふ事を傳へてゐる敍述に對しては、私は自ら親しくその旅行に參加したものだといふ事を指摘しさへすればよいと思ふ。そして君の云つてゐる事は出鱈目だといふ事を私は知つてゐる。君は確かにKdF汽船に乘つた事がないに違いない。…正義心を海中に投げ込んでしまふ事なぞ出來るものではない。…KdFの組織はどのデモクラチックな國を取つて來ても、其處で自慢されていゝものなのである』

瑞西の詩人ヤーコプ・シャフナー[1]、その人の作品は世界的名聲を博してゐるが、彼は同行の休暇旅行者の誰もが彼であるといふことを知る者がなくて、汽船「デル・ドイッチェ」號に乘つて諾威旅行に參加し、其の記行を瑞西の雜誌「ナチオナーレ・ヘフテ」[2]の十月號に掲げてゐるが、それには次のやうな節がある。

1) Jakob Schaffner
2) Nationale Hefte

『……一切の施設は慈善と云つたやうなものでは決してない。今日では此の參加者は皆、國民的勞働の苦惱と辛勞と危險とに當然參與せねばならぬ義務があると同時に、それは報酬の一部であり、生活歡喜と生存の貨財とに對する當然の請求權なのである。斯くして國民協同體が完全なものとなるのである。

……一體國民は以前何處で斯かる體驗を得ることが出來たらうか。それは外でもない。此處には新しいものが生じてゐるのである。然もそれは言葉から生じてゐるのではなくて、感情から、夢から、實に歡喜からである。彼等は實際に「歡による新しい力」を得つゝある。これこそ天才的な發明なのである。然し此の發明を稔あるものと爲すためには、非常な艱難辛苦が必要であつた。果しなく輝く悠久の海の上に廻つて行く日と月とは何物の辛勞を知らぬげである。潮風は彼等の眼から憂ひと卑屈の思ひとを吹き飛ばしてゐる。鳴く鷗の聲も物思ひの種ではなく、生活の問題は輝く雲の上にまどろんでゐる』

私は斯種の厚意ある外國の新聞雜誌の論評を集めやうとすれば、尙ほいくらでも取つて來ることが出來るのであるが、我々の組織を眞面目に了解しての此等凡べての判斷から表はれてゐる唯一つの事は、ＫｄＦの理念は其の成果に基いていよ〳〵凡べての國々に明らかに行き渡りつゝあ

るといふその事なのである。

斯くて我々が海外旅行までをも敢行したことは決して過つた行動ではなかつた事が解る。我々は此の道を更らに續けて行かうと思ふ。例へば來春には六隻の大汽船を以て大西洋を過つてリサボン、マデイラへ赴かんと欲するのである。我々は更らに前進する。そして一九三六年以降は、春毎に又秋毎に、我がKdF船隊を以て南方への旅行を行はうと思つてゐる。

我々が葡萄牙への第一回の大西洋旅行に際して集め得た諸經驗は極めて良好であつて、其の結果上述の如き旅行の構築を決意するに至つたのである。KdFによつて旅行する獨逸の勞働者を措いて、これ以上によく新しい獨逸を代表し得るものは他にはない。

KdFと獨逸とに對して大いに外國の好意を得ることに成功したのであるから、來年度に於ては更らに〳〵上に述べた事以上に多數の大きな特殊課題をやり遂げやうと思つてゐる。一九三四年と一九三五年に五百萬餘のKdF休暇旅行者が一體何處へ旅行したかといふ事を考察して見ると、此等五百五十萬人の中、三百萬以上の我々の仲間が國境地方に旅行したといふ結果に到達する。實に彼等は彼處に獨逸社會主義の生きた壘壁を築き上げたのである。國境地方の住民は各地方からの同胞の訪問を受けた。そして此のKdF旅行を個人的旅行から斷然峻別してゐる所の大

僚友精神こそが國境地帶の同胞に新しい精神的な後楯を與へたのである。此の計畫的な事業を我々は繼續し、大いに完成させやうと思ふのであるが、其の際に又考へらるべきは次の事である。それは尙ほ其處には多數の國境地方があつて、自動車道路の建設、軍備等による經濟上の活化作用が他の場所と同じ程度にはまだ進んでゐない國境地方がまだ〳〵多數にあるといふ事であつて、此處に其の罅隙を充たし、ＫｄＦ旅行に於て流通される幾百萬マルクの金の大部分を其處に向けるといふ事が一つの重要な任務であると我々には思はれるのである。

此の目標に到達せんが爲めに、我々は非常に大きな行動を取つた。卽ち前回のニュルンベルクの黨大會に於て私はＫｄＦは三割の値下げをなすであらうと發表したのであるが、當時多數の專門家は頭を振つてそんな事は到底實行さるべきでないと信じてゐた。然るに今日、數週間の準備の後、私は此處に來年に於て已に三十五萬の休暇者の爲めに此の値下げを斷行する。しかも宿業がこれまで承認して來た條件をやめる必要が無くてゞあるといふ事を報知し得るのである。

諸君、此の事は卽ち平均距離の場合には、獨逸の勞働者は十二乃至十五六マルクで全一週間の休暇旅行を爲すことが出來るといふ意味なのであつて、無論それには乘車船賃、十分な食事、旅舍及び諸設備の費用が含まれてゐる。これによつて我々は、その社會的境遇の故にこれまではま

だＫｄＦの旅行に參加することが出來ずにゐた勞働階級の新しい範圍を手に入れることが出來るやうになるのであるが、此の新しい大衆こそはこれに依つて最も滿足し、最も幸福を感ずるであらうが故に、彼等は最もよい休暇休養者なのである。我々はナチス主義が一番多く顧慮を支拂ふ必要があると思つてゐる風光明媚なあの國境地方へ此の人達を伴れて行かうとするのである。國境だ！　黨員諸君、ＫｄＦが今日までに其の旅行へと送り出した幾百萬の勤勞僚友が皆、もし手を繫ぎ合つたとしたら、今日已に獨逸の全國境に餘す所なく人間の垣根を結ふであらう事を知つてほしい。

我々がＫｄＦ運動の範圍に於て行つてゐる事で我が祖國の國境を越えた事柄で以て、唯だ單に外國に於ける印象といふ事丈けを考へてゐるのではない。我々が特に顧念してゐるのは、外國に居る我が獨逸の同胞の事である。我々は此の人達を我々と外國とを結び付ける生きた橋としやうと思つてゐる。そして我が休暇旅行者を親善の使者として、それによつて外國をして獨逸をその在るがまゝに見ることが出來るやうにさせ度いと思ふ。

其處で私は更らに廣汎なそして新しい大計畫に到達するのであつて、今此處に私はそれを紹介しやうと思ふ。即ちそれは母國獨逸を訪れやうなぞとは夢にだに思ひ得ずにゐた外國に居る我が

同胞とその子弟とを獨逸に伴れて來やうといふのである。

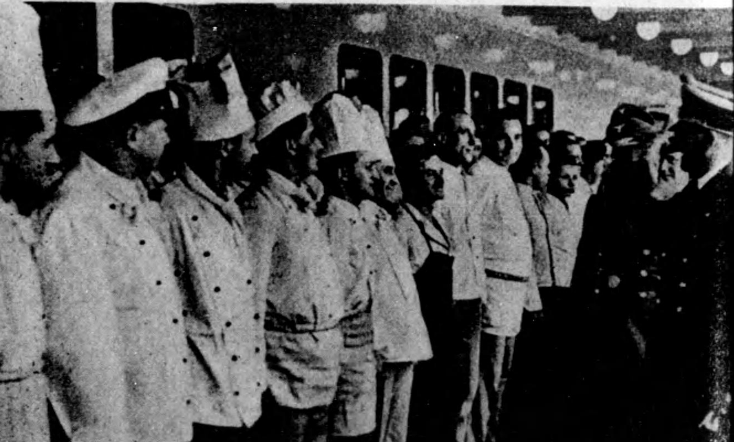
その爲めには、冬期間と休暇期間とにKdF船隊を使用し、非常に安い費用で此の航行を行はうとするのである。如何にも冬は獨逸の旅行の好シーズンとは云ひ得ないが、自分はかうも考へる事が出來ると思ふ。それは年來南の國の氣候で暮してゐる獨逸人には、冬の獨逸を體驗するといふ事は恐らく特に興味がある事ではあるまいかといふ事である。其の外に旅費を驚く程低廉にすることが出來る。しかし何にしても萬事は短兵急には行かぬもの、此の方面でも一歩一歩、我々の從來のKdFの築上工作の確かりした步度で前進しやうと思つてゐる。かくて遂には國内居住の獨逸人で外國に親戚を有してゐる者も亦、其の地へ旅行することが出來るやうに多分何時の日にかなることであらう。これは今日ではまだ口外する事が出來るまでに熟してはゐない考ではあるが、政治狀勢の發展如何が重大な決定を其處に與へることであらう。

然しかう云つた企畫の凡べてを提げてゐるからと云つて、我々は決してどんな經濟施設とも競爭をしやうとするのではない。何故なれば此の海洋旅行に參加すべき國民同胞は我が國の外國關係の組織以外から非常に入念に一々選び出されるからである。定期客船で獨逸へ旅行して來る丈けの十分の金を持つてゐる人は矢張り相變らずそれを續けるべきで、それが出來ない人々に丈け、



KdF船「ローベルト・ライ」號にてKdF休暇旅行者と語るヒットラー總統

KdF船員に挨拶するヒットラー總統



上に述べたやうな安價で、獨逸を訪問する事が出來る機會を與へるのである。

扨て**旅行局**[1]の仕事を述べる事を終るに臨んで、私は多くの方面で懐いてゐる杞憂に對して尙ほ簡單に觸れて置き度いと思ふ。大觀すればＫｄＦの旅行によつて凡べての人々は感激させられてゐるのであるが、それは休暇旅行者のみか、宿屋の主人までもが同樣なのである。此の施設に就いては讃辭滿々であつて、多くの點で好影響を示してゐることは已に指摘した通りである。たゞ此處に一つの聲を屢々耳にする。それは卽ち此の休暇旅行者の大部分が我々が無くとも休暇旅行をすることが出來たであらうやうな人々から成り立つてゐるのではあるまいかと云ふ事である。然し此の非難は當つてゐない。獨逸の人々は自分の働く同胞が集團を成した場合にはどんな風姿（なり）を示すかと云ふ事を簡單には知つてゐなかつたのである。獨逸の勞働者は小ざつぱりとした風姿（なり）をしてゐて、丁度サラリーマンかお役人のやうな身だしなみのいゝ様子をしてゐるぢやないか！

私の協力者が多數の休暇旅行團の構成狀態を調査したのであるが、どの參加者も詳細な質問票で特に調査されるので、それは容易に行はれたのである。

四つの大管區の全旅行團の調査結果は次の如くである。夫等の旅行團には五割を下らざる工業勞働者が參加してゐ、其の殘餘は少額俸給者、獨立營業者、金利生活者、自由業者等から成つて

1) Amt für Reisen, Wandern und Urlaub

ゐる。此のＫｄＦ休暇旅行者の所得階層に關する數も解つてゐる。卽ち全休暇旅行者の三分の一は百マルク以下の所得を得て居り、他の三分の一は月に百乃至百五十マルクの所得のものである。故に全ＫｄＦ休暇旅行者の三分の二は月百五十マルク以下の所得を得てゐるものなのである。そして其の殘餘のものは所得はそれ以上ではあるが、平均して百五十マルク乃至二百五十マルクの間に止まつてゐる。而して二百五十マルクを超ゆるものは僅かに全體の約六パーセントに過ぎないのである。其處で我々は多數の家族員を有する夫婦を主に探し出して來なくてはならないが、かう云ふ人々は負擔が多い爲めにＫｄＦ旅行を爲す權利を有してゐるのである。

故にＫｄＦ旅行團の構成は普通考へられてゐるよりは遙かに良好な狀態にある。もしＫｄＦと云つたやうな設備がなければ迚ても旅行なぞ夢にも出來なかつた範圍の人々がそのＫｄＦの旅行團を構成して居ないとすれば、世の中一般に規則的な旅行を爲すものが增加してゐるに拘らず、しかも數百萬を算するＫｄＦ休暇旅行者といふものが何處から出て來るかといふ疑問が生ずるのは少しも怪しむに足らない事柄である。實にＫｄＦ旅行は他の一切の主張を尻目にかけて、獨逸の勞働者の爲めの一施設なのである。

獨逸の勞働者がＫｄＦ旅行をどれ程愉快に思つてゐるかといふ事に就いて、以下二三の投書は

諸君に些か印象を供し得ると思ふ。

ノイキョルン區生れの伯林の鉱力匠のカール・フリックは次のやうに記してゐる。

「自分の費用で此のやうな旅行を單獨で爲すことが出來る人はKdFの休暇旅行者がするやうな素晴らしい事は體驗しないことだろう。誰れも彼れもが愉快で、宿泊所はかたまりになつて休暇旅行者と結び付き、一大家族のやうな觀を呈してゐます。誰もが他の人々を喜ばせやう、他の人々に自分の鄕土の美と風俗とを知らせやうとしてゐますが、それは美事に成功しました。……そんなに澤山の人々が今初めて我が獨逸の祖國がどんなに美しいかを見ました。私自身はこれ迄已に機械組立ての仕事で世間の事を澤山見ては來ました。私の職業は鉱力職なのですが、世間をこんなに美しく又こんな感情で見たことはまだ曾てありませんでした。」

ハンブルクの一商業使用人は次のやうに書いてゐる。

「こんな事が一體全體出來るのか知らと、私には倘ほ今以て合點が行きません。私は商業使用人として家族伴れで此のやうな旅行が出來やうなぞとは思へませんでした。……私の喜びは非常なものです。私は其の時をもうぢつと待つてはゐられません。」

ライン河畔のキョルンの町から上部バイエルンへのKdF旅行に參加した母である一人の獨

逸婦人から手紙が來て、それには次のやうに書いてある。

「私は今しがた上部バイエルンのKdF旅行から歸りました。私は非常によく組織立つた視察や見學を剩す所なく含んでゐる此の驚く位美事な旅行が與へてくれました色々な印象を詳しく貴方樣に御報告申上げ度いとは存じますが、これは餘り長く大切な貴方樣のお時間を潰すやうになると存じまして思ひ止まります。

私は又私達の敬愛する總統樣に御手紙をして、總統樣の御指導やお考へによつて私達に與へ賜はつたこんなにも限りない多くの幸福を感謝し度いと切に望んでは居りますが、私にはどうしてもそれをする勇氣がありません。それは總統樣にはもつと〳〵大切な事を遊ばすお仕事がお有りだといふ事を存じてゐるからであります。しかし貴方樣には再々總統樣とお會ひ遊ばすことが御座いませうが、その節にはどうか私達がこよなく敬愛してゐる總統樣に、總統樣が闘と愛とを通してこんなにも澤山の幸福を與へ下さつた凡べての人々が口にも出せぬ程の感謝の心で充ち〳〵てゐるといふ事をせめて一度でも極くこつそりお傳へ下さいませ。今度の旅行は最初から終りまで同行者一同には唯だ歡喜のみでありました。

私は獨逸の婦人として又母として、私達が限りない御恩を蒙つてゐます總統樣とナチス主義

併びに凡べてのその御味方の方々の爲めにお力添へをせねばならない時節が到來致しましたならば、私の夫、又私の子供等の覺悟を決めさせる術を心得てゐます。

ヒットラー萬歲！

キョルンにて

アグネス・ルートウィッヒ」

同じ局のハイキング運動も素晴らしい發展を示したのであつて、本年二萬三千六百回、參加人員總計四十萬人を報告することが出來る。之を一九三四年に比較すれば、約七倍の增加であつて、かくてKdFハイキングはいよいよ經營協同體の一つの慣行事として其の生活の中に入り込んで來てゐる。それが極めて安價な休暇利用であるといふ事を別にして、特に有效なのは、相携へて一地方を遊歷したといふ體驗によつて鞏固な僚友精神と鄉土への愛を創り出すことが出來るといふ事にあるのである。

一九三五年の初めには、全國經營協同體『手工業』[1]によつて、職人遊歷の古い習慣が取り上げられる事になつた。現行法規に從つて、此の職人遊歷は交換の方法で行はねばならなかつたので、即ち何時でも職業と部門とが同一條件の下にある二人の職人が交換されたのであり、その遊歷の期間は約八週間であつた。

1) RBG Handwerk

本年春の職人交換に參加したのは、先づ最初に食料品手工業であつて、即ち麵麭燒職人、肉職人及び菓子職人であつた。千人の職人が獨逸を遊歷して居り、今其の交換職場で働いてゐる。

一九三六年には此の職人遊歷を獨逸の手工業の他の部分にも延長せしめやうと計畫してゐる。即ち已に本年春にこれに參加した職業の外に、特に次ぎに擧げるが如き手工業部門の職人が遊歷に參加することになつてゐる。それは製粉職人、理髮職人、裁縫職人、指物職人、車大工、家根工、煙突掃除人、建具職人である。そして豫定人員は五千人となつてゐる。來年度にもその交換の原則は維持されることになつて居るが、精細な準則は職人遊歷の組織的實施を委托されてゐる獨逸勞働戰線の中の全國經營協同體『手工業』から發布されることになつてゐる。

實に旅行局の成果は上述の如く極めて大であるけれども、それが果すべき重大任務に考へ至れば、それは更らに一層の發展を爲さねばならぬものがある。總統は私に命ずるに『休暇と休養とによつて勤勞大衆の神經が何時までも健全に鞏固であり、强力なる政策の實行を可能ならしめ得るやうに心配してほしい』との言を以てした。

總統の此の命令に基いてナチス協同體ＫｄＦが成立し、此の命令を遂行せんが爲めに獨逸勞働戰線は次の諸目標の到達に努力してゐる。

一、休暇は法律的に規定さるべきである。此の要求は企業者に對しては何等の負擔とはならずして、寧ろ利益を意味するものである。何となれば清新な勞働力を以てすれば有給休暇を償ふことは極めて容易だからである。といふ宣傳的準備工作は已に十分の效果を擧げたのであり、休暇の法律的規正の時期は已に熟してゐるからである。かくて今日已に大工場では、全從業者團を十四日間を纏めて休暇旅行をするやうな制度を採用するに至つたが、夫等の工場は之れを利用することによつて就職志望者が乏しい作業を滿たすといふ遙かに大なる利益を享受してゐる。

二、休暇を與へるか否かは、實際に休養して一年に一度凡べての辛勞から脫却する爲めに、勤勞者がKdFで旅行をするかしないかによつて決せられる。

三、KdFでの休養旅行は決して贈與物ではないが、極く貧しい國民同胞でも之れに參加し得らるゝ位に低廉にさるべきである。

此の目的の爲めに、伯林からリューゲン[1]への往復と海岸での八日間の滯在を合せた旅行が十二マルクで出來るといふ事が此れ迄の基礎で實現され得るであらう。

かくして最後の目標はかうである。卽ち獨逸人口の現狀よりすれば、毎年一千四百萬の勤勞者を十二日乃至十四日間の休養旅行に出すことが出來なくてはならぬといふ事である。現在の交通

1) Rügen

力や宿舍能力では到底此の任務を成し遂げ得ないのであつて、今日に於ては已に可能の最大限度にまで達してゐる。二年前に我々がそれを豫言した時には、世人は我々を一笑に付して顧みなかつたものである。

かくて我々は今や早速、宿舍設備と船舶の新建造に着手するであらう。來るべき三年間に、獨逸勞働戰線は一億萬マルクでリューゲン島のビンツとザスニッツとの間に、二萬のベッドと休養慰樂の一切の設備を備へた一海水浴場を建設しやうとしてゐる。此の獨得な工事の設計圖と模型とが此の劇場の廣間に陳列してある。總統閣下、此の命令を下されたのも閣下である。我々は衷心から閣下に感謝する。同じやうに此の展覽場で閣下は一つの船の模型、それは全然新しくして全く獨得なものを見られませう。これも亦、今日まで全世界には無いものである。雜居的な寢室でなくて、殘らずが二人又は四人を容るゝ船室であり、どの船室も船窓を持つてゐ、その外に曾てなかつた樣な廣い甲板を有する千五百の旅行者の爲めの一萬五千噸の船である。かう云つた新しいKdF船の中の二隻を此の三年間に建造することになつてゐる。今日已にある二隻の自用船『デル・ドイッチェ』號[1]と『シエラ・コルドバ』號[2]の外に、同じ大さの船四隻を更らに來春までに購入する豫定である。此の船の新造とノイビンツ海水浴場の新建設の外に、此の三ケ年計畫で

1) „Der Deutsche"　2) „Cierra Cordoba"

已に獨逸勞働戰線所屬の地方休養寮[1]に在るベッドの數を同期間に三萬に增加させることになつてゐる。これが出來上ると、百二十萬人を專屬休養場に宿舍させ得ることになるのであるが、此の場合でも私營宿屋業の利用も依然大いに行はれねばならぬことは言ふ迄もない。此の三ケ年計畫の終了した後、我々はいよ〳〵主要計畫に着手して、働く獨逸の人々の最後の一人に至るまで、其の休暇と休養とに對する正當なる要求を十二分に滿たさせ得るやうにしやうと思ふ。

スポーツ局[2]はＫｄＦの諸局中特に重要な地位を占めてゐる。それは餘暇構成の範圍で獨逸勞働者の餘暇を樂しい體操によつてＫｄＦの主旨に適應した休養の源泉となさしむる美しいが同時に又、限りなく困難でもある任務を有してゐる。然しそれによつて更に國民の生活力と能率とを高めるのに大いに助けとなつてゐる。それは肉體を教育し鍛錬することによつて、肉體、精神及び心靈の調和をその理想の像と考へてゐる獨逸人の均齊的な形成と構築とに寄與してゐるのである。スポーツ局は體操を以て唯だ單に肉體を健康且つ清新に維持する手段とのみ考ふるものではなくて、更に內的、心靈的及び精神的に健全なる發展への基礎となしてゐる。かくて此の理由よりして、その鍛錬の仕事に於ては教育的な人間構成的な要素に特別な價値を置いて、純粹の肉體的鍛錬の意味よりも一層深い意味をこれに與へてゐるのである。

1) Landerholungsheim
2) Sportamt

その設立第一年にして已に、大きな成果を示し得たのであるから、第二年も亦、どの點に於ても一層高い仕事が成し遂げられるであらうと期待し得たのであるが、今日第二年の去らんとするに當つて、其の成果は我々の豫期を遙かに打ち越えたといふ事を確認して滿足に堪え得ない。これは老若の間に興味が目覺まされて、該局の活動の廣い可能性が創り出される要があつたといふ一つの證明である。比較を示す數字の二三が已にスポーツ局の類例のない成果を示すことが出來るのであるが、一九三三―三四年の報告年度の數字に就ては、それには一九三四年四月一日から十月三十一日迄の期間の結果が取扱はれてゐるといふ事、何となれば此の期間から實際的な利用が始まつたからであるといふ事を先づ以て注意して欲しい。

	一九三三―三四年	一九三四―三五年
講　　習	八、五〇〇回	四八、五〇〇回
練習の夕	五五、〇〇〇回	一九〇、〇〇〇回
參 加 者	四五〇、〇〇〇人	三、〇三四、六八七人

此等の數を對照させて見ると、今年はどの講習會も非常に多くの參加者があつたといふ事が解るのである。

三百萬餘の參加者の數は卽ちスポーツ局が二十歳乃至六十五歳の人々を體操によつて能動的な行動に導くことに功献してゐるといふことを意味するのであつて、それに依つて何人も老衰してゐず、又筋肉が硬張りすぎてゐないといふ證據が示されてゐるのである。

最も重要なスポーツの種類に就いて其の參加者の數を示せば次の如くである。

	一九三三―三四年	一九三四―三五年
水泳	一七〇、〇〇〇	九〇五、〇〇〇
趣味體操[1]	七〇、〇〇〇	七八五、〇〇〇
一般體操學校	五五、〇〇〇	三八〇、〇〇〇
國スポーツ章[2]	三五、〇〇〇	一三〇、〇〇〇

水泳講習の參加者はその最大部分が水泳初心者であつて、此の人々は初歩教授に參加して自由に游げるやうになつてゐる。

一九三四―三五年の報告年度では、授業案中に次のやうなものが新たに採り入れられた。小兒體操（已に此れ迄の參加者）四三、五〇〇人、スキー準備講習八〇、〇〇〇人、年配者の爲めの講習、自轉車乘・拳銃射擊・國民舞踊・ゴルフ・スポーツ局制定スポーツ章の講習。

1) Fröhliche Gymnastik
2) Reichssportabzeichen

昨年はその外に、不具者の爲めの講習併にスポーツ醫學相談所の設備をも備へたのであるが、今日では此の兩者はスポーツ局の事業計畫中の不可分離なものとなつて、大いに激勵されてゐる。

特に喜ばしい事は大洋帆走がどれもこれも滿員であつたといふ許りでなく、多數の申込を斷らねばならなかつたといふ事を報告し得ることである。從つて來るべき此の夏には「ユッタ」[1]「エディート」[2]のスクーナーの外に、なほ他の船も使用することになり、一九三六年四月には已にKdF農村會員を乘せて海に赴き全夏を前年よりは遙かに大きな續航航程で一週間乃至二週間の航海を實行するやうになるであらう。

教師は我々の仕事の第一の宣傳者であるといふ事實が計畫的に實施すべき習練を專門による方法論的觀點と世界觀的觀點とに從つて組織する義務を我々に課したのであつて、此の習練の實施によつて常に大綱が立てられ、授業が新時代の方法によつて構成されるといふ保證が與へられてゐるのである。

凡べての大きな經營內に働いてゐる『工場スポーツ徵募監視所』[3]の組織の不屈な働きに依つて、昨年は一方ではスポーツ各課の印刷物等の極めて迅速な配布が出來たし、他方では諸工場のスポーツ部との親密な關係が打ち建てられた。

1) „Jutta"　2) „Edith"
3) Betriebssportwerbewarte

經濟的な範圍では、此の一年間に他の局の示した業績と遜色がない程の成績を示すことが出來た。即ち其の支出は

	一九三三—三四年	一九三四—三五年
器具及び教材費	六、〇〇〇マルク	七五、〇〇〇マルク
教習所借料	四四、〇〇〇	四二〇、〇〇〇
教授謝議	一一〇、〇〇〇	八九〇、〇〇〇

教授謝議の八十九萬マルクの支出といふので、つい先頃までは非常に困つて其の生活と惡鬪してゐた體操及びスポーツの先生達の職業に再び規則的な收入の源泉が確證されたといふ事の證據となり得るであらう。

此の冬には旅行局と提携して獨逸の最も美しい冬季スポーツ地方でスキー講習をすることになつて居り、それには三萬五千の同胞が參加することになつてゐる。そして其の爲めに締紐が着いたスキーと長靴と雪杖とを揃えて一組が三十五マルクといふスキー用具三萬組が賣り出されてゐる。此の數は一見多すぎるやうではあるが、前年已に一萬八千組が各個の店で賣られたことを考へれば決して多いと云ひ得ないであらう。

倘ほ來夏にはスポーツ營舍[1]を設けやうと目論んでゐるが、此處では一般の體錬を爲す外に、滑空訓練への參加も出來るやうになつてゐる。

かくて多數の國民同胞が長い間懷いてゐた夢を實現させることが出來たのである。何となればスポーツは今日では最早、最高記錄を獲る爲めに特に選ばれた者や、經濟的に惠まれてゐる階級の如き少數者の事項ではなくなつて、國民一般の事項となつたからである！　今日でも已に適當な練習場の缺乏が表はれて居り、ＫｄＦスポーツ講習への殺到が斷えず續いてゐる。

毎日のやうに此處に到着する感謝狀の中から、手當り任せに其の一例を取り出して紹介すれば、「愚痴ばかり列べて居りました家婦であり三人の子供の母である私は貴局御主催の體操講習で毎時間休養をお與へ下さる私の喜びを此處に手紙で申述べ度いと思います。堪能なスポーツの女の先生が御指導下さいます此の時間は私には歡喜と哄笑、休養と休暇とで御座います。私は日頃の心配の一切を忘れます。そしてこれに參加しませんでした日頃には隨分夜遲くまで眠ることが出來ませんでした事が可成り多かつたのですが、此の練習時間の後では健康な睡眠を取るやうになりました。

ですから此の講習は神經にも亦よい作用を及ぼして居ます。それで私は今日も倘ほ體育とい

1) Sportlager

ふ事には緣の遠い婦人達を出來るだけ澤山に私達の仲間に入れやうと努力致しませう。

ヒットラー萬歲　　マリア・フューメル」

これまでの經驗によつて、第三年も亦、獨逸では唯だ成績に重きを置くスポーツばかりでなく、通俗的な體操も亦、奬勵されてゐるといふ證明を與へるであらうやうな貸借對照表を再び示すことであらう。我々は六十歲の人のスポーツとか體操とかも日常の必要事と認められるであらうまでは休まうとはしないであらう。

ＫｄＦの**訓練及社會教育部**[1]とＫｄＦの**獨逸社會教育事業**[2]との仕事の中心に立つてゐるのは次の如き任務範圍である。

一、ＫｄＦの役員の世界觀的政治的及び專門的訓練

ＫｄＦ役員の爲めの非公開教程三個が此れ迄ヒルシュベルク[3]とグロェーシンゼー[4]とにあるナチス黨の國立訓練道場[5]で行はれて來た。

數百の役員が每月ナチス黨管區學校[6]及び大管區學校[7]を卒業してゐる。

二、映畫と結合した講義をも含めた講義制

十月一ケ月に約百五十の講義があり、參加者約三萬人。

1) Abteilung Schulung und Volksbildung　3) Hirschberg
2) das Deutsche Volksbildungswerk　4) Großinsee
5) Reichsschulungsburg　6) Kreisschule　7) Gauschule

三、圖書館と文庫

ＫｄＦは獨自の圖書館を所有してはゐないで、寧ろ獨逸勞働戰線の現存圖書館を利用してゐる。

伯林の獨逸勞働戰線中央圖書館は藏書約七十萬冊を有してゐる。

全國にては更らに總計約十一萬六千冊を有する八個の大圖書館を利用し得る。

全國に於ける獨逸勞働戰線の圖書現在總數は今日までに約百五十萬冊に達してゐる。

其の外に夫々約二百冊を持つた巡回圖書館[1]が百五十あつて、勞働營舍[2]、國營自動車道路[3]、學校船[4]及び獨逸勞働戰線地方班管理所[5]で貸付頒布をしてゐる。

獨逸勞働戰線の中央局に居る事務員の爲めには、局內圖書館があつて、約八千冊を備へ付けてゐる。

四、各種の視察及び見學の實施

十月の一月間に博物館、工場等の見學約四百五十回、參加人員約六萬人であつた。

五、工場協同體の夕べ[6]及び農村協同體の夕べ[7]の開催

十月一ケ月間に斯種の協同體の夕べの開催度數約四百五十、參加人員約十五萬人。

1) Wanderbücherei
2) Arbeitslager
3) Reichs-Autobahn
4) Schulschiff
5) Ortswaltung der DAF.
6) Betriebsgemeinschftsabend
7) Dorfgemeinschaftsabend

慰安會、郷土の夕べ、唄の集り等のやうな共他の催には約十萬人が參加してゐる。

上記の數からして一九三五年十月の一月間にＫｄＦの獨逸社會教育事業の範圍では約一千三百五十の催物に、約三百四十萬の同胞が參加した事になるのである。

數百萬の獨逸の男女はナチス政權獲得の年に至るまでといふものは、まだ曾て內側から劇場を見たことがなかつたのである。彼等は劇場へ行かないといふ事を自明の理だと感じたばかりでなく、マルクス主義の影響によつて、劇場へ行くといふ事を自ら不似合なことだと感ずる劣等感を所有してゐたのである。

此處にも根本的に變化が齎らされた。國民の文化財は最早何時までも所有階級の特權であつてはならなかつたのである。

大伯林大管區內だけで行はれた仕事の文化政策的な著しい意味は、次に擧げるやうな唯だ一つの數だけでもくつきりと目立つのであつて、即ち一九三四年十二月一日より一九三五年十一月三十日までの期間に百五十萬人以上の伯林の働く人々がＫｄＦによつて劇場に伴れて來られたのである。此の百五十萬といふ數は已に驚くべき數であるが、もし我々がその數は此れ迄劇場とは何の緣もゆかりも持つてゐないか、殆んど關係がなかつた我々の同胞に關するものだといふ事を知

る時、その價値は更らに著しくなつて來る。從つて劇場から云へば、此等の人々は今までの觀衆の外に附加的に加はつた事になる譯である。此等同胞がこれまで少しも劇場に來なかつたといふ事の原因は主として經濟的な性質のものである。月收百マルク乃至二百マルクの勞働者や俸給者が自分と妻君との普通入場料を拂ふことの出來なかつたのは餘りにも明瞭である。

我々の大規模な募集手段によつて、劇場や演奏會場に多數の民衆を集めることが出來たのであつて、此等民衆はこれ迄はかゝる設備を唯だ聞き傳へに知るにすぎないで、全く何等の興味をもそれに感じずにゐたのである。これこそ沒却しやうとして沒却し得ない事實なのであり、そしてKdFの訪問を受けない私營劇場に對して當然に促進的な働き掛けをするに違ひない事實なのである。

一九三四年の始めに我々がジーメンス工場で行つた劇場出入に關する調査は以上の所說を固めるにすぎなかつたのであつて、其の二三の數字はこの事を容易に證することが出來るのである。被調査男の八七・六%と、被調査女の八一・三%は此れ迄曾てオペラを觀たことがなく、被調査男の六三・八%と、被調査女の七四・二%はまだ一度も劇場に行つたことがなかつたのである。所が此の質問は人格や仕事の上の地位とかに關係なくジーメンス・コンツェルンの凡べての協働者、

即ち上は支配人から下は補助勞働者に至るまで凡べて殘らずに提示されたのであるから、これまで劇場興行やオペラの上演を見に出かけてゐた從業者團員なるものは經濟的に上地位を占めてゐる俸給者群の中にあつたと主張しても決して誤ではあるまい。

然るに隨分各種の工場に於ての最近の諸調査は此處に、働く同胞がＫｄＦの各種の催しに特に著しく參加してゐるといふ喜ばしい結果を示したのである。故に此處に一つの文化政策的教育事業が行はれて居り、この作用が追々と現はれて來やうとしてゐる。

伯林に於ける七劇場がＫｄＦの爲めの專門上演や、主としてＫｄＦの爲めにする上演をやつてゐるが、其の入場者の數は次の如くである。

國民座（Theater des Volkes）	六九四、四〇一
國民オペラ（西部劇場にて）（Volksoper）	二九二、五六四
ノルレンドルフプラッツ座（Theater am Nollendorfplatz）	一四三、一〇八
シッフバウエルダム座（Theater am Schiffbauerdamm）	一四四、二九八
プラーツァ（Plaza）	八九、六九八
レッシング座（Lessingtheater）	八三、六一〇

ローゼ座（Rose-Theater）　　四一、六八六

全國での入場者平均數は一般に定員の六割乃至七割に過ぎないのに、ＫｄＦの劇場興行は何時も餘程前から賣切れになつてゐる。此のやうな入場者率は獨逸の私營劇場では到底示すことが出來ずにゐる。

全國でも、ミュンヒェンのプリンツ・レゲント座[1]とブレスラウのゲルハルト・ハウプトマン座[2]とは全然ＫｄＦの爲めの上演をしてゐるが、此處でも亦、何時も賣切れの盛況を呈してゐる。

本年始め以降新たに始めた名匠演奏會と「音樂の時間」とは同樣に非常な人氣である。我々の大音樂會には最も有名な指揮者、殊にライプチヒの總指揮者ヘルマン・アーベントロート教授[3]、ドレスデンの總指揮者カール・ボェーム博士[4]、伯林のオットー・フリックホェッフェル[5]、顧問官ウイルヘルム・フルトウェングラー博士[6]、伯林のゲー・ハーヴェマン教授[7]、伯林の國立樂園長ローベルト・ヘーゲル教授[8]、ハンブルクの總指揮者オイゲン・ヨッフーム[9]、伯林の總指揮者國文化局音樂部長教授ペーテル・ラーベ博士[10]、伯林の總指揮者ヘルマン・シュタンゲ[11]が指揮してゐるが、其

1) Prinz-Regenten-Theater　2) Gerhart-Hauptmann-Theater
3) Gen.-Musikdirektor Prof. Herm. Abendroth
4) Gen.-Musikdirektor Dr. Carl Boehm
5) Otto Frickhoeffer
6) Staatsrat Dr. Wilhelm Furtwängler
7) Prof. G. Havemann
8) Staatskapellmeister Prof. Robert Heger
9) Gen.-Musikdirektor Eugen Jochum
10) Gen.-Musikdirektor und Präsident der Reichsmusikkammer Prof. Dr. Peter Raabe
11) Gen.-Musikdirektor Hermann Stange

の大部分は餘程前から賣切れになつてゐる。演奏會に參與するものに、殊に伯林フィルハルモニー管絃樂團[1]、伯林大管區地方管絃樂團[2]及び獨逸オペラ座附屬管絃樂團[3]がある。第九交響樂[4]がハーヴェマン教授と總指揮者シュルツ・ドルンブルク[5]の指揮の下に二回演奏されたが、二回とも賣切れの盛況であつた。

勞働者はこれまで博物館を明らかにブルヂョア的な設備だと考へて、斷乎として其處へ赴かうとはしなかつた。それで勞働者を博物館へ伴れて來ることは我々にも大變六ケしかつたので、何千回かの博物館見學の企をしたのである。

それ許りでなく更に進んで我々は職場展覽會によつて工場の中へ藝術を持つて來たのであつて、この展覽會は大規模に全國に擧行されて、又大成功を納め得たのである。

獨逸國文化局[6]の藝術部と相提携して、一九三五年五月十五日から十一月一日までに工場展覽會[7]を催すこと百四十四回、前の半年に比して其の數を倍加させ、更らに伸張を示しつゝある。其の中七十の展覽會だけの觀覽者數總計は二八五、一七一名を示してゐるので、全百四十四の展覽會の總觀覽者數は働く同胞の五十萬を超ゆるものと推定され得る。伯林では十月の一月だけで、二日毎に一つ宛の割合で工場展覽會が催された。七十の大工場で

1) das Berliner Philharmonische Orchester
2) das Landesorchester Gau Berlin
3) das Orchester des Deutschen Opernhauses
4) Die 9. Sinfonie
5) Gen.-Musikdirektor Schulz-Dornburg
6) Reichskulturkammer　7) Fabrikausstellung

は已に常設の展覽會設備を有してゐる。

工場展覽會といふのは職場の美術展覽會なのであつて、夫々の展覽會の出陳物は現代獨逸美術家の創作七十點乃至二百點を含む。國文化局藝術部は美術家を工場に派遣して、美術的指導や講演なぞをさせてゐる。勞働者への藝術品の仲介は工場内の人々の狀態に應じた方法で行はれてゐる。それで中部獨逸の一工場展覽會では、十四日間に繪畫四十一點、彫刻九點が總額三千五百マルクで賣却された。其の中で最も目に立つた事は週給五マルクの一徒弟が四十五マルクの作品を買つた事であるが、その金額は經營指導者が立替へ拂ひをして置いて、週給から毎回五十フェニヒづゝの割合で差引償却することにした事である。

この事は他面、藝術家に取つても勤勞階級との接觸の機會を得ることによつて、時代に合致した藝術創作の强い刺戟を得る事となるのである。

二三年の内には、どの大工場にも常設展覽會設備が出來て、毎年獨逸藝術家の最新の作品が幾百萬の勞働する同胞に挨拶することが出來るやうになる事であらう。我々は働く國民の大衆が毎日押し寄せて行く場所、即ち事業場へ藝術家が出掛けて行つて、其處で彼れの勞苦に對し、即ち彼れが筋肉勞働者に與へる藝術的價値に對して彼れの藝術的創作が勤勞國民と機械の据えられて

ゐる廣間とで得る刺戟によつて十分な報酬を得るといふやうにしたのである。
これを總括すれば、

演奏會	三、〇〇〇回
國民音樂の催し	七、〇〇〇
演劇の夕べ	一〇、〇〇〇
オペラの夕べ	一、五〇〇
諸藝の夕べ	一五、〇〇〇
ヴァリエテ及びキャバレー	四、五〇〇
映畫會	一〇、〇〇〇
博物館見學	八、〇〇〇
展覽會	二五〇
其他（工場協同體の夕べ、農村協同體の夕べ、歌の時間、國民舞踊の夕べ、郷土娛樂の夕べ）	七、〇〇〇

が行はれたのであつて、總計六萬六千回の此等の催しに對し、參加者總數二千五百萬を算してゐ

る。

尚ほこれに附け加へ度いのは演劇興行は一部また獨逸勞働戰線の國營巡回演劇隊[1]によつても行はれた事であつて、此の巡回演劇隊は全然近代的な舞臺を備へて、獨逸の到る所の地方、大きな娯樂場を有してゐない地方でキャバレーやヴァリエテの上演を行つてゐる。

又多數のトーキー自動車班は寒村や山間荒野の僻地へまでも赴いて、其處に住む國民同胞に生々とした娯樂と毎日の辛勞に對する慰安とを與へてゐる。

此等一切の催しを通算すれば、約三千五百萬人の參加者となるのであつて、從つてこれを單に數的に見るならば、今日までに獨逸全人口の二人に一人が、それは年寄子供をも合算しての話であるが、ＫｄＦを通してナチス變革の成果にあづかつてゐるといふ事になるのである。

ナチス世界觀の根本觀念は協同思想への告白である。工場協同體の夕べの開催にあたつては、訓練及社會教育部は此の催しが勞働體驗を基として構成されて、全從業者團の周圍に一致協力の箍(たが)をはめるやうにと努することであらう。此の催を行ふに當つては、工場突擊隊に與へられてゐる任務は高いものがある。此の工場協同體の夕べの催しはそれが所屬する全國協同體及び工場協同體との緊密な共同作業によつて行はれるものである。

1) Reichstheaterzug der DAF

農村協同體の夕べは工場協同體の夕べと同樣であるが、それは主に秋季及び冬季の間に全村落民を月に一回集める役を果す慰樂會となるべきものであつて、これは已に去る冬期間にＫｄＦの社會教育事業局員の手で獨逸の多數地方で行はれて非常な好果を上げ得たのであるが、それは更らに將來とも繼續して行はるべきである。此の夕べは先づ開會の辭に始まつて、所屬訓練部役員の簡單な報告があり、そしていよ〳〵合唱、脚本朗讀會、青年の輪舞や假裝舞踏、詩、演說、素人劇といふ本題に入るものである。夏季にも村に固有の祭禮を手際よく完成するといふ事に最も重點が置かれてゐる。此のやうな娛樂を共同に經驗するといふ事によつて、協同精神が强められ、傳承の習俗の保護によつて文化財が我が國民の間に保存されるのである。

勞働の美局。[1] 幾千といふ工場の中には、長い歲月の間に凡べての隅と云はず角と云はず、塵や埃がこびり着いて、誰一人も此の働く場所を綺麗にしやうなぞいふ考を起すものがない。そして汚ない濕つぽい黴臭い職場に誰もが慣れてしまつて、これをもう當然の事のやうに考へて來てゐる。

此處に勞働の美局が新しい勇氣と精力を提げて跳び込んで來たのである。到る所の工場に新鮮な風が吹いて、そして塵と埃とを中庭や工場の窓から、隅々から吹き飛ばした。此の勞働の美局

1) Amt „Schönheit der Arbeit"

の慫慂に應じて工場を人間にふさはしく構成する爲めに二億萬マルク以上が事業經營者によつて使用されたが、之れには從業者團自身の協力があつたことも決して珍らしい事ではなかつた。以前古い道具の屑や廢物が轉がつてゐた所に、今日では小さい花園、綠地（グリーン）、小さつぱりとした中庭、スポーツ設備、明るくて風通しのいゝ休憩室、プール、化粧室と洗面室が出來て、心持よく美しい職場が最近二年の間に作り出された。

今日までに約一萬七千の工場に手が着けられた。大小の範圍の無數の改良の外に、作り出されたものは左の樣なものがある。

從業者團の爲めの酒保及び休憩室	四、三一四
綠地	一、五八〇
スポーツ設備	二七六
プール	九三

其の外、約一千四百隻の海洋船舶が改良を施された。

KdFが今日工場でやつてゐる此の仕事は自動的に獨逸の勞働者の家庭に反作用せざるを得ない。何となれば美しい職場に慣れた人はどうしても自分の家庭が清潔で美しくなくては心好い感

じを覺えられないやうになるであらうからである。

工場に於ける工場突撃隊[1]の構成は急速に進捗しつゝある。恐慌の時代に於ても細胞管理者及びブロック管理者と相結んで協同の思想を擁護せんが爲めに、ナチス黨員であつて工場内のその組織に屬する優秀な十八歳乃至二十五歳の青年勞働者を鞏固なブロックに結成するといふのが其の抑々の考へなのである。而して他の方面に於ては此の工場突撃隊には工場内に新しい風習を發見し、工場呼集[2]、工場協同體の夕べの如き催し物をそれに依つて活潑ならしめる務がある。實に工場突撃隊は工場に於けるナチス的秩序の爲めの突撃隊なのである。

總統閣下、KdFの組織について簡單な概觀をお示し致さんが爲めに、私は左の數字を上げて見度い。

KdFは三十二の大管區[3]、七百七十一の小管區[4]、一萬五千五十一の地方班[5]と同數の地方班監視部[6]より編成されてゐる。

更らに之に加ふるに總數五六、八〇六の工場内に働く經營監視部[7]があり、此等全體約七萬五千の協力者は名譽職としてKdFの中に働いてゐる。

有給の職員として働くものは全體で僅かに二千五百四十七名にすぎない。

1) Werkschar　2) Betriebsappelle
3) Gau　4) Kreis　5) Ortsgruppe　6) Ortsgruppenwarte
7) Betriebswarte

獨逸勞働戰線が第一年度に支拂はねばならなかつた補助金は二千四百萬マルクを算したが、本報告年度にはまだ一千七百萬マルクであつた。而して來年度には此の巨大な事業は自給自足するやうになるであらうといふ事が期待される。然り而してＫｄＦによつて動員されて循環されてゐる金が十億マルクを超えてゐること、伊太利のドッポラヴォーロが到底此の範圍に達し得なかつたこと、亞米利加の慰安娛樂組織が非常に莫大な補助金を以て仕事をしてゐるといふこと、マルクス主義的企圖の一切、これが以前の獨逸に於けるにせよ、ボルシェヴィキーの露西亞に於けるにせよ、又西歐の工業諸國に於けるにせよ、全然失敗に歸したといふことを考へて來る時、此の事實は特に最も注目すべく又最も興味あるものではあるまいか。私は確信する、此の事實の報告が

「ナチス主義は正當なる道程の上にあり！」

といふ事を極めて雄辯に證明したものであるといふ事を。

第二章　KｄＦの機構と事業

以上によつてＫｄＦの目指す所と、その事業の輪廓とを知ることを得た我々は此處に進んでその機構と事業との詳細に就いて觀察の歩を進めやうと思ふ。

第一　組　織

創立始めの一九三三年から三四年に掛けての冬期間に於て設けられた組織は獨逸勞働戰線或はナチスの黨組織と相應じて、三十一の大管區、約八百の小管區、約一萬八千の地方班を包含し、これに更らに七萬八千餘の經營監視部が附加されてゐる。然るに第二年の經過中に漸次夫等の形態が整備して、遂に大管區三二、小管區七七一、地方班一五、〇五一及び同數の地方班監視部、而して經營監視部五六、八〇六といふ數に確定したのである。[1]

此等の組織に働く役員は總計約七萬五千人を算するが、其の大部分は名譽職として働いて居り、

1) 前章所載 R. Ley の報告演説參照 (59頁)

獨逸勞働戰線の役員の兼務といふ場合が多い。而して有給の職員は僅かに二千五百人位に過ぎないのである。

ＫｄＦへの入會は獨逸勞働戰線への入會と同樣に各人の自由に任されてゐるが、獨逸勞働戰線へ入會すれば、當然ＫｄＦの會員となるのである。これは既に掲げた一九三四年十月二十四日の總統令の第八條第一項によつて當然そうなつてゐるのである。[1] 此のやうにしてＫｄＦの本會員は獨逸勞働戰線の會員から成つてゐるが、その外に贊助會員[2]として商社、協會、團體、都市、個人等も之れに參加することが出來ることになつてゐる。

管理及び財政の技術の方面では、ＫｄＦは獨逸勞働戰線から或る程度まで獨立してはゐるが、その指導部の構成は同一役員によつて成されてゐる。

ＫｄＦの經費は主として獨逸勞働戰線の補助金に據つてゐるが、其の額はライの報告に依れば第一年（一九三三―三四年）には二千四百萬マルク、第二年（一九三四―三五年）には一千七百萬マルクであつた。[3] そしてライは第三年度に於ては自給自足するやうになるであらうと期待してはゐるが、實際は第三年度に於ても尙ほ前年度と大差なき補助金を仰いでゐるやうに思はれる。然し其の活動に至つては非常な差があるのであつて、殆んど同額の補助金を以てして驚くべき成

1）　9 頁參照　　2）　unterstützende Mitglieder
3）　前揭 KdF. 第二周年記念大會に於ける Ley の報告參照（60頁）

果を上げ得てゐるのである。

第二　事　業

ＫｄＦはその内部組織として次の如き專門的組織を持つてゐる。

スポーツ局 (Sportamt)

旅　行　局 (Amt für Reisen, Wandern und Urlaub)

慰安娯樂局 (Amt Feierabend)

社會教育事業局 (Amt „Deutsches Volksbildungswerk”)

勞働の美局 (Amt „Schönheit der Arbeit”)

此の五つの局が行つてゐる事業範圍とその目標とに就いては特に說明を要しない所であると思はれるのであるが、右の中旅行局以下の諸事業のそれに就いてはワルテル・オールガルトの「獨逸勞働戰線の文化事業」[1]と題する一文が最も簡潔にこれを叙述してゐると思はるゝが故に、左に之を紹介しやうと思ふ。

「『歡による力』といふＫｄＦの名が既にその活動範圍の輪廓を描いてゐる。

1) Walter Ohrgart, Die Kulturarbeit der Deutschen Arbeitsfront.—„Arbeitertum” 1937, 7. Jahrg. 16. Folge)

其の第一の事業は工場や事務室にゐる國民同胞をその單調にして歡びに乏しい生活の鈍磨から引き出して、旅行と遊歴とで、獨逸の地方の心靈と農圃に立つ獨逸の兄弟の顔を彼等に示し、殊に「獨逸」といふ偉大な體驗を彼等に仲介することにあつた。健全な精神は唯だ健全なる肉體にのみ宿り得るものであるといふことの認識から此の施設は幾百萬の者に肉體的强化と休養への可能性を提供するのである。

清潔にして明朗な作業場では創作の喜びは高められるものであるといふ經驗から、作業場を出來るだけ美化するといふ責務が生ずるのである。

然しながらＫｄＦの最高の努力の所期する所のものは、各個人の内に新しく强い生活感情及び協同感情を覺醒することとこれである。

此の多様な課題を解き得べきものは、他の機構と相併んでＫｄＦの中にある「慰安娯樂局」と「獨逸社會教育事業局」とである。その十分なる成果を詳細に此處に數へ來ることは到底不可能な事ではあるが、極く簡單に一瞥を與へた丈けでも已に、此の部門に不斷の努力と明解な目標の下に仕事が進められてゐることを證し得るだろうと思ふ。

勞働者の餘暇を協同的に慰安するといふ任務を擔つてゐる「慰安娯樂局」によつて約一千五

百萬人に演劇の玄妙な世界が開かれたのであつて、此の一事實こそは我が國の文化史に始めて記錄され得るものであり、『國民の演劇』といふ概念を凡ての點で正當付けてゐるのである。同樣にして演奏會生活の擴張も完成されたのであつて、殊に國立交響管絃樂團[1]を同局が手に入れて、大音樂家の音樂を完全な演奏で聞く機會を無數の獨逸の人々に供與することが出來たのである。

文化的慰安の新しい種類の手段として青年演奏會[2]と工場演奏會[3]とが採り入れられたが、これは經營の中へ敬虔と愉悅とを齎らすものである。キャバレーやヴァリエテの如き催し物は今日迄に約二千萬の勞働者に日々の急躁からの樂しい解放を贈つた。同じく全く新しい藝術家と國民との結合として、工場や經營の中に美術展覽會が催されたが、約三年前には大膽な最初の企であつたものが、今日では常設的な藝術教育上の一手段となつてしまつてゐる。

此の慰安娛樂局は特に眞面目に勞働者を獨逸の民俗及び習俗に近付かしめ、それを有意義に完成させて行く意欲を燃え立たすことを已が任務と感じて來た。休日及び祭典の意味は傳承の慣習から讀み取られて、――それは多くの場合、ヒットラー・ユーゲントと相提携してゞはあるが――自ら作つた謡歌團、音樂團、素人劇團、假裝舞踏團によつて、新しい形式が獨自の力

1) Reichs-Symphonieorchester　3) Werkkonzert
2) Jugendkonzert

で發展させられた。工場歌謠、國民歌謠、全國歌謠週間、これ等は獨逸國民に特に與へられてゐる誦歌才能が如何に保護されて、國民歌を心から欣求する念にまで昂揚されたかを示す新しい概念なのである。愉悅と歌とが經營の中には入り込んだといふ事實に立ち優つて一層明らかに最近年の變化を示し得るものが他にあり得るだろうか。

全國農民指導官ダッレ[1)]と全國指導官ライ博士との間の農村の文化的慰安に關する協定が出來て以來、此の課題には特別な注意が支拂はれて來た。氣散じや享樂ではなくて、自己本來のものと習俗とに對する歡喜、都會の引き寫しではなくて、自己省察。簡易にして健康的に恒常的なるもの、それがその目標なのである。農村協同體の夕べは將來此の態度を明らかに表現することであらう。

文化的保護の新しい特徵的な道具と目すべきものは慰案娛樂局の「國營自動車道路に對する特別事業」である。これに課せられてゐる任務は勞働者協同營舍[2)]及び其他國內で公共的工事の際に作られる凡べての宿舍の爲めの娛樂的慰安なのである。國家の新しい交通技術的機構を創り出すことに此處で參與してゐるその人々は皆、最前衞に立つては居るが然し決して其の持場は忘却されてゐるのではないといふ事の明らかな證明を與へてゐるものは、一九三五年十一月

1) Darré
2) Arbeitergemeinschaftslager

以來國營自動車道路營舍を巡回して公演を行ひ、以てこの勞働する仲間を最も高い藝術的な提供物の協同心構成力によつて彼等の僚友精神を强めてゐる國營自動車道路舞臺[1]なのである。スポーツ用具、遊戲具、圖書、雜誌及びラジオが此の營舍居住者に出來る丈け多方面な方法で休息と保養と興奮とを提供せんとする努力を擧けてゐる。

謂はゞ慰安娛樂局の此の事業の補助といふ形式で、獨逸社會教育事業局が一般教養の仕事に從事してゐる。獨逸勞働戰線の長ローベルト・ライ博士は此の局の崇高な任務を述べて次の如く云つてゐる。卽ち獨逸の頭腦勞働者及び筋肉勞働者に『ナチス世界觀の法則を言葉と文書とにて仲介し、彼に天賦の創造的素質を展開せしめ、以て彼を形成力として第三帝國の眞箇の國民文化の發展の中に挿入する』にあると。二百以上の社會教育所[2]が此の任務遂行の爲めに働いて居り、有能な人々が勞働に從事する同胞をナチス主義によつて新たな夜明けを見た時代の諸問題を通して指導してゐる。彼等は言葉や畫を以て、歷史と土地と民族とによつて指導し、我が文化と藝術の成果には自然的關係の存することを知らしめてゐる。而して外國語の習得及び一般に職業的能率增進の爲めの機會よりも更らに重要な事柄は繪畫、模型、唱歌、音樂等々、その何れを問題とするかは之を論ぜず、その性嚮を育て、その素質を愛に滿ちた專門的指導に

1) Reichsautobahn-Bühne
1) Volksbildungsstätte

よつて發展せしむる可能性なのである。獨逸社會教育事業は己れ自らへの勞作によつて獨逸國民の生活感情の向上に寄與せんと欲する一切の人口への呼び掛けなのである。」

以上の五個の局による事業の外に、特殊の事業が又KdFの中に同時に營まれてゐるのであるが、今其の中の主なるものを摘記すれば、

一、國防軍ホーム[1]——一九三六年にKdFの長官ライと國防軍元帥フォン・ブロムベルク[2]との間に協議が行はれて、其の結果としてKdFの中に「國防軍ホーム局[3]」を設置する事となつたのであるが、これは次の如き事業の內容を有してゐる。

1、四ケ年計畫を以て每年兵士の爲めの「KdFホーム[4]」二個の建設を爲すこと

2、國防軍の爲めに巡回舞臺を創設すること

3、組織的な方法を以て兵士の間にある文化創造力を引き出すことによつて國防軍を支援すること

二、聾者に對する特殊施設——一九三九年には會員中特に聾者の爲めの施設として、

1、聾者の爲めの秋季祭及び冬季祭の開催

2、素人劇『テムペルホーフを襲つた雷雨[5]』の上演

1) Wehrmachtsheim　2) Generalfeldmarschall von Blomberg
3) Amt Wehrmachtsheime　4) „Kraft-durch-Freude"-Heim
5) „Gewitter über Tempelhof"

を行つてゐる。

第三　工場突擊隊

一九三四年十一月にKdF會員中十八歳より二十五歳までの優良なる青年勞働者を以て、各經營内に「工場突擊隊」[1]を組織することゝなつた。これは各經營内部の有志より成るものであつて、確乎たるブロック形成して、一つには恐慌期に際しても細胞長及びブロック長と相共に協同精神の擁護を爲すと共に、二つにはナチス世界觀に奉仕するを其の任務とするものであつて、其の仕事としては工場呼集[2]、工場祝祭及び其他の催物等に際して率先して其の爲めに盡力し、以て其の施設の效果を十分ならしむる事が考へられてゐるのである。これは實に經營内に於ける獨逸勞働戰線の能動的推進部隊と稱することが出來る。ライは此の工場突擊隊に對して、『我々は不屈なる意志を有する闘爭的な人間を、歡喜に、從つて生命に教育せんとする。我々は闘爭が生活欲望であり、然かも闘爭に於ては常に捷利が續くべきであるといふ事を心得、且つ此の捷利の日を樂しむ人間を教育し度い』といふ大きな期待を懸けてゐるのである。

工場突擊隊の一隊は最少十五名から成り、平均人員は三十名乃至四十名である。一九三五年七

1) Werkschar
2) Betriebsappelle

月ハンブルクに於けるＫｄＦ第一回全國大會の席上ゴーデス[1]の報告する所に依れば、それまでに已に一千四百の突撃隊、總員約四萬人の組織を見たとの事である。而して一九三六年十一月のＫｄＦ創立記念大會にライによつて其の内部機構の完備と事業の組織化とが報告され、隊の數二千百五十、隊員總數九萬人と稱されたのであるが、いよ〳〵ナチス突撃隊との事業上及び組織上の協定によつて一九三七年末迄には一躍六十萬乃至七十萬の隊員を獲得せんとする準備態勢が整へられたと云つてゐる。然るに一九三七年一月に於ける獨逸勞働戰線全般に渉る中央事務局の機構改變の結果、此の工場突撃隊は從來のＫｄＦ下に於ける位置から拔擢されて、獨逸勞働戰線全體の主要事業部門の一つを爲す「獨逸勞働戰線工場突撃隊」を構成するに至つて、ＫｄＦの工場突撃隊は此處に發展的解消を遂げたのである。[2]

第四　大會及び記念祭

毎年十一月二十七日には、ＫｄＦの創立を記念して、全國に渉つて國民的祝祭を催すのであるが、特に伯林に於ては此の日大示威運動を催し、此の際に獨逸勞働戰線全國指揮官ライ博士は總統及び全國民に對して前年度に於ける事業の報告を爲すことゝなつて居る。

1) Gohdes
2) 11頁參照

共の第一回記念祭は一九三四年十一月二十七日伯林のAEGの機械大廣間で擧行されたし、第二回は一九三五年十一月二十七日伯林の國民座で行はれたが、此の際のライの報告は已に詳細に紹介した通りである。

一九三五年以降は毎年夏期に全國大會を催すことになつてゐる。開催地はハンブルクである。今、其の第一回全國大會の狀況を紹介して見やう。

第一回全國大會は七月六日（土）七日（日）の二日に渉つてハンブルクに開催されたが、其の第一日はニューヨーク・ハンブルク護謨製品會社の從業者團クラブ[1]で祝典が擧行された。祝典は全國指揮官ライの開會の辭に始まつて、全國職務指揮官ドレスラー・アンドレス[2]の「勞働と藝術」と題する講演があり、次いでKdF各局長の事業報告があつた。それが終つてライプチヒ織物市場附屬交響樂團[3]の演奏があり、最後にウィルヘルム・ガイエル作合唱劇『獨逸の歸鄕』[4]の初演を以て第一日の幕を閉ぢた。第二日は快晴の日曜を新設の動物園の廣場で國民祭を擧行した、入口にはキールの海軍砲兵部隊の軍樂隊が控えて輕快な曲が入場者を迎えてゐる。小臼砲の合圖で開式し、ライ、ドレスラー・アンドレスの簡單な式辭があつて直ちに餘興に入り、「國民が國民の爲めに演ずる」といふモットーに從つて萬事が執り行はれた。そしてカール・ハンネマン[5]の指導

1) Gefolgschaftshaus der New York-Hamburger Gummiwaren Compagnie 2) Dressler-Andress
3) Leipziger Gewandhaus-Orchester
4) Wilhelm Geier, Deutsche Heimkehr 5) Carl Hannemann

するロベダ合唱團[1]の五百人の歌手と共に全會衆が國民歌を歌つた時、フィンケンウェルダー、フィーランデン等いふ僻遠の地方から來た四百人の舞踊者が古風な獨逸ダンスを演じた時、與は正に最頂點に達した。そして陸上に水上に、次々と餘興の幕が展べられて、子供の遊園も設けられ、ポンチ芝居、子供ダンスが人氣を攫つた。そして夜の炬火ダンス、千五百餘の炬火に照らし出された踊る人々の樂しい姿、これで此の大會の幕が閉ぢられたのである。參會者實に十八萬人。

1) Lobeda

第三章　スポーツ局と其の事業

第一　ＫｄＦスポーツの目標と範圍

ライがＫｄＦ創立の頭初已に『ナチス國家は體育は我が國民生活を潑剌たらしめ、能率を增高せしむる無盡藏なる源泉と見てゐる。此の泉に勤勞同胞の何人をも赴かしめ得させやうとするのが獨逸勞働戰線の中にあるＫｄＦスポーツ局の任務なのである』と云つてゐるやうに、ＫｄＦは其のスポーツ局に多大の期待をかけ、それに十分の精力を傾蕩してゐる。然しながらスポーツ局の事業の目標は唯だ肉體的强化といふ事にだけ局限されてゐるのではなくて、實にライが一九三五年十一月の創立第二周年記念大會の報告演說中に述べてゐるやうに、それは體育を以て肉體を健康に清新に保つ手段なりと見る外に、更らに進んで心靈的精神的に健全なる內的發達への基礎なりと考へて、教育的人間教化的要因に特別の價値を置いてゐるのであるが[1]、此處に特に勤勞國

1) 41 頁參照

民に對するスポーツは特殊の意味を有し、從つて特異の範圍を占め、獨自の性質を備へて來なくてはならなくなる。此れに就いてカール・ロルヒは次のやうに叙べてゐる。[1]

「總統が國スポーツ局[2]を國內務大臣の管掌下に設立したのは漸く先頃の事である。しかしこれはスポーツ行政の全國的統一を所期するものなのであつて、體育思想を眞に一般化し、新しい獨逸人を創り出すといふ意味で效果ある實行は各種の組織機構に留保されてゐるのである。

軍隊に於ても、勞働奉仕（アルバイツディーンスト）に於ても、ヒットラー・ユーゲントに於ても、主な政治的組織體に於ても體育は肉體の强化及び品性の教育の手段として、古くから確乎たる地歩を占めてゐるのであつて、今、獨逸勞働戰線の領域に於ける體育の地位と意義とを考へて來やうとすれば、當然二つの側面を原則的に解明して置かなくてはならない。その二つとは、會員の肉體的强化の手段としての體育を營むことに就いての獨逸勞働戰線の權能と、此の目的への手段として適切なりと見られる體育の本質とである。

勤勞に從事する獨逸の人々の健康維持併びに肉體的强化と精神的心靈的豐饒化とに思念することを獨逸勞働戰線は權利と感ずるばかりか、寧ろ義務であるとさへも感じてゐる。此の義務の履行の爲めに使用し得る一切のものを利用することも極めて當然な事であつて、此處に體育

1) Karl Lorch, Warum Leibesübungen in der Deutschen Arbeitsfront?
—— „Arbeitertum" Juni-Heft, 1936

2) Reichssportamt

を以て夫れに最も好適なものと爲して、これを採用するに至つたことも亦、餘りにも自明の事柄と云はなくてはならぬ。

然し此の際、此處に云ふ體育といふものが傳來の意味でのスポーツとは異るといふ事を注意して置かなくてはならぬ。激しい競爭、練習、スマートな運動技巧、驚歎すべき成績記錄、大觀衆、センセーショナルな新聞報道、煩瑣極まる運動規則と云つたやうなものが從來のスポーツに就いては考へられてゐたのであるが、KdFの體育はそんなものには無頓着である。此處では樂しい僚友の間で、何等强制さるゝ所なく、跳ね廻つて、己が健康と生活歡喜を獲得するといふ意志を所有してゐるといふ事丈けが重要なことゝなつてゐる。

然し體育は又、一個不可思議なる方法である。それは人間を一つに、一個の協同體に結合させることが出來るのである。人間がその外的な殼を脫ぎ棄てゝパンツ一つになる時、彼等は皆、誰れ彼れの差別なしに全く同じに見える。其處には最早、金も地位も稱號も高位も效力がない。唯だあるものは爾汝の關係であり、仲間の間柄である。此處に一人は他人を人間として相識り、お互に了解し尊敬し合ふことを知るのである。跳躍の時、遊戲の際、協同が生ずる。かくして將來體育は協同心の養成を特に必要とする所の工場には益々力强く編入されることであらう。

かくしてどの大工場も各自の運動場、體操室、更らに各自の水泳場を所有するといふ日が來るであらう。その時には、働く人は餘暇を通して凡べて皆、その日の勞働から休養され、共に跳ね、共に戯れ、共に愉快になることであらう、全工場が事業主から下つては一番低い位置の徒弟の末に至るまでが。此の時にこそ始めて、體育はその本領を發揮し得るであらう。即ち全勤勞國民の生活力と生活歡喜との無盡藏の源泉であり、協同體の避難所であるといふその本領を。」

從つてKdFスポーツは色々の理由からしてスポーツに對して關心を有せず又は拒否的な態度をすら示してゐる多數の人々にスポーツに對する興味を喚起することに力むるのであつて、成績記錄に重きを置く體育協會やスポーツ協會の行き方とは全く異つて、游泳、漕艇、騎乘等を含んでゐる技術的練習や、遊戯體操のやうなスポーツ種類が特に推奬されてゐる。尤も拳鬪、テニス、ボロ、擊劍といふやうな成績スポーツも行はれてゐることは言ふまでもない。斯くしてKdFスポーツは獨逸の勤勞國民の全部をして之れに參加せしむることを主眼目としてゐるのであり、これを基準として適切なるスポーツ範圍が劃定されてゐるのである。

其の爲めに勤勞同胞の爲めのスポーツの全範圍に關する講習及び講座が盛んに開設されること

になつたのであるが、この施設を一層有效ならしめんが爲めに、斯かる講習に參加せんとする勤勞者に對して特に休暇を與ふべしといふ法律を發布するに至つたのである。これは一九三五年二月十五日附の「體育ヲ目的トスル使用人及勞働者ノ休暇ニ關スル法律」によつて、「獨逸國版圖內ニ於テ就業スル獨逸人男子勞働者又ハ使用人ハ何人モソノ企業主ノ申請ニ基キ認許ヲ得タル體育教程ニ參加スル爲メ休暇ヲ與ヘラルベシ」（第一條）と規定され、此の爲めの「休暇ハ規則ニヨリ使用人及勞働者ニ與ヘラルベキ正規ノ休暇ノ外ニ與ヘラルルモノ」（第三條）となつてゐる。そして同年三月十九日附の同法施行規則によつて、認許を經たる體育教程の參加者即ちスポーツ講習參加者が該講習期間中に教程主催者より宿泊、食事、衣服及び手當を給與さるゝ事が規定されてゐるが、其の他に更らに該教程參加者の家族扶助料までも規定されてある。（尤も此の家族扶助料支給の制度は一九三七年十一月十八日附の施行補遺令により改變されて、一九三六年三月十三日附「家族扶助法」及び「家族扶助規程」の基準に從つて必要なる生計を確保する爲めに補助金を受くることを得ることゝなつた。）

第二　ＫｄＦスポーツと國スポーツ指導部との關係

然るに此の勤勞國民の爲めのスポーツの一大機構の成立は獨逸國全體のスポーツ行政を統一的に司る國スポーツ指導部[1]との間に紛淆を來す惧があるやうに思はれたのであるが、これは已に前掲のロルヒの言の如くに、國スポーツ指導部の任務はスポーツ行政の全國的統一にあるのであつて、其の實行に至つてはこれを夫々各種の機構に任してゐるのである。故に其の間に些かの背馳矛盾の生ずべき理由はないのである。然かも國スポーツ指導官[2]たるフォン・チャンマー・ウント・オステン[3]をKdFスポーツ局長に任命して人的統一をさへ作り上げてゐる。斯くしてフォン・チャンマー・ウント・オステンはライの委任を受けて、一九三六年十二月十六日附を以てKdFスポーツ令を發布し、翌三七年七月に施行規則及補遺命令を發布して、勤勞者のスポーツに獨自の立場を賦與したのである。而して該命令は左の通りである。

「ナチス」協同體KdFノ「スポーツ」局ノ發展ト獨逸勞働戰線ノ範圍内ニ於テコレニ與ヘラレ居ル任務トハKdF「スポーツ」ト獨逸國體育聯盟[4]トノ新秩序ヲ必要トスル。獨逸勞働戰線指揮官國組織指導官「ドクトル・ライ」ノ委任ヲ受ケ國「スポーツ」指導官ハ此處ニKdF「スポーツ」局長トシテ左記各項ヲ規定ス

一、獨逸勞働戰線ノ職務範圍ニ於テ體育ニ對シ特ニ大ナル意義ヲ賦與スベキモノトス、從ツ

1) Reichssportführung
2) Reichssportführer　3) von Tschammer und Osten
4) Deutscher Reichsbund für Leibesübungen

テ經營ノ内部並ニ外部ニ於テ體育ハ促進サレ保護サルベキモノトス

二、獨逸勞働戰線内或ハ「ナチス」協同體KdF及コレト連繫セル諸團體内ノ全體育及「スポーツ」施設ノ擔當者ハ「ナチス」協同體KdFノ「スポーツ」局トス

三、「ナチス」協同體KdFノ「スポーツ」局ノ任務左ノ如シ

（イ）經營協同體内ニ於ケル最モ簡易ナル基本形式ヨリ競技ニ至ル體育ノ助成、競技ハ除外的ニ獨逸國體育聯盟ノ範圍内ニテソノ規定ニ準ジテ行ハルベシ

（ロ）一般體錬並ニ各個「スポーツ」種目ノ一切ニ對スル各人ニ聽講許可サル、公開併ニ非公開ノ講習或ハ教程ノ開催

（ハ）本協定ニ基ク編成及其他ノ組織ノ爲メノ「スポーツ」講習ノ實施

四、從ツテ地方住民ノ肉體的强化ニ關シテハ特別ナル指示ヲ行フ、重複紛淆ヲ回避センガ爲メニ問題トナル地方ニツキテハ已ニ事業協同ノ組織ヲ作製シツ、アリ

フォン・チャンマー・ウント・オステン（署名）

此の命令に依り、工場スポーツの事業は今日では一般的な體育といふ事を超えて、その諸條件が具備してゐる場合には、競技までも行ひ得るまでに完成させることが出來るやうになつてゐる。

しかし分裂を防がんが爲めに、競技は獨逸國體育聯盟と共同で行はれることゝなつて居るのであつて、此の新構成の根本思想は一切の國民同胞をしてます〳〵スポーツに參與せしめんとするにあるのである。

斯くしてチャンマー・ウント・オステンは「新獨逸國家體系[1]」の中に次の如くにのべてゐる。「獨逸國體育聯盟（DRL）は其の成立の頭初に於ては、先づ既に體育を營んでゐる者のみを包容したのであるが、然し國スポーツ指導官に特に課されてゐる任務は全獨逸國民を體育に指導するといふ事である。

此の目標への到達は二側面より行はれたのであつて、其の一つは勤勞者の爲めにスポーツを工場内に送り込んだことによつて（KdFスポーツ局—同局長は卽ち國スポーツ指導官）、其の一は全獨逸靑少年を規則的なるスポーツ運營に義務付けたことによつてゞある（獨逸靑少年敎育最高官廳内に於ける全獨逸靑少年體育受任者は卽ち國スポーツ指導官）。此の二個の事業の極致は肉體的鍛錬に對する歡喜を喚起し強化し且つ肉體の歡びを知り得たものを元氣あるスポーツ僚友として獨逸國體育聯盟中に導き入るゝに至つて極まるものと云はなくてはならぬ。」

1) Grundlagen, Aufbau und Wirtschaftsordnung des nationalsozialistischen Staates



チューリンゲンに於けるKdFスキー隊

第三　スポーツ局の事業

スポーツ局の事業は前掲のチャンマー・ウント・オステンのＫｄＦスポーツ令の第三條の規定に準じて實施されるものなのであつて、それには次の如きものがある。

一、工場スポーツ[1]の指導及び助成

同スポーツ令第三條イにより、經營協同體內に於ける最も簡易な基本形式より進んでは競技にまでも達する各種のスポーツ施設及び運營の指導及び助成を爲すものである。

抑々工場スポーツの目的とする所は、これを總括すれば、(一)國民健康の促進、(二)作業年齡の引上げと作業能率の增高、(三)經營協同體の助成、(四)有能なるスポーツ後進者の養成にあるのであるが、それは實に次に述べるやうな道程を經て、其の眞價を發揮し來るのである。

「一經營の從業者團がスポーツに於て著しい促進を示して競技にも參加することが出來る位になれば、それに關係のメンバーは競技協同體を結成するのであり、此の場合には經營監理官は事業經營主との了解の下に競技協同體の指揮者を任命する。故に經營協同體からスポーツ協同體が生ずるのであり、更らに此處に於て有能なるものは競技協同體へも加入することが出來る

1) Betriebssport

のである。但し此の競技協同體は何處までも工場スポーツ協同體の一部に止まつてゐなくてはならぬ。

此の目標に到達せんが爲めには、尙ほ多數の事を行はなくてはならぬことは言ふ迄もない。多くの練習場を建てねばならず、多數の指揮者も養成せねばならない。しかしどの勞働者にも、どの事業經營者にも大切な事は、工場スポーツを一般的基本形式から競技にまで到らしめやうとする要求を滿足せしむべきであるといふ事なのである。

體錬は他に何等肉體的勞働を爲さぬ人々に對してのみ大きな健康上の意味があるばかりでなしに、寧ろ單調な仕事に一方的に片寄つて從事しなくてはならぬやうな人々にそれが有效であるといふ認識が一般の國民層の間に行き渉るやうになつたことは實にＫｄＦスポーツ局の不斷の宣傳事業の偉大なる效果であつた。

然し此れ以上に更らにＫｄＦの運動は、一切の事物は物質的な側面から見られ得べきものでなく、一切の要求は唯だ物質的必要によつてのみ顧慮さるべきでないといふ事を獨逸の勤勞者に示したのである。故に我々が工場スポーツをやるのも、それは唯だ單に我々を健康に保たんが爲めといふ丈けではなくて、我々を歡ばしめるが爲めといふにあるのである。即ち我々が工

場スポーツのコースに赴くのは、肉體運動と共處で示さるゝ遊戲とが我々に歡喜と眞の休養を意味するからなのである。斯くて我々の工場スポーツは我々の疲れ切つた勢力を新たに滿たして呉れる力の源泉なのである。

獨逸の事業經營者が何れも此の觀點に從つて工場スポーツを計畫せんことを望むのである。そして彼が此等の事柄では先づ以て費用計算を全然忘れて、惜げもなくその經營協同體にスポーツを導入することを得させるやうにされんことを切望する。これが實現された曉には、それに對して十分な報酬が爲されるであらう。彼は己が經營の中に、愉快な心に滿ちて肉體的に潑刺として大いに働くに堪ゆる勞働者を有することが出來るやうになるであらう。彼は健全なる肉體運動を好む性向が經營に於ける健全なる見解をも創り出す所の人々が已れの四邊にあることを知るやうになるであらう。

KdFスポーツ局は最初からスポーツ嫌ひの人間に目を着け、その宣傳の主なる眼目を此等の人々に向けたのである。そして絶大な效果を擧げ得たのである。

今や此處に、此の方向への大なる一歩が踏み出されたのである。而して今は尚ほ第一の細胞たる工場スポーツ協同體の建設に從事してはゐるが、やがて最初の經營內に於ける競技協同體

の構成せらるゝの日も餘りに遠い事ではないであらう。従業者團の成員が二百人以上の經營に於ては、何れもこれが生じ得ることは明らかである。其の時にこそ、現代の最大の社會的要求の一つが滿たされるやうになるであらう。そして肉體的に有能にして性格的に健全なる勤勞する國民が機械の傍に、事務室の内に働くやうになるであらう！[1]」

此のやうな意義を高く掲げて發足した工場スポーツ普及徹底の運動は遂に熟して、一九三七年の夏を期して全國的な工場スポーツの大示威運動を行ふことになつたのである。これは伯林のＡＥＧ工場に於ける一萬人の從業者團による大示威運動を先頭として、同時に五十の小管區に構成されてゐた二千八百の工場スポーツ協同體によつて同様の示威運動が全國的に行はれたのである。今、伯林に於けるその概況を叙述するならば、次の如くである。

此の日、カナダ首相マッケンヂー・キングを主賓とした多數の來賓の外に、ナチス黨及び多數の國家代表者の臨席の下に、ＡＥＧの經營監理官ザイフェルト[2]が開會を宣し、次いでＡＥＧ工場の事業經營者樞密顧問官ビューヒェル博士[3]は立つて、此の日はＫｄＦスポーツ局の歴史に於ける特別な境界石となるであらうと冒頭して、次いで

「經營内の一切の人々を慰安しやうといふ獨逸勞働戰線の强調してゐる要求は此の工場スポー

1) Wilhelm Schnauck, Sport im Betrieb. („Arbeitertum" Februar-Zweites Nummer, 1937)
2) Seifert　3) Geheimrat Dr. Bücher

ッ協同體の布告を以て完結を見るべきである。經營內にある人々にとつては、それが職場に働くものと、事務室に働くものとを問はず、その餘暇が心身の休養に役立つやうに構成されてゐるといふ事に特別な意味があるのである」

と述べたが、之れを受けて、國スポーツ指導官フォン・チャンマー・ウント・オステンは全獨逸に於ける體育の領野に於ける工場スポーツ協同體の地位に就いて述べ、工場スポーツ協同體の設置はこれまでの發達の論理的歸結であると論じ、更らに語を繼いで、

「獨逸には已に多數の工場スポーツ協會[1]があり、工場の位置やスポーツ愛好の度の如何によつて、或は多數の或は少數の同胞を包容してゐたのであるが、之れを勤勞に從事する人々の大衆と比較すれば、其の總數は僅少なものであつた。此處でKdFスポーツ局の組織が實際に效果あるものであるといふ事を强調し度い。云々」

と云つてゐる。そして最後にライは、我々の有する最も尊い寶は我々の民族と我々の血であるといふ事から說き起して、

「我々の幸福、我々の事業場、工場、都會と農村、我々のパンと我々の生存能力はそれから生ずる。我々の欲するのは、人間を唯だ健康にして行かうといふ丈けではなくて、それを又若く

1) Firmensportverein

緊張力を持たしめて行き度いといふ所にある。總統が曾て私に委任してから云つた『自分は此の國民が力を有するといふ事を欲する。何となれば余が一切の事業、余が政策は、國民にして余と行を共にせずその爲めの力を所有せざる場合には、無意味となり終るであらうからである』と。此の力は唯だ歡喜からのみ來るのである。肉體と精神と心靈と、それ等は我々に於ては一の統一體であり、結ぼれて解けざるものなのである。人もし健全なる心靈と清新なる精神とを有せんと欲せば、健康なる肉體に就いても亦顧慮せねばならぬ。故にスポーツと體育とが同じくKdFのものでなくてはならぬ。……工場スポーツは協同スポーツである。かくて協同體がこれから益々構成されて行く。此處に凡べての人々が行動を共にする、上は事業經營者から下は徒弟に至るまで。そして凡べての種類のスポーツが營まれる。此のやうにしてどの工場にも工場スポーツ協同體が設置されるであらう。而して工場突擊隊が經營協同體の中核であるやうに、工場突擊隊が又此の思想の擔當者であり、又あらねばならぬであらう。命令でもなければ、法律でもなく、賃率契約でもなければ、階級團體でも、勞働組合でも、勞働者團體でもない。歡喜の思想に滿ち、共同名譽の思想が脈打ち通した禮讓と人間の忠誠とに徹した經營協同體、此等一切のものが集つて新しい獨逸を齎らすのであり、力と業績とを與ふるものである」

と喝破した。斯くして總統萬歳を唱へ、國歌を合唱し、百五十の運動旗と工場旗とを先頭に大示威運動を展開したのである。

倘ほ翌一九三八年のハンブルク全國大會に際しては、國スポーツ指導官チャンマー・ウント・オステンの提案に基いて、工場スポーツ呼集[1]をライの名によつて布告して、極めて好成績を上げ得たのである。

二、農村スポーツの施設及び助成

スポーツ令第四條によつて、地方住民のための肉體的强化に就いては特別なる施設とこれが助成を行ふ事となつたのである。

抑々農村にスポーツを行き渉らせやうとする思想には種々の根據があつて、これには先づ第一に農村民の肉體的に激しい勞働がスポーツによる均衡を大いに必要としてゐるといふ事があるが、第二には國民保健的、從つて同時に民族政策的な要求があるのである。國農業指導官はその演説に於て、二三大管區に於ては農村青少年の總體的體位は七五％まで劣惡であると强調した。此處に最大火急に此等青少年の爲めに、健全なる發達への前提條件を供與する爲めの適當な處置が講じられなくてはならぬことゝなるのである。

1) Betriebssportappelle

唯だ此の際、農村にスポーツを徹底させるに當つて逢着する困難には多數あるが、その中にあつて農村民を規則的なスポーツの實行に動員する事の甚だ困難なる事情の如き其の最たるものであらう。實に農村民が散在して居住してゐるといふ事によつて、其の交通狀態が工業中心地や住宅地區に於けるそれに比して遙かに不利な狀態にあるといふ事は注意せねばならぬ事柄である。

ＫｄＦスポーツ局は一九三四年以來農村スポーツの講習を實施してゐるが、それへの參加者の數は絕えず增加を示してゐる。そして今日では國榮養職團[1]と國體育聯盟と共同して一切の力が動員されて居るが、將來に於ては農村スポーツは著しい促進を見るであらうことが豫想されてゐる。

農村に於けるスポーツの徹底と密接に關係してゐるものは體操場の問題であるが、これに就いてはその解決に十分の努力が支拂はれてゐる。農村には一般に自然の體育設備はあることはあるが、技術的に整頓した設備は都會に比して使用し得るものが少い。然し國食糧大臣ダッレとゲッベルス及び國青少年指導官バルドゥール・フォン・シーラッハ[2]が揃ひも揃つて痛切に必要だとしてゐるものは水泳場なのである。古くからの農民のスポーツである此の水泳ほど農民の勞働の慰藉に役立つものは他に類が無いのであつて、このスポーツを助成することが重要である。しかもその爲めには、小河とか川とかゞあれば、極く僅かの費用を以て足りるのである。

1) Reichsnährstand
2) Baldur von Schirach



スキーの基本練習を爲すKdF會員

然し今日では、農民の間にスポーツに對する障碍や臆斷が取り除かれて、已に體育の道に就いてゐる人々と事を共にしようとする氣持が生ずることが最大緊急事なのであつて、此の方面への啓蒙が第一に取り上げらるべきである。

三、講習の開催

スポーツ令第三條ロに基いて、スポーツの全範圍に渉り初心者の爲めと既習者の爲めとの講習を全國各地に頻度に擧行してゐる。此のスポーツの種類も決して單なる素人向きのものばかりでなく、各種の競技はもとより、スキー、スケートの如き冬期スポーツの各種、射擊、自動車操縱、漕艇、帆走、滑空の如きにまでも及んでゐる。今一例として帆走スポーツの講習を擧ぐれば、左の樣である。

帆走スポーツと云つたやうな從來は金持ちの有閑階級の專有物と目されてゐたスポーツが、今日では勞働者の前にも自由に提供されるやうになる爲めに、此の爲めの講習が行はれることゝなつてゐる。これは二つに分れてゐて、其の一つは遠洋帆走であり、其の二は內國帆走であるが、遠洋帆走の希望者は最寄りのＫｄＦ事務局で遠洋帆走講習の申込をするし、內國帆走の希望者はシュタインブートト海[1]又はアムメルゼー[2]のＫｄＦ帆走學校の講習に直接申込めばよいのである。そ

1) Steinbuder See　　2) Ammersee

して八日間の講習で立派な帆走者に仕込まれるのである。

又スポーツ令第三條ハに基いて、スポーツの指導員の養成の爲めの講習も盛んに行はれるのであつて、國境地方の如き僻遠な地域にまでもスポーツを行き渉らせやうが爲めに、全國に於ける各地方班のスポーツ局の役員が村から村、町から町へと巡回して、農村スポーツ監視員及び工場スポーツ監視員の爲めに八日間講習を開催してゐる。

此の講習の爲めにスポーツ教師には十分な素養のある教師が採用されてゐるが、ナチス政權確立以前の失業時代に職を失つてゐた體操及びスポーツの教師の一千人が一九三四年末には採用されて職を得たのであるし、一九三五年末には一千五百人を、一九三六年末には二千八百人を算することになつた。

四、其他の事業

1、スポーツ用具の調達——スポーツ參加者の爲めに良質のスポーツ用具を低廉の價額で容易に入手し得るやう努めてゐる。

2、スポーツ醫學相談所

3、不具癈疾者スポーツの施設

4、スポーツ休暇寮の設置[1]——スポーツ休暇者の爲めに、左記七ケ所にスポーツ休暇寮が設けられてゐる。

上部ファルツ森のロッスホーフ (Rosshof)
マルク地方のベルチッヒ (Belzig i. d. Mark)
ライン河畔のブライザッハ (Breisach a. Rhein)
ラーン河畔のフォイディンゲン (Feudingen a. d. Lahn)
アルゴイのイスニー・グロースホルツロイテ (Isny-Grssholzleute i. Allgäu)
タウベル川彼岸のローテンブルク (Rothenburg o. d. Tauber)
ハールツ山腹のウェルニゲローデ (Wernigerode a. Harz)

第四　事業成績

スポーツ局は一九三四年四月に始めて其の事業を開始したが、其後の發展にはまことに驚歎すべきものがある。今、左に大會報告中より其の成績を摘記して、其の概要を紹介しようと思ふ。

一九三五年第二回創立記念大會に於けるライの第二年度報告

1) Sporturlaubheim

	一九三三—三四年	一九三四—三五年
講習會開催度數	八、五〇〇回	四八、五〇〇回
練習の夕べ 〃	五五、〇〇〇回	一九〇、〇〇〇回
參加者	四五〇、〇〇〇人	三、〇三四、六八七人

但し一九三三—三四年は一九三四年四月一日より十月三十一日迄の結果なるが、これは此の期間に於て初めて實際の事業が開始された爲めである。

此の參加者をスポーツ種目によつて分てば、左の如くである。

	一九三三—三四年	一九三四—三五年
水泳	一七〇、〇〇〇人	九〇五、〇〇〇人
遊戯的體操	七〇、〇〇〇人	七八五、〇〇〇人
一般體操	五五、〇〇〇人	三八〇、〇〇〇人
國スポーツ章[1]受領者	三五、〇〇〇人	一三〇、〇〇〇人

水泳講習の參加者の大部分は水泳の心得なき者であつて、初歩の授業に參加して自由に泳ぐことが出來るやうになつた。

1) Reichssportabzeichen

一九三四―三五年度に新たに教程に編入されたものは、兒童體操（これまでの參加者四三、五〇〇人）、スキー準備講習（參加者八〇、〇〇〇人）、老年者の爲めの講習、自轉車乘り、短銃射擊、國民舞踏[1]、ゴルフ、突擊隊スポーツ賞[2]。

昨年は更らに不具癈疾者の爲めの講習併びにスポーツ醫學相談所の開始を見たが、此の兩者は今日ではスポーツ局の計畫中には離すべからざるものとなつてしまつてゐる。

特に喜ばしい事は遠洋帆走の希望が殺到して、その申込の大部分を斷らなくてはならなかつた程であつたといふ事である。それで來夏には「ユッタ」「エディート」の帆走スクーナーの外に、尙ほ他の多數の船を使用して、一九三六年の四月にはKdF陸上會員を伴つて航海を開始し、それで夏中に前年度よりは遙かに大きな行動半徑を有する一週間或は二週間の航行をしようと計畫してゐる。

凡べての大經營の內に設けられた工場スポーツ募集監所[3]の不屈の努力によつて、昨年中にスポーツ局の冊子等を迅速に頒布したり、經營內にあるスポーツ關係方面との密接な關係が作られたりした。

費用としては、

1) Volkstanz 2) SA-Sportabzeichen
3) Betriebssportwerbewarte

	一九三三―三四年	一九三四―三五年
用具及び教材費	六、〇〇〇マルク	七五、〇〇〇マルク
教場賃借料	四四、〇〇〇	四一〇、〇〇〇
講師謝禮	一一〇、〇〇〇	八九〇、〇〇〇

此の講師謝禮の八十九萬マルクは先頃まで非常な悲境に苦しんでゐた體操教師やスポーツ教師に規則的な收入の源泉を提供してゐるものといへる。

此の冬には旅行局と共同で、獨逸の冬のスポーツに最も好適な地方でスキー教程を開講しようとしてゐる。これには三萬五千人が參加することになつてゐる。その爲めにスキー、長靴及び雪杖から成るKdFスキー裝具三萬組が一組三十五マルクで希望者を待つてゐる。

來夏の計畫としては一般體操をなす爲めの外に、滑空訓練講習に參加し得るやうなスポーツ營舍の建設がある。

一九三六年第三回創立記念大會に於けるライの第三年度事業報告

スポーツ講習に昨年度は三百萬人の參加者を算したのに、本年度に於ては講習開催度數二十七萬五千三百七回にして、其の參加者五百八十八萬人を教へたのであつて、正に二倍を示してゐる。

國家試驗を卒へて主業的に之れに從事してゐるスポーツ教師の數は前年度の一千五百人に對して本年度は二千八百人を算す。

經營協同體に對して體育の有する大きな意味を認めて、多數の經營では已に自營のスポーツ場を建設しようとするに至つた。そして多數の水泳場、スポーツ場、遊戯場、體操ホールがこのやうにして出來たのであるが、尙ほ其他の工場スポーツ設備の建設を促進させる爲めに全力を傾倒しよう。そして遂には大經營は何れも、體操ホールにせよ、水泳場にせよ、グリーンにせよ、とに角一つの練習場を夫々所有する位にならなくてはならない。

今年春に、最初のKdFスポーツ夏季營舍と帆走スポーツ學校が開設され、滑空者營舍の開設も目前に迫つてゐる。

一九三七年第四回創立記念大會の事業報告

一九三七年七月以降五千の工場スポーツ協同體が作られた。

工場スポーツにも競爭意識を挿入することゝなり、一工場スポーツ協同體內や、更に進んでは經營對經營といふ基礎で、通俗的な團體選手競技[1]を行ふ計畫がある。この團體競技は幅跳、高跳、リレー、小口徑銃射擊等から成つてゐる。本年度工場スポーツ參加者總數約七百萬人。

1) Mannschafts-Mehrkampf

本年度特に注目を引くものは帆走スポーツであつて、これまでは丁抹の諸島か南部スウェーデンへの精々二週間行程の帆走航行をしかしてゐなかつたのが、將來は三週間に亙る旅程が計畫されて、其の目的地はストックホルム、東部スウェーデン、オスロ、ゴットラント、ピラウ、ダンチヒから更らにシタヴァンゲル・フョルドにまでも及ぼうとしてゐる。

スポーツ休暇の設備としてはザウエルラントのフォイディンゲン、ウュルテンベルクのグロースホルツロイテ、マルクのブライザッハと同上のベルチッヒの四ケ所がある。此の四ケ所のホームとも皆、非常な景勝の地にあつて、凡べての方面のスポーツ（水上スポーツにも亦）に適してゐる。尙ほ注意して置き度い事は此のスポーツ休暇で國スポーツ章が賦與され得るといふ事である。

KdF休暇者の中に海のスポーツの愛好者がぐん〱と增してゐるのであつて、どの海水浴場にも十分にスポーツ教師が配屬されてゐる。

一九三九年第五回ハンブルク全國大會に於ける報告

工場スポーツ呼集に應じた者、一九三八年には年齡十八歲乃至五十五歲の從業者百五十萬人を有する一萬經營であつたが、一九三九年には一層增加する事であらう。

工場スポーツ協同體の數は一九三九年には一九三八年の五千に對して一萬四千に增加し、KdFスポーツの參加者數は工場スポーツの參加者を加ふる時は、一九三九年の前半年中に一千三百五十萬人を算してゐる。これを一九三七年全年の九百六十萬人、一九三八年全年の二千二百五十萬に比すれば、その增加の著しいものがあり、かゝる凄まじいスポーツ擴大運動は七萬人のスポーツ監視員[1]の養成を必要とするに至つた。

1) Sportwarte

第四章　旅行局と其の事業

第一　休暇制度と旅行局の任務

勞働は賦役に非ず、賃銀は勞働の對價ではなく、勞働は人格の流露であり、賃銀は賃銀袋の內容を超越した理念的要因を含んでゐるといふナチス勞働觀に基いて、勤勞階級の物質的併に精神的生活基準への社會問題がナチス政權確立後直ちに取りあげられて、其處に勤勞者の精神力及び肉體力の囘復更新を目的とする休暇の問題が展開さるゝに至つた。

斯くて獨逸勞働戰線はその頭初から此の問題を捉へたのであり、いよ〳〵其の實際的な仕事に着手するや、一般的な觀點から休暇規定を設定すべしとの問題を取り上げたのであるが、國政府は此の要望に應じて此の問題の解決を勞働管理官[1]に委ねた。然るに獨逸勞働戰線の經濟界に於ける活躍はまことに素晴らしいものがあり、殆んど凡べての職業部門に於て實際上休暇規定が行は

1) Treuhänder der Arbeit

れるやうになつたのであつて、先づ俸給者の間では以前からこの休暇には好都合の狀態に置かれてゐたが、これが漸次筋肉勞働者にまでも適用されるやうになり、しかもそれは成年勞働者のみならず徒弟及び少年勞働者に對しても顧慮されるやうになつた。そればかりか、此の有給休暇の規定は遂に筋肉勞働者中最も劣惡な狀況に置かれてゐる家內勞働者にまでも及んで、遂には此の家內勞働者及び單獨に働きもしくは家族員又は二人を超えない助手を相手に働いてゐる家內工業者も相當の補償を得て年六日の休暇を得る權利を得るに至つたのである。今、此の間の實狀を最も直截に示し、且つ此の問題に關して示された一般的方向を推知し得る資料として、一九三四年七月に規定されたラインラント經濟區勞働管理官の賃率規則を左に掲げようと思ふ。

ラインラント經濟區勞働管理官賃率規則

一九三四年一月二十日付國民勞働統制法[1]第三十二條第二項ニ基キ專門家委員會ノ答申ニ從ヒ小官所管「ラインラント」勞働管理官管區全範域ニ對スル休暇ニ關シ左ノ賃率規則ヲ發布ス

第一條　十八歲以上ノ獨逸國民ハ男女ヲ問ハズ一經營協同體ニ六ケ月間ノ所屬後ハ一年少クトモ六勞働日ノ基本休暇[2]ヲ得ルモノトス、該休暇ハ連續シテ得ラルヽヲ原則トシ專ラ休養卽チ勞働力ノ維持ニ使用サルベキモノトス、此ノ目的ヲ到達センガ爲メ休暇受領者ハ何レモ彼ノ

1) das Gesetz zur Ordnung der nationalen Arbeit
2) Grundurlaub

所屬經營ヨリ休暇取得前ニ六勞働日ノ平均時間賃銀又ハ業績賃銀ニ相當スル額ノ前拂ヲ受クルモノトス、疑義ノ存スル場合ニハ休暇開始前最後ノ六賃銀週間ノ平均時間利得ニ準據スルモノトス、短縮勞働時間ニテ操業サレ居ル經營ニアリテハ短縮セザル正規勞働時間ヲ以テ基準トスベシ

第二條　十四歳乃至十八歳ノ獨逸國民ハ男女ヲ問ハズ一經營協同體ニ六ケ月間ノ所屬後ハ毎年基本休暇ヲ得ルモノトス、該休暇ハ連續シテ得ラルルヲ原則トシ專ラ休養卽チ健康ノ保持促進ニ使用サルベク其ノ段階左ノ如シ

十五及十六歳ノ者　十八勞働日

十七歳ノ者　十二勞働日

十八歳ノ者　九勞働日

休暇手當ハ第一條ト同一觀點ニ從ツテ支給ス

第三條　六ケ月ノ服務前ニ過失ナク且ツ正規ノ手續ヲ經テ其ノ職ヲ去ル勞働者ハ其ノ服務ノ一個月ニツキ其ノ年齢ニ依リ認メラレ居ル基本休暇ノ十二分ノ一ヲ得ルモノトシ該休暇ハ勞働契約存續期間內若ハ解約豫告期間內ニ得ベキモノトス

第四條　休暇及休暇手當ノ請求權ハ値切ルコトヲ得ズ又棄權スルコトヲ得ズ

第五條　休暇ハ休養ノ爲メニノミ使用サルベキモノナルガ故ニ休暇中有償勞働ニ從事スルヲ許サズ、違反スル場合ハ休暇支拂ノ請求權ヲ喪失ス、已ニ支拂ヲ受ケタル休暇手當ハ經營指導者ニ拂戻シ經營指導者ヨリ「ナチス」協同體KdFニ納付スベシ、其他斯カル休暇ノ趣旨ニ牴觸スル場合ニハ次休暇年度ノ休暇請求權ヲ喪失スルモノトス

第六條　本休暇規定ハ生產ニ從事スル一切ノ獨逸國民ニ適用サル、例ヘバ家事使用人ノ如キ一個固定セル個別勞働關係中ニアル者ニモ適用サル、「ラインラント」勞働管理官管區ニ於ケル現行ノ全賃率規則ノ勞働者ニ對シテ不利益ナル休暇規定ハ本賃率規則ニヨリ廢止サレ基本休暇ニ關スル本賃率規則ヲ以テ之ニ代フ、從來ノ賃率規則中勞働者ニ對シテ利益アル規定ハ依然效力ヲ有ス、賃率規則若ハ經營規則ニ據ラズシテ從來成立シ居タル勞働者ニ對スル有利ナル休暇規定モ亦此ノ賃率規則ノ故ニ改惡サル、コトヲ許サズ

本休暇規定ハ一九三四年休暇年度ヲ第一年トシテ適用サル

一九三四年七月　「キョルン」ニテ　ウィリー・ボェルガー（署名）

尙ほ一九三七年十二月三日にはゲーリングは四ケ年計畫の長官として一つの命令を公布したが、

其の中には休日に關する左の條項を含んでゐる

元日、復活祭（オーステルン）、聖靈降臨祭（フィングステン）及降誕祭（クリスマス）ノ第一、二日ニ休業セル勞働時間ニ對シテハ從業者團ニ正規ノ勞働賃銀ヲ支拂フベキモノトス

但シ元日又ハ降誕祭ノ一日ガ日曜ニ當ル場合ハ此限ニ非ズ

斯くして獨逸の凡べての勤勞者には有給休暇、有給休日が與へらるゝ事となつたのであるが、此の休暇、休日をその本來の目的たる休養と保健と慰樂とに最も合目的に使用することの出來るやうな施設がどうしても考案され創設されなくてはならなくなる。休養を得、氣分の轉換を所期して、體力と氣力とを十分に吸收し得んが爲めには、勤勞する人々は其の平常の環境から離れ、日常の刺戟から脱して、全く異つた考へ方、感じ方、動き方の世界に置き換へられることを前提條件とする。唯だ休暇を與へた丈けで此の目的は到底達せられ得るものではない。此れ迄永い間の慣習によつて勞働することをのみしか考へてゐず、働くこと以外の生活を體驗せず、働くことから離脱した生活を知り得なかつた多くの勤勞者が突然此の有給休暇を與へられると、彼等は此の休暇の有効なる利用といふ事の素養を缺いてゐる爲めに、此の休暇をどうしていゝのかに迷はざるを得なくなり、爲めに此の有意義なる休暇を無意味に腐らせてしまつたり、果ては二三日の

休暇の後には却つて働き度いといふやうな氣持をさへも生じて、遂には殘餘の休暇を秘かに勞働して手當を稼ぐといふやうな不埒な道をさへ選ぶやうになる惧さへある。此處に於てか、唯だ休暇を與へるといふ事だけでなしに、此の休暇を最も有效適切に使用し得る合目的な施設を講ずる所の所謂「休暇構成[1]」といふ事が極めて重要な事柄となるのである。而して此の休暇構成の大きな任務こそはＫｄＦ旅行局に課せられてゐる事項なのである。

かゝる根據の上に成立する旅行局の事業の意義は已にＫｄＦ第二回創立記念大會に於けるライの發表[2]に述べられてゐる通りであるが、獨逸人ほど旅行を好む民族はなく、旅行は獨逸人にとつて魅惑とまでなつてゐることを見落さなかつたＫｄＦの慧眼を忘れてはならない。ＫｄＦが獨逸人殊に金と時間とに逼迫して居て、しかも旅行に絕大な憧れを懷いてゐる獨逸の勤勞階級から絕對的な支持を贏ち得て居り、感謝の的とまでなつてゐる所以の最も大きな原因の一つは實に此の旅行局の事業にあると云つてもよい位である。ライがＫｄＦ創立滿一周年記念祭に際して行つた「ＫｄＦ第一年の業績を顧みて」と題する報告演說に於て次のやうに述べてゐるのでも、尙ほ其の間の消息を解し得られはしないであらうか。

「ナチス協同體ＫｄＦの第一年の結果中最も光彩を示したものは旅行局である。此處にＫｄＦ

1) Urlaubsgestaltung
2) 29—4' 頁參照

の驚歎すべき成果が示されてゐるのであつて、總計二百十六萬八千三十二人の勞働者が旅行に送られて、しかも其の中の百七十五萬人は七日乃至十日の休暇旅行へと赴いた。此の事業の規模の大さは、此等の同胞を運搬する爲めには約三萬六千輛の鐵道客車を必要としたといふ事を考へて見て始めて了解が出來る。今此等の客車を連結するとせば、機關車は伯林にあつて最終客車はブレスラウにあるといふ怖ろしい巨大なＫｄＦ臨時列車が出來上るであらう。そして最後車にある發車信號手が機關手に出發の合圖を與へんとして機關車にまで赴かんとすれば、急行列車の速度を以てして、四時間乃至五時間を駈け續けなくてはならなかつたであらう。ＫｄＦ休暇列車が走破した總キロメートルは地球周邊の約十九倍に當る」

第二　旅行局の事業及び施設

旅行局の事業は國內旅行、海洋旅行及びハイキングに分れてゐるが、其の他に職人交換遊歷、獨伊休暇者交換、在外獨逸人本國招致旅行等の事業がある。今、その主なるものに就いて記述しやうと思ふ。

一、國內旅行事業



伊太利ポムペイの廢趾を訪問するＫｄＦ休暇旅行者の一行

此の目的は都市の勤勞者を農村殊に國境地方に、そして農村の人々を都會に赴かしめて、獨逸人をして親しく己が祖國の美を知り、その同胞の生活と勤勞とを識ることによつて、獨逸の國中の人々が相互に相識り相了解し會ひ、國民協同の精神を涵養し得ると共に、氣分の轉換によつて保健の上に資し、以て國民力の増强を所期せんとするにある。

期くしてＫｄＦの創立より僅かに三月の後、一九三四年二月十七日に第一回の勞働者休暇列車が全獨逸に於て發車したのである。即ち此の日伯林のアンハルト停車場に於て獨逸勞働戰線全國指導官ライの臨場の下に盛大な祝典が擧行され、次いで第一次特別列車が同驛からバイエルンへと出發した。これと同時に他の地方からも十一本の休暇列車が運轉された。即ちザクセンとヴュルテンベルクの勞働者はバイエルンへ、ダンチヒと東プロイセンの休暇者はシュレージエンへ、ラインラントの勞働者はシュワルツワルトへ、バイエルンの勤勞者は逆に伯林へ、南獨逸の人々は海岸とライン河畔へと運ばれたのである。

而して此の事業は爾後每期躍進的な發達を示したのであつて、其の業績は後段に紹介する如くである。しかも此等の旅行には出來得る限り妻や子供までも同伴することが望まれて、それの爲めの顧慮が支拂はれて施設されてゐるのである。

殊に此の事業に於いて最も著しい事項は大休養場設置の計畫であつて、これは已にリューゲン島[1]に設けられた一大KdF海水浴場となつて實現されてゐるのである。此の島はポムメルン州に面したバルチック海に横はる大きな島であるが、その東岸のザスニッツ[2]とビンツ[3]といふ二つの村の間にある入江に此の大海水浴場が設けられたのである。此の入江は長さ約八キロ、幅約五百メートルの三日月形で、總面積約五平方キロを海水浴の目的に使用することが出來るが、此處に二萬のベッドを装備した一大設備が作り出されてゐる。即ち大ホール、五千の座席を有する劇場、高さ八十メートルの高塔、應接室、喫茶室、酒場等を包有してゐる二個の建物から成る大娯樂場を中心として、其の兩側に海に沿うて五階建の居室が双翼をなして伸びてゐる。此の双翼の夫々の長さは約二・五キロある。此の居室の建物と直接連接して、各五百メートル毎に食堂が海の方へと突出して建てられて居り、その地下室は料理室となつてゐる。此の他に尙ほ二棟の日光浴用舍屋があつて、そのテラスで日光浴療法を受けることが出來るやうになつてゐる。

海濱と建物との間には、防波堤があり、これが海濱散歩道路となつて居る。此の防波堤を中斷して一つの段丘(テラス)があるが、これは海に突出して、その先端は埠頭となり、その埠頭から二つの棧橋が出てゐるが、其の一つは小船の繫留の爲めのもので長さ五百メートル、他の一つは「ウィル

1) Rügen　2) Sassnitz　3) Binz

ヘルム・グストロッフ」[1]級の大船の爲めのもので長さ約八百メートルである。

右の他、海の反對側には、水泳ホール、約五千臺の自動車を收容するガレーヂ、停車場、事務室、事務員社宅等がある。

建物は全部蒸氣煖房を施されてゐるが、此の煖房機關室も海の反對側に建てられてゐる。

居部室の裝備は簡素ではあるがモダーンで、寢室と居間とは皆海側に設けられて二・二×四・七五メートルの廣さを有し、ベッド二個、洗面卓、衣裳戸棚があり、一隅には机、椅子及び柔かい長椅子が備へ付けられてゐる。

尙ほ將來の計畫としては、子供の多い家族の爲めに幼稚園を設けることになつてゐる。

そして此の設備を利用する爲めには、一日一人二マルクといふ極めて低廉な費用を以て足るのである。

此のリューゲン島の設備が完成した後には、更らに四個所に同樣の設備を行はうといふ計畫が已に發表されてゐる。斯くして每年一千四百萬人の同胞に休養と健康と歡喜とを提供すべき大目標へ突進せんとすと呼號してゐる。

二、海洋旅行事業

1) 後出113頁參照

陸の旅行と相併んで海洋旅行も亦、かの第一回勞働者休暇列車の出發より遲るゝこと僅か二月半にして、一九三四年五月三日に一千人の休暇者を載せた第一船でブレーメン港から出帆したのであるが、やがて第二船も二千四百人を載せて出船、英國の南海岸へと赴いた。其の後幾何も經ずしてノールウェーの峽谷へも赴いて、其處の海と斷崖とが相迫る絶景を歎賞したのである。

然かも以上はほんの小手調べたるに過ぎなかつたのであつて、それと同時にKdFは北獨逸ロイド會社の大汽船「シエラ・モレナ」[1]號（一萬一千四百三十噸）を五ケ年契約で借り受けて、これを改裝し、ローベルト・ライ司會の下に、ミュンヒェンの一煙草工場の女工の手によつて進水式を行ひ、「デル・ドイッチェ」[2]號と改稱したが、これに九百人のバイエルンの男女休暇勞働者を載せてノールウェー地方への海洋旅行に送り出したのが其の年の七月二十日の事であつた。

翌一九三五年には、三千人を葡萄牙のリサボン、マデイラにまで旅行させて、第一回大西洋旅行を敢行した。汽船は「デル・ドイッチェ」號の外に、「セント・ルイス」[3]「モンテ・オリヴィア」[4]「モンテ・サルミエント」[5]「シエラ・コルドバ」[6]「オッェアーナ」[7]があり、此等によつて數萬の人をノールウェーの海岸地方への旅に赴かしめてゐる。

然るに一九三六年にはKdF獨自の目的の爲めに獨得の設計に成る汽船を建造することゝなつ

1) „Sierra Morena"　2) „Der Deutsche"
3) „St. Louis"　5) „Monte Sarmiento"
4) „Monte Olivia"　6) „Sierra Cordoba"　7) „Ozeana"

て、其の第一船は同年已にハンブルクのホワルト造船所で起工したのである。而して其の起工式に際しローベルト・ライは昂然として演説して曰く、「ＫｄＦ船隊は少くとも三十隻より成るべきである。其の曉こそは、ＫｄＦは二百萬人の同胞を毎年世界見物に送り出すことが出來るだらう！」と。而して今、此のＫｄＦ船の設計を見るに、左の如くである。

總噸數二萬五千噸、天幕甲板の長さ百メートルで、此處は新鮮な海氣を呼吸する絶好の設備である。Ａ甲板には七百五十の座席を有する食堂があり、舞臺と附屬喫煙室とを持つた廣間は夜の催しに一千人を收容することが出來る。Ｂ甲板には旅客の船室があるが、これには天幕甲板からヴェンチレーターで人工通風が行はれて居り、流水（ランニング・ウオーター）が通じて、氣持のよい寢臺が備付けてあるのは言はずもがなである。そして休暇旅行者にも乘組員にも皆一樣に二人船室と四人船室とが與へられるが、此處に特に注意して置き度いことは、乘組員も亦、休暇旅行者たる船客と全く同一利益を享受してゐるといふ事である。Ｃ甲板には病院、藥局、理髮室があり、Ｅ甲板には主に司厨及び其他の船員の部屋がある。Ｆ甲板には冷藏室、行李室があり、それ以下は清水槽、油槽、ディーゼル發動機（一萬馬力）がある。

大食堂の傍には廣い社交室があり、其處では一千五百人の船客がダンス、其他の娯樂（映畫等）

で夜を樂しむことが出來る。カフェーは二百五十人の定員で、其後ろには廣いダンス場がある。遊歩甲板は廣濶で、愉快な周回散歩が出來る。船の全長百八十五メートル。

尙ほ乘組員の爲めには立派な氣持のよい集會室があるし、スポーツ愛好者の爲めには長さ二十二メートル、幅十一メートルのスポーツ・ホールがある。更衣室は最上甲板に設けられ、プールも開放甲板に作られてある。

此のやうな設計によつて出來た第一船は「ウィルヘルム・グストロッフ」[1]號と呼ばれ、一九三八年六月竣工して處女航海に上り、羅馬に開催された世界餘暇利用會議に參加した。第二船は「ローベルト・ライ」號[2]（一九三九年春竣工）、第三船は「シュトゥットガルト」號[3]と呼ばれた。

尙ほ以上の外に、遠洋用ヨットとして「ハンゼアート」[4]「ユッタ」[5]「エディート」[6]の三隻があるが、此等はスポーツ局の指導の下にバルチック海で八日乃至十四日のスポーツ漕行の用に供されてゐる。

三、ハイキング事業

獨逸國民はその中世の職人制度の時代から遊歷に少からぬ憧れと歡びとを感じて來たのであるが、それは今日に於ては組織化され體系化されて、一般國民がその興趣を十分に享受し得るやう

1) „Wilhelm Gustloff"
2) „Robert Ley"　3) „Stuttgart"　4) „Hanseat"
5) „Jutta"　6) „Edit"

になつてゐる。かのワンダーフォーゲルの運動とその實踐の如きこれであるが、KdFは更らにそれを體系付けて、大規模な組織下に其の發展を促進させてゐる。何れの大管區にも大管區遊歷監理員[1]が置かれ、その下に小管區遊歷監理員[2]、地方班遊歷監理員[3]及び經營遊歷監理員[4]が配屬されてゐる。そして十五人乃至精々二十人の仲間が集まつて遊歷集團[5]を形作り、それが土地に明るい遊歷集團指導員[6]の指導下に行動することゝなつてゐるが、此等指導員は名譽職であつて、その數約二萬といふ。そして一九三七年と一九三八年とには夫々約百五十萬人がこの遊歷に參加したのである。この遊歷は以前は自目的であつて、それ自身に意義を認めてゐたに過ぎなかつたのであるが、今日ではそれを越えて鄕土愛と國民性とへの規律に基く訓練となつてゐる。斯くてそれは單なる保健上の意味を越えて更らに高い文化政策的價値を有するに至つたのである。KdF遊歷とは卽ち鄕土を求めて之を得るの謂ひであると言はれてゐる。

四、獨伊休暇者交換事業

一九三七年六月二十四日の獨逸のナチス全國組織指揮官兼獨逸勞働戰線指揮官ライと伊太利工業勞働者組合長にしてファシスト大參議院議員チアネッティー[7]との間に締結された協約と、一九三八年二月十日のライと伊太利の黨大臣でありファシスト黨書記長であつてドッポラヴォーロの

1) Gauwanderwart
2) Kreiswanderwart
3) Ortswanderwart
4) Betriebswanderwart
5) Wandergruppe
6) Wandergruppenführer
7) Cianetti

團長スタラーツェ[1]との間の協約によつて行はれるものであつて、一九三七年より一九三九年に至る三年間に三萬四千人の獨逸休暇者が伊太利へ、又三萬人の伊太利休暇者が獨逸へと往き來したのである。それは兩國民を一切の政治的必然を打ち越えて眞の友人たらしむるに少なからぬ貢獻があつた事は到底否み得ない所である。尙ほ上記の數は上述の二協約に基きその條項に準じて行はれた兩國休暇休養者の兩國訪問の數であるが、此の外に尙ほ獨逸は單獨にその休暇者を伊太利に赴かしめてゐるのであつて、夫等を總計すると一九三九年には、その秋までに十四萬五千人が伊太利を訪問したことになるのであつて、其の內六萬人は陸で、八萬五千人はＫｄＦ船隊で赴いたのである。そして一九三七年から三八年の冬期間には三萬六百十人がＫｄＦ船隊によつて伊太利の沿海を周航したのであるが、一九三八年―三九年の冬期間には、實に五萬七千六百人を算した。之れに對して伊太利の休暇者は一九三八年と一九三九年の夏期間に各三萬人が獨逸を訪問してゐる。

五、旅費と貯蓄制度

此等の旅行は優れた機構と利潤を度外視してゐる方針によつて極めて廉價に行はれ得るやうになつてゐるのであつて、例へば八日間の航海に對しては僅かに五十マルク、同期間の陸上旅行に

1) Starace



同船甲板上のKdF休暇旅行者

ハンブルク港に碇泊するKdF船「ローベルト・ライ」號



は僅かに二十マルクで十分であるのではあるが、然かも尙ほ多數の勞働者には此の費用をさへ支拂ふ事が困難なものがある。其處で特に貧しい休暇者の爲めには出來得る丈けの低廉な費用で、一部は無料で此の旅行に參加出來るやうにしてあるが、其處に此の旅行の爲めの貯蓄制度をも創設することになつた。それは獨逸勞働戰線の經濟企業である「獨逸勞働銀行[1]」及び公立貯蓄銀行とＫｄＦとの間の協定に基いて、貯蓄券が發行されることゝなつた。この貯蓄券には五十フェンニヒ宛の切手を貼布することになつて居り、全部を貼り終ると四十マルクになるといふ仕組である。各人はその經濟能力に應じて切手を貼布することが出來るやうになつて居り、もし必要な場合には、已に貼布した切手に對して現金の拂戾しを受けることが出來ることにもなつてゐる。

六、國民福利事業との共同事業

一九三四年八月已にＫｄＦはナチス國民福利協會[2]及び母子保護事業會[3]との間に協定を結んで、相互に相援け合ふ事となつた。卽ち貧しい勞働者夫婦が子供を伴れてＫｄＦの旅行に參加することが出來るといふ事で夫婦が同時に精神的な慰安を得て、依て以て家庭生活の强化に利する所が大であることは疑ふべき餘地が無い。そして假令この要求を全汎的に滿たすことは到底容易でないとしても、其の生計の狀態等から云つて特に斯かる施設を利用することを最も適切とし最も必

1) Bank der Deutschen Arbeit
2) die NS-Volkswohlfaht e. V.
3) Hilfswerk Mutter und Kind

要と考へらるゝ家族を選んで、これにＫｄＦが財政的補助を與へ、その旅行に參加させるといふ事は極めて有意義な事柄である。所で問題となるのは該家族が果して斯かる施設を利用するのに最も適切であるか、そして經濟的補助を果して必要とする狀態にあるかどうかといふ事の確定なのである。而して此の確認の爲めに國民福利事業協會及び母子保護事業會の調査を必要とし、その結果に依據しなくてはならぬことゝなつてゐる。

又、母子保護事業會の方で、母性保護の立場から母親を旅行させることが大いに望ましいやうな場合、その母親が旅行の費用負擔に堪え得ない場合には、ＫｄＦの手によつて旅行をすることが出來るやうに取計らふといふ事も考慮されてゐるのである。

第三　事業成績

ＫｄＦ第一回記念大會（一九三四年十一月）に於けるライの報告演說の主旨は已に掲げた通りであるが[1]、一九三五年七月のハンブルク全國大會に於ける旅行局長ラフェレンツ博士[2]の報告に依れば、一九三四―三五年の第二年度には七月一日迄に百萬の會員を長短の國內旅行に送つたのであるが、同年度內には更らに二三百萬人を送り出す豫定であり、英佛海峽、英國南海岸、ノトル

1) 106—7頁參照
2) Dr. Lafferentz

ウェーのフォルドへの海洋旅行に赴いたものは七月一日迄に六萬人であり、更らに十五萬人を同年度内に送り出すつもりであると云つて居る。又新たに實施した旅行貯蓄劵[1]が大いに效力を發揮したが、又特に貧しいしかも功勞のあつた同胞の多數は無料で旅行に參加させられた。同年度の始め五ケ月間に開催したハイキングの回數六、六四九回、參加人員一〇二、五九一名であつた。

尙ほ同年十一月のKdF創立第二周年記念大會に於けるライの第二年度報告は既に之を詳細に掲げて置いた通りであつて[2]、同年度（一九三四—三五年）に於ける休暇旅行者總數五百五十萬人であつたが、第三年度（一九三五—三六年）に於ては、一年間の休暇旅行者總數六百萬人餘であり、其の中約五百萬人は長期休暇者及び週休暇者で地方に赴いた者、百萬人はハイキング參加者で、他の約十五萬人は海洋旅行に赴いたと云ふ。此の一年間の全旅行者が手を繋いだとすれば、それは伯林から東京に達するであらうし、海洋旅行が航走した距離は地球と月との距離の二倍に達し、陸上を馳せたKdF列車の總延長距離は二百十六萬キロであつて、正に地球周邊の五十四倍に及ぶといふ驚歎すべき大躍進を示してゐる。

然るに第四年度（一九三六—三七年）には、更らに休暇旅行者の數を增さしめて約九百萬人を算し、其の中海洋旅行に赴いたものは十八萬人に達してゐる。而して一九三九年のハンブルクに

1) Reisesparkarte (116頁參照)
2) 26—41頁參照

於けるＫｄＦ第五回全國大會に於いてはライは、今や獨逸國民が直面しつゝある外交的高度緊張の狀態にあるに拘らずＫｄＦ休暇旅行者の數は更らに增高を示し、前年より五十萬人を增して一九三九年に於ては一千萬人を踏み越すであらうと報告してゐる。

第五章　慰安娯樂局と其の事業

第一　慰安娯樂局の任務と其の事業

勤勞者が平日の勤勞の後に得る餘暇を有效に構成して、藝術的價値のあるものや、世俗的に價値のあるものを攝取することが出來るやうにし、以て一日の勤勞によつて招來された疲勞を清拭すると共に、明日の創造への新しき精力を獲得させやうとする事はＫｄＦの事業に於ける重大な眼目の一つであることは此處に特說するを要しない程にも餘りに明白な事柄である。而して此の事業の內容は極めて廣汎多岐に涉つてゐるのであつて、映畫、演劇、演藝の如き各種興行物娯樂の提供より、音樂、美術の鑑賞は云ふまでもなく、民謠、民舞、家庭音樂、素人劇、假裝舞踏會等にまでも及び、更らに進んでは個人的な趣味嗜好の範圍にまでも入つて、例へば郵便切手の蒐集、寫眞、將棋等をまで包括することとなつてゐる。

其の一般の槪況は已にライがＫｄＦ第二周年記念大會に於ける報告の中、此の局に關係せる部分[1]に就いて之を窺ひ得ると思ふのであつて、此處に其の參照を希望する。斯くて此處では此の局の行へる事業の中、主なるもの及び特異なるものを選んで、左に之を敍述して見ようと思ふ。

一、ＫｄＦ巡回演劇隊

此れが意圖する所に就いて „Arbeitertum" 誌は次のやうに述べて居る。[2]

「巡回演劇隊はその持つて行つた移動舞臺を工場の廣い仕事場の中に設備するか、もし出來なければ、食堂とか、ホールとかの中に設ける。其の理由は巡回演劇隊の理念の本據が唯だ單に獨逸の勞働者を再び淸新な獨逸式な舞臺に呼び戾すといふだけの文化的使命にあるのではなくて、機械や日常の仕事場で取圍まれてゐる經營內で、從業者團と指導部との協同の下に行はれる此等の上演によつて、一經營內のあの階級鬪爭と反目疾視との舊い精神を克服し、協同の歡びの裡に眞の協同體に融け込む數時間を體驗するといふ文化的使命にあるのである。

一切の階級的自負を打ち越えた協同、一大家族への結合、經營に對してその維持と能率とに對する顧念、これこそは我々が鬪ひ取らんとする偉大なる目標なのである。從業者團各員は己が經營指導者を識つて、彼等に對して何等畏怖を懷いてはならぬし、經營指導者も亦、彼れの

1）　47—57頁參照
2）　„Arbeitertum", Februar-Zweites-Nummer, 1935

從業者團を識つて、其の各員の爲めに存するといふのでなくてはならぬ。何人も孤立すべきでなく、又何人も他人を敵視すべきでない。凡べての者が懐くべき顧慮は唯だ一つ、これは卽ち經營の維持、能率の增進である。かくして獨逸の優良勞働の販賣區域の回復を期し、我が經濟の健全化と、從つて我が國民の健全化に資せんとするにある。」

二、KdF巡回映寫隊

此の活動の狀況に就いて、左のやうなまことに趣味深いほゝ笑ましい情景が紹介されてゐる。[1]

「此處に報告する村はクロッテルバッハと呼ぶザール國境線に近接したホムブルクの一地方である。巡回映寫班自動車の屋根に取付けた十四個の擴聲機から輕快なマーチを鳴り響かせながら、私達は靜々とその村へ乘り込んだ。

此の映寫班の趣旨は明らかだ。それはトーキーの映寫によつて、僻遠な地方に住む同胞達にも本當に愉快な心持のよいアーベントを提供するのが目的なのである。と云つて年取つた者ばかりでなく、若い者達にも歡喜を與へ度いのだ。それで音樂の音を聞くや、もう皆の者は其處へ集つて來た。此の大きな立派なトラックを見んものと、村の隅々からどん〱と駈けて來る。學校の先生がもう前以てこの話をしてあるのだ。それで二時間後に改めて輕快な音樂を全村に

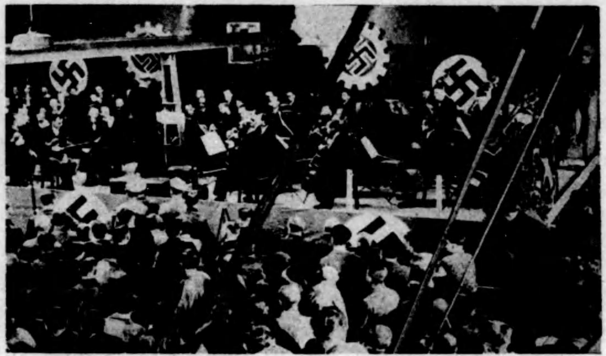
1) „Arbeitertum", Dezember-Nummer, 1934.

響き渡らせた時には、それこそ大歡び、壺や皿を手にして跳んで事た。この間に自動車の中の相當廣い料理場で、同行の娘さんの手でコヽアが作られたが、これは此の土地の人々はまだ飲んだことがないものであつた。いや、こんな純粹な牛乳を混ぜたコヽアは一般の人だつて大半はまだ呑んだ事がないに違ひない。小供達が敬虔相な顏付で、自動車の中でコヽアが煮られて作られる樣子を熱心に見てゐる有樣は本當に樂しいものだつた。子供達はいくら見ても見飽きなかつた。

やがて又マーチが奏され、食べ物を差上げてから、直ぐ引續いて宿屋の大廣間で映寫が始まるといふ事が擴聲機で知らされた。

コヽアとパンとが洩れ無く配られた。病氣で寢てゐる娘達にも、無論の事だ。映畫が見れなくも悲しむに當らないといふ風に、村の婦人會の役員のお母さん達が旨い物を届けてやる。

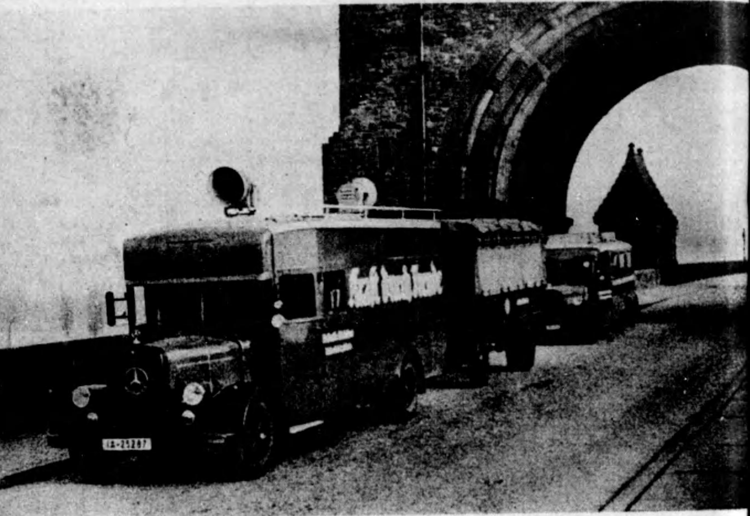
扨て映寫の用意が出來、女の兒は片側、男の兒は他の片側に坐つて片唾をのんで待ち構へてゐると、やがて愉快な兒童映畫が映し出される。そうすると、子供達はもう有頂天、まだ村でこれ迄に經驗したことがない樣な喜び方。その映畫が濟んでも、誰も歸らうとはしない。そしてちつとも氣が付かない内に、たつぷり一時間以上が過ぎてしまつた。



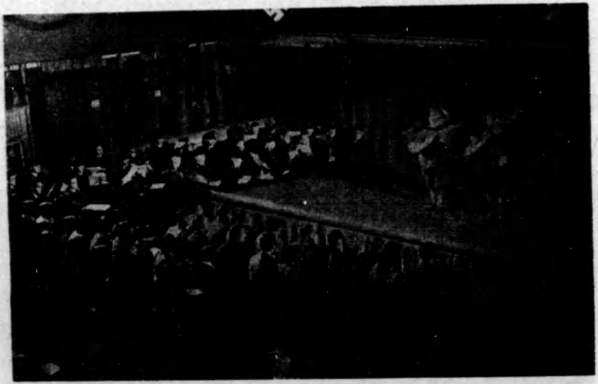
工場巡回音樂隊（ライプチヒのフーゴー・シュナイダー株式會社の工場廣間に開催のラィプチヒ交響管絃樂團の演奏會—總指揮者ワイスバツハ指揮



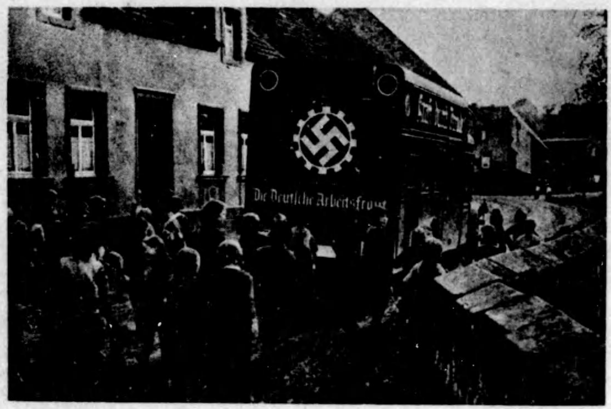
工場樂團の演奏會



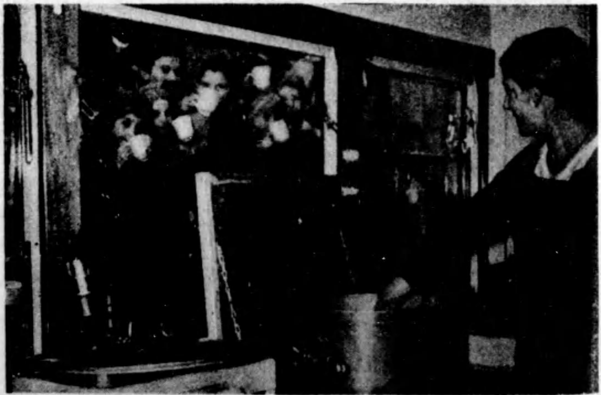
ＫｄＦ巡回演劇隊



同上の公演



ＫｄＦ巡回映寫班



同上車中にてココアを煮るＫｄＦ班員（124頁參照）



勤勞美術家の作品展覽會（伯林ノイキョルン區のデパート「フリートラント」の從業員達の主催になる總統像の作品展覽）



工場美術展覽會

子供達にとつては中々忘れることの出來ない體驗であるし、一緒に來た大人達にとつては此の村でまだ曾て經驗したことのない樣な樂しい保養であつたのだ。映寫會が終つた其の時、どの人の顏にも、たゞ歡喜が浮んでゐて、名々の顏には、このやうなアーベントを出來るだけ早く、又出來るだけ再々やつてほしいと云ふ希望が書かれてゐた。」

三、國營自動車道路舞臺

ナチス獨逸の交通の大動脈として偉大な設計の下に、全國を縱橫無盡に貫通する自動車道路建設の大規模な工事に勤勞を捧げてゐる人々を慰安せんが爲めのKdF特設部隊が此の國營自動車道路舞臺[1]なのである。それは季節每に新しい編成が行はれ、新しい藝題を選び、一つの國營自動車道路營舍から他のそれへと順次に巡回して上演をする。一九三五年から三六年へかけての興行期間には、此の舞臺は八千五百キロを踏破して、先づバイエルンのオストマルクへ、ハーノーヴァーへ、テューリンゲンへ、ブランデンブルク州へ、ウッケルマルクへ、ポムメルンへ、そして又テューリンゲンへ、其處からフランケン、上部バイエルンへ、そして最後に上部バイエルンから東プロイセンへと巡歷したのである。故にクリスマスの間の短かい休演を除けば、舞臺は每日百キロ以上の行程を走破せねばならなかつたので、殊に秋と冬との間の行旅には、隨分困難が伴

1) Reichsautobahn-Bühne

つてゐた。

國營自動車道路舞臺隨行記に曰ふ。「自動車道路伯林—ハーノーヴァー區間に、同舞臺に隨行する機會を得たが、小村ナーミッツで自動車道路開設の仲間に出會つた。其處の營舍バラックは日に焦けて勞働に慣れた人々が一ぱいになつてゐたが、此の人々は木の腰掛の上にギッシリと詰つて腰掛けて、プログラムを讀んでゐるが、それには、アンナ・マリア、ベーゼンダール、アンネリーゼ、ハルトナック、ネストール・スチュタール、フリードリヒ・ノイバウエル、カール・イバン、パウル・ゲルラッハ[1]の俳優の名と、舞臺監督フリッツ・シュタウテ[2]の名が出てゐる。パウル・シュレーク作『街頭音樂[3]』といふ劇が始まる。ヴァイオリン、アッコーディオンとギターが響く、國營自動車道路開設の勞働の仲間を歡ばせるのに最も恰好な愉快な喜劇。バラックは爆笑で鳴り響く」と。

國營自動車道路舞臺は國營自動車道路に働く仲間を慰安する他の多數の事業の中にあつて、特に意味のあるものである。而して一つには文化政策的な又藝術的な任務を果すことの要があるが、其の際に忘れてならぬ事は、此處に働く人々の大部分が都會から來て、家庭から離れて營舍に住み、爲めに他の勞働者には雜作なく與へらるゝ多くのものが此處では不足勝ちであるといふ事で、

1) Anna-Maria, Besendahl, Anneliese, Hartnack, Nestor Szytar, Friedrich Neubauer, Karl Jban, Paul Gerlach
2) Fritz Staudte　3) Paul Schurek, Strassenmusik"

その爲めに國營自動車舞臺が彼等によい演劇を齎らし、樂しい慰安の夕べを提供するのである。そしてこの爲めの費用はＫｄＦが支辨することになつてゐる。

四、國營兵士舞臺

ナチス政權確立し、ヴェルサイユ條約を破毀して再軍備を敢行するや、新しい獨逸國防軍の衞戍地を獨逸の凡べての地方に分散することにした。たゞ少數の陸軍、空軍及び海軍だけが大都會に衞戍して、大部分は地方に散布されて、小さな町に置かれたり、又は非常に寂しい地方に留められることゝなつた。爲めに藝術的な生活は極めて稀薄にしか、又は全然脈動しない所も多かつた。此の缺乏を滿たさんが爲め、又はこれを除去せんが爲めに、ＫｄＦは「國營兵士舞臺」[1]を創り出した。

これは常設的劇場も映畫館もない衞戍地で、我が國防軍の兵士(獨逸國勞働奉仕團の人々も亦)に文化的な慰安を與へ、よい藝術を供與しやうとの任務を有してゐる。そして此の爲めには、それが移動に自由でなくてはならぬといふ事は云ふ迄もない所である。其處でこれに適した構造裝置の自動車を作らせたが、これは大道具小道具、書割までも携行することになつて居り、又トーキー自動車も附屬してゐる。この外にＫｄＦは衞戍地に劇場があれば、これを借り受けて一日乃

1) Reichssoldatenbühne

至數日のマチネーを自分の劇團で催して、其の地の兵士の爲めの公演をすることになつてゐる。其の活躍の一證左として、此處に國營兵士舞臺第二班の一九三九年春に於ける活動の狀況を紹介しやう。

「一九三八年九月末のミュンヒェン協定とこれによつて行はれたズデーテン地方の獨逸復歸後、一九三九年の始めには、チェッコスロヴァキアには排獨運動が起つて物情騷然たるものがあつたので、獨逸軍はボヘミアとメーレンとへ進駐した。そして獨逸軍の力で此の地方の秩序が囘復されたが、獨逸軍は各所に駐屯することゝなつた。其處で此等の駐屯軍を慰安せんが爲めに、第五軍團司令は電報でKdFに國營兵士舞臺の卽時派遣を電請した。其の翌早朝には已に、國營兵士舞臺第二班の司令車が伯林の國防軍最高司令部の玄關に横付けとなつて、旅行目的地、旅程に關する最終命令を受取つたが、二三時間後にはその班員車及び道具車が野戰行進隊形を取つて續いたのである。そして國境目指して突進したのであるが、司令車と班員及び道具を載せた車とは絕えず電話の連絡を取つてゐた。司令車は何時でも適當な宿舍と、公演に適切な場所との選定に骨を折つた。萬事うまく捗取つた。

演技者は舞臺監督クライエスブルク[1]の指導下に男優五名と女優四名、それに道具方と照明方

1) Kleyesburg

兼務の運轉手、此等は皆、意氣衝天で、前線で兵隊さん達を自分達の藝術で喜ばせるんだと意氣まいてゐる。

第一の目標はブリュン[1]であつたが、永くは留らずして、其處からアウステルリッツ[2]へと赴き、同日に第一回の二回公演を行つた。出し物はフリッツ・ペーター・ブーフ作「張切り女」[3]といふ五幕物喜劇である。これは兵隊さん達の心持にぴたつと合つたもの、女主人公がぐず〳〵と不決斷な空想家の對手方の男に對して何事をもてきぱきとやつてのける所、兵隊さん達の哄笑を買ふに十分であつた。

そして翌日には已に國營兵士舞臺はブリュンに歸つた。此處で其の地の劇場監督との諒解を得て、獨逸座[4]で同じ外題を國防軍の人々の前に自分の手で公演した。此の際、此の地に定住してゐる獨逸人が將校團から招待され、來賓として最前列の特等席を指定された。これまでチェッコ人から慘々な目に遭はされてゐた獨逸の同胞達は眼に感謝と感激の涙を湛えてゐた。

次いで更らに前進を續けてグロース・メゼリッチ、トレービッチ、ロッシッツ、クレムジール、ゴェーディングへ、又ワークノイシュタット、トレンシン、オトロコヴィッツ、ヴィラインなぞへと赴いて、毎日々々或る所では二回、或る所では一回の公演を行つたが、何時も壓倒

1) Brünn
2) Austerlitz
3) Fritz Peter Buch, Ein ganzer Kerl"
4) Deutsches Haus

的な效果を收めることが出來た。そして四月の初めから終りまで比類なき功績を示して、ボヘミアとメーレンとへのその進軍を完うした。」

五、工場樂團

工場樂團[1]がその任務を認められたことは、獨逸放送局が毎日「工場休憩時間の音樂[2]」を放送するやうになつた事がこれを證してゐる。此の放送は專ら工場樂團と經營從業者團とによつて構成されてゐる。

此の放送の外に、毎日、國民放送事業といふのがあつて、その最優秀者の授賞式は毎年開かれるラジオ展覽會の「國民放送[3]」で行はれる。此の放送は小はヴァイオリン、ギター、アッコーディオンを持つた小樂團から、大は五十人から成る大管絃樂團に及び樣々な構成によつて行はれる。

此等の樂團の中で特に有名なものは、ブレーメン交通協會[4]の樂團とオスナブリュック街鐵社員[5]のそれであつて、前者は一九三六年のラジオ展覽會で「國民放送」をし、後者は一九三五年のナチス黨大會で總統の前で演奏した。

六、KdF兒童劇場とKdF兒童舞踊合唱學校

伯林のプラッァ座[6]を引請けて、ヘルベルト・ミュラー・エムデントゥーム[7]の指導の下にKdF

1) Werkkapelle　2) „Musik zur Werkpause"
3) Volkssender
4) Bremer Verkehrsvereinigung　5) Osnabrücker Strassenbahner
6) Plaza　7) Herbert Müller-Emdenthum

ヴァリエテ劇場として二三ケ月の間に、第二流劇場から高級藝術の劇場とまで發展させた。がしかし遂に思ひ切つてＫｄＦ兒童劇場[1]を創建することゝなつた。他の劇場で童話劇を公演するのは僅かに祭日とか休日とかに過ぎないのに、此處では常設的設備として、一年中每週三、四回の公演を行ふことゝなつてゐる。

然るに次いで又、ＫｄＦ兒童舞踊合唱學校[2]を創設することゝなつた。この二つの學校が他の演劇學校と異る點は、其の目的が特別に劇的音樂的才能のある子供を職業的な演劇者に教育し養成しやうとするにあるのではなくて、主な目的は普通の才能の子供の大衆に藝術に對する興味を喚び起さうとするにある。それでこれによつて演劇を愛好する新しいゼネレーションを養成するより以上のことが出來なくても、それで此のプラツァ座の施設には十分な存在の理由があるのである。「兒童合唱學校」の指導者は童謠放送の名手として有名なエムミー・ゴェーデル[3]女史であり、「兒童舞踊學校」の指導者はベルテ・クルル[4]女史である。學校の授業料は月三マルクであるが、その入學志願者募集の日には、伯林の各地區殊に東部卽ち勞働者居住地區から五歲乃至十四歲の子供が殺到した。

1) KdF.-Kindertheater
2) KdF.-Kinder-Tanz und Chorschule
3) Emmi Goedel
4) Berthe Krull

第二　事業成績

先づ一九三四―三五年の第二年度の成績は既掲のライの第二周年記念大會に於ける報告中に詳説されてゐるのであるが、[1] 其の翌第三年度（一九三五―三六年）の成績は第三周年記念大會に於けるライの報告によれば、左の如くである。

「國民音樂の催し[2]は此の二年間に於て總計九、九二一回、參加者一、八九三、五三一人。演劇では、本年は前年に比して著しい增加を示し、一九三五年に總計約四百六十萬人であつたものが、本年（一九三六年）は十一月一日迄に已に約四百八十五萬人を算してゐる。

特に注意すべきは移動演劇を設けて、これによつて小さい都會や農村に於ける多數の同胞に立派な演劇を提供するやうになつた事であり、國境地方には、小さいが秀れた劇團を盛んに送り出してゐる。

一般の演奏會は此の二年間に三百萬餘の入場者を算へて、これが發達の助成を心がけてゐるが、それと相併んで本年（一九三六年）にはじめてナチス國立交響管絃樂團[3]がKdF專門で作られた。

1）47―57頁參照
2）Volksmusikveranstaltung
3）NS Reichs-Sinfoni e-Orchester

ヴァラエティーやキャバレーから成る慰安娛樂の夕べ[1]の催も盛んに行はれてゐるが、最近に行はれて最も廣範圍に渉る事業は「一九三六年度國民放送事業[2]」で、これには民衆藝術にたづさはつてゐる凡べての素人を動員してゐる。

餘暇構成の特別な形式として、慰安娛樂局の任務範圍に屬する凡べての手段と、その他にその受持の部局と共同してやるトーキー映寫、スポーツ講習、雜誌圖書仲介等をも含んだものが有名な國營自動車道路建設事業の爲めの特別事業なのであつて、これは一括して慰安娛樂局の仕事となつて居り、數十萬の從業者團を擁するその七百餘の營舍がこれによつて慰安されてゐる。

今此等慰安娛樂局の施設に屬する催物の一切を總計する時は、一九三五年及び三六年の此の二ケ年間に、其の回數は一四二、六七〇回を算し、入場者の數は五二、七六六、〇二九人を示すのである。

此の局の工場展覽會は今日では最早や試みの域を脫して、確乎とした有效な企となつてゐる。經營・工場展覽會の開催度數四五〇回、入場者數約二百五十萬人！」

尙ほ同年度に於ける伯林大管區に於ける成績を該管區慰安娛樂局の事業報告より抽き出して來

1) fröhlicher Abend　2) „Volkssenderaktion 1936"

ると、

「演劇上演への參加者八十萬人を增して總計二百三十萬人、ＫｄＦの爲めに公演した伯林の劇場は二十一を算した。

此等伯林の劇場は最早やたゞ獨逸勞働戰線の會員にだけ入場を許すのではなく、誰れにも一般に入場を許してゐる。尤もこの場合には入場料全額を支拂はなくてはならぬことになつてゐるが。……しかし各等の全座席の七、八割乃至九割までは依然獨逸勞働戰線の會員が特價で手に入れてゐる。そして夫等の劇場の第三年度に於ける入場者數は左の如くである。

國民座（Theater des Volkes）	七三三、九二四
國民歌劇座（Volksoper）	三六一、九四二
アドミラルパラスト座（Theater im Admiralpalast）	四三五、七九四
ノッレンドルフプラッツ座（Theater am Nollendorfplatz）	一二六、五六〇
喜歌劇座（Komische Oper）	一一〇、八四三
レッシング座（Lessing-Theater）	一一〇、四一七
シッフバウエルダム座（Theater am Sehiffbauerdamm）	八三、〇八三

名匠演奏會によつて偉大なる獨逸の藝術家及び指揮者の異常な能力が働く人々の許に齎らされたのである。この演奏會に特に注意すべきはフィルハルモーニッシェ・オルヒェステル[1]とランデスオルヒェステル[2]とが參加した事である。本年度には總計一九の大交響樂演奏會と三四の室內樂の夕べが催されたが、働く同胞に最優等のものを提供するといふのが原則になつてゐる。

一九三六年に獨自の大合奏團が創立されて、十一月に初めて公演を行つて成功を收めた。『音樂の時間』は每日曜の午後、聲樂大學[3]で擧行されてゐるが、非常に好評を博してゐる。」尙ほそれ以後の成績を見るに、まことに何れの部門に於ても飛躍的な進步を示してゐるのであつて、唯だ〳〵驚歎の外はない。卽ち其の概況は左の如くである。

「ＫｄＦが行つた演劇の入場者の數は全國で一九三七年には百萬人であり、一九三八年には一千四百萬人であつたものが、一九三九年の前半年には已に八百萬人に達してゐる盛況を示して居るが、此の數にはヴァリエテ、及び色々の興行の入場者は算入されてゐない。演奏會の開催度數は前年度に比して二割五分を增加し、工場展覽會の開催度數は約五割を增してゐる。國營自動車道路建設の營舍や其他の建築工事場での催し物の回數は十割の增加を示してゐる。

1) Philharmonische Orchester　　2) Landesorchester
3) Singakademie

それで慰安娯樂局の催し物の入場者の數は總計して、一九三九年の前半年間に二千七百四十萬人に上り、一九三七年一年間の三千八百四十萬人、一九三八年一年間の五千四百六十萬人に比して相當の増加を示してゐる。

此の慰安娯樂の仕事は唯だＫｄＦの本部から行はれるばかりでなく、勤勞者の側からも自給自足的に新しい國民文化の創造が行はれるのであつて、卽ち多數の工場事業場等では各獨自の娯樂聚團を所有してゐるのであり、現在斯かる娯樂聚團は總計六千五百を算してゐるが、其の尖端に立つものはザクセン大管區であつて、其處は唱歌團四百二十五個、音樂團五百五十九個、舞踊團百十四個、工場聯合の娯樂團百五個を數へてゐる。」

第六章　社會教育事業局と其の事業

第一　社會教育事業局の任務と其の事業

ＫｄＦ創立第二年度中に先づ「習練及社會教育局」[1]が設置された。それはＫｄＦの監理員をナチス世界觀に教育することを目的とするものであつた。そして其の爲めには圖書館の外に、講演及び映寫會が中心となつた構成が取られてゐたのである。しかも此の期間に於ては慰安娛樂局の仕事の一部も亦、此の局に含まれてゐたのであるが、一九三六年に至つて「獨逸社會教育事業局」[2]が設けられて、從來の仕事の一部を慰安娛樂局に移管して、新しい仕事を開始するに至つた。

此の新しい社會教育事業局の仕事は最早やＫｄＦ監理員だけの教育に限られてゐないのであつて、ＫｄＦ會員の全部に對する公民的な教育を引き請けることゝなつたのである。今、新しい社會教育事業局の新設に際して、その局長フリッツ・ロイトロッフが「獨逸社會教育事業局の道程

1) Amt „Schulung und Volksbildung"
2) Amt „Deutsches Volksbiludngswerk"

と目標[1]」と題する一文を公けにしたが、今、左に其の大要を紹介しよう。

「習練及社會教育局を解散して獨逸社會教育事業局を新設し、これをＫｄＦの組織中に編入したことによつて、此の局の仕事がどういふ方向に向つてゐるかは直ちに解し得られやう。

それは働く人々に、全國民を動かしてゐる現代の諸問題に沈潜してその餘暇を目的的に使用する爲の刺戟を與へ、その個人的天賦の發達促進に役立つべきである。これに當つては、以前の無味乾燥であつて現實とは緣の遠い講壇の知識を説教することを避けて、協同體の承役的な構成員たる個人に毎日毎日ぶつかつて來る樣々な形に表はれる日常生活の材料範圍を出來るだけ取扱つて來べきである。これによつて各個人の見界を廣めることに依つて、その一般的知識を促進させて、生活が彼に提起する新しい任務を攫み、又は從來は注意されずにあつた自己の素質を促進させて協同體に奉仕する狀態に彼を置くのである。

働く人々が現代の生活法則の認識を得る爲めの格鬪は體驗の問題なのである。從つて獨逸社會教育事業の範圍での諸施設は參加者の爲めに體驗を基としたものであり、建設と歡喜との時でなくてはならぬ。かくてのみ、我々は彼等に漸次ナチス世界觀を表はす世界像を知らしめることが出來やう。

1) Fritz Leutloff, Weg und Ziel des Amtes „Deutsches Volksbildungswerk."

人が現在の如き轉型期に際して、毎日出會つて然かもどういふ風にかそれを摑まなくてはならぬ事象に對し疑惑の中に生きてゐる限りは、到底眞の人生の愉悦と創造の歡喜とを所有することは出來ない。然るに各種の局を備へたＫｄＦの仕事こそはこれを爲し遂げ得るのであつて、同胞の何人にも人生の愉悦と生活認識とを與へて、依て以て同時に彼を有能にして等しい價値を有する成員として樂しく强健なる國民の協同體の中に立たしめることが出來るのである。

社會教育所[1]の講義表を一見すれば、此の獨逸社會教育事業局がその仕事の範圍内でどんな事をするかゞよく解る。卽ちナチス世界觀の基礎から出發して、人種學、國民保健、國家學及び經濟學、歷史、鄉土學、藝術、自然科學及び技術に關する講座が社會教育所の教案の中心を成してゐる。

此の講義の外に、非公開の初等コースがあつて、これは働く人々が逸した就學を取り返へす機會を彼等に與へ、個人的な能率の增高に役立つことになつてゐる。しかしこれはそれに依つて個人的な利益を得やうが爲めにあるのではなくて、單に國民に對する內的義務からして、國民の能率の不斷の增高に活潑に參與せんが爲めになのである。此の初等コースに屬するものは獨逸語、外國語、速記等の教授コースである。

1) Volksbildungsstätte

作業科[1]といふものがあつて、これは獨逸人の自己創造的形成力に大きな活動範圍を與へてゐる。それには音樂、寫眞、チェス、油繪、素描、パステル、彫塑等々の作業科がある。

工場見學はその參加者に技術の驚異を解明すると同時に、他の國民同胞の作業に對する尊敬の念を喚び起すのであり、博物館及び文化諸施設の視察併びに各種見學旅行は祖父の業績を彼等に紹介して、祖國に對する誇りの念を充たさせる事が出來る。

然しながら此の社會教育所の活動範圍をたゞ大都會だけに局限したならば、それは完全とは云ひ得ない。其處で此の社會教育所に課せられてゐる同一の任務の範圍が工場でも又農村でも行はれてゐるのである。

一體、數といふものは何時でも制約された證明材料たるにすぎないのであつて、決定的なものは常にその內容であつて、施設の數ではないから、此處では僅に二三の數を擧げるので滿足しやうと思ふが、一九三五年から三六年に涉る半年間に、獨逸社會教育事業局の施設したもの二八、三四一で、夫れへの參加者數五、〇三九、四三〇人を算した。

更らに廣汎に涉つて、其の意義も亦低く見つもることの出來ない方面は巡回圖書館[2]の設備なのであつて、目下各大管區每に凡そ二百五十冊から成る巡回圖書館が約二百あり、これが國營

1) Arbeitskreise
2) Wanderbücherei

自動車道路、勞働營舍、練習船及び獨逸勞働戰線地方監理所の爲めに働いてゐる。

從來の發達の跡を顧みて、獨逸社會教育事業局の道程と目標との間違つてゐない事が明らかになつた。何となればその社會教育所の聽講者の數は絕えず增加して居るが故である。かくて同局に働く同僚は皆、更らにその全力を傾蕩してナチス世界觀の意味で獨逸の人々を作り上げ、我々が考ふる人生の意味に就いての知識を彼等に與へ、自己創造的な造形意志をあらゆる範圍に喚び起さんとしてゐるのである。」

第二　事業成績

全國に約三百の社會教育所があるが。これを中心として已に述べたやうな各種の講義や講習が行はれてゐる。そして其の聽講者の數は漸增を示してゐる。

一九三五—三六年のＫｄＦ第三年度には社會教育事業の總回數は三萬六千回、參聽者約六百二萬人に上つた。此の中には前述の講義や講習の外に、工場視察、經營見學、藝術・技術・科學の實地視察、巡回教授等の方法も利用されてゐるのである。農村にも此の社會教育事業は及んでゐるのであつて、同年度には「社會教育の夕べ」[1]と稱する夜間講習會を催すこと一〇、二八〇回、參

1） Volksbildungsabend

加人員一、九〇四、一二八人を算してゐる。尙ほ以上の一般的な催しの外に、特別講習、例へば現代作家の作品朗讀會の如きが催されてゐる。此の朗讀會の如きすら一九三六年には六千二百五十回の開催、約百四十萬の參會者を數へてゐる。

尙ほ伯林大管區だけの同年度に於ける同局の事業の情況に見ても、興味深いものがある。即ちそれに關する報告に依れば、伯林には目下一九の社會教育所があり、聽講者滿員の盛況である。講座では目下は西班牙に關する講義を行つてゐるが、それは現實の時事問題に對處して、時局に一層深い認識を得せしめやうとするにある。見學事業は極めて好成績で、例へばオリンピックを機會に行つた特別施設の如き七、八、九月の三月間だけで約五十萬人の參加者を算したとの事である。

第七章　勞働の美局と其の事業

第一　勞働の美局の任務とその事業の展開

生産に從事する人々が其の勞務を果す場所である作業場、仕事場、工場の全體及び農園等を美化し、又その人々が住む住宅及び農村を模範的に構成するといふ事は勤勞者及び農民の生活に歡喜を喚び起すことに資するものであつて、其の歡びの心からしてその日常の勤勞に對する愉悅の念が湧き出すのである。かくして勞働の美局の仕事が此處に生ずるのである。ＫｄＦの統率者ローベルト・ライ博士は勞働の美局の機關誌「勞働の美」[1]の創刊號（一九三六年五月發行）の發刊の辭に於て次のやうに述べてゐる。

「國民社會主義的社會政策の中心は實現性乏しき抽象論でも感傷的なる慈善思想でもなくて、

1) „Schönheit der Arbeit"

實に生きた人間である。吾々がそれの爲に心を勞してゐる所の人間である。而して吾々が眞に人間を作らんと欲するならば、先づその環境を作らねばならぬ。…吾々は賃銀によつてのみ人を變えんとするのではない、むしろ彼の勞働、彼の生活、彼の職場そして彼の餘暇等に於てその全體的心構へを變えんとするのである。…斯樣な見解に基いて、職場はもはや勞役の場所でもなく何等かの生産の爲の就勞の場所でもなくて、實に一つの人間共同體がその心臟と腕とを以て獨逸的生活の爲に働く所の大切なる場所である。かくて職場の養護及び形成は生きたる義務にまで發展されねばならぬのである。[1]」

而して此の「勞働の美」の運動の抑々の起源となつたものは、一九三三年に創立された獨逸勞働戰線總同盟の實際的な仕事なのであつて、同年十一月中旬に獨逸工場勞働者總同盟[2]が其の聯合會所屬の工場、事業場に對して、勞働文化的設備狀況に關する報告を徵することによつて先鞭をつけたのである。同總同盟はこの報告を基として、不都合な狀態にある工場、事業場に對しては、企業者と自發的な協定を結んで適當な處置を取らんとしたのである。

此の運動がＫｄＦの事業の中に取り入れられて、全國に對して卒然として大運動を展開するに至つたのは一九三四年十一月初旬であつて、實に此處に全國的な一大宣傳運動が新聞、映畫、ラ

1) 「產業福利」第十三卷第七號一一八頁所載、藤本喜八氏譯に據る
2) der Deutsche Fabrikarbeiterverband

ジオ、各種の會合、展覽會、街頭宣傳、工場宣傳の聲援下に行はれたのである。

斯くて全國の多數の工場に對し働き掛けて、各種の施設を自發的に行はしめたのであるが、一九三五年、三六年には更らに進んで個々の經營集團を系統的に檢査するに至つたのである。例へば揉皮場、煉瓦製造場、靴工場、旅館等に就いて徹底的な檢査が行はれて、旅館だけでも二千五百餘を數へたのである。

それと同時に美化の手は農村にまでも及ぶこととなつたのである。

第二　勞働の美局の事業

勞働の美局の事業の主なものに就いて述ぶれば次の如くである。

一、工場美化事業

工場作業場に於ける施設に關する一切を取扱ふものであつて。即ち光線の狀態、空氣の狀態、職場の秩序と清潔、更衣室、洗面所、食堂、休憩所等にまで及ぶのである。而してそれが目指す所は、

經營の清潔と秩序

塗装飾による職場の淨化
十分なる控室と衛生設備
小さつぱりとした中庭、美しい空地
完全なる保健施設（特に職業病防止の爲めの）
明るき作業場
緑を目にし得る狀態
清淨なる更衣室と休憩所
休養緑地　　等

である。今、夫等の要求がどの程度にどんな實際の形を取つて實現されてゐるかといふ事を知らんが爲めに、同局が創業後間もない一九三四―三五年の短期間内にデュッセルドルフ大管區内にある約九百の工場に於て約二百五十萬マルクの費用を費して行つた工場美化の施設の内容を左に示さう。

施設種類	使用額（マルク）	施設種類	使用額（マルク）
工場及廣場	二二〇、〇〇〇	浴場	二三五、〇〇〇

庭園設備	九〇、〇〇〇	更衣室	一六八、〇〇〇
作業場	九三五、〇〇〇	便所	二八〇、〇〇〇
控室（休憩室）	一八三、〇〇〇	自轉車保管所	五、〇〇〇
中央煖房設備	六七、〇〇〇	排氣設備	二、〇〇〇
食堂	一六〇、〇〇〇	ラジオ設備	四、〇〇〇
洗面所	二〇九、〇〇〇	辨當暖め設備	一、〇〇〇

かくして此の工場美化の事業はいよ／＼其の範圍を擴め、其の內容を豐かにして行つたのであつて、一九三七年度に至つては、次のやうな方向にまでの展開をなしてゐる。

「清潔と秩序とは勞働の美に對する第一の前提條件たるにすぎない。一切の努力の最高目標は一經營の文化的意味の中に求むべきである。此處に『勞働の美局』の主要任務の範圍の將來がある。本年の三月初旬、工場建築家の會議が招集されて、此の方面への推進が議せられたが、藝術と工藝美術が從來よりも多く職場の構成に取り入れられねばならぬといふ事になつた。働く獨逸の人達は美しいアットホームを持たなくてはならぬのであり、隨分役に立たぬ物を以てゞはあるが、何時でも自分の家庭に快適と美とを與へやうとしてゐたのである。然るに勞働と

餘暇とは少くとも同等の價値があるので、美と趣味との法則を職場にまでも應用するといふ事は自明の事實と云はねばならぬ。家庭と工場とは反對なものであるべきでなくて、本當に正しい文化を哺み育てる爲めの同じ手段であるべきである。

現在此の要求を實現せんとする新しい行動が起つてゐる。それは酒保と同僚歡談室はこれを改造して——將來は新築して——、それがたゞ整頓して清潔であるといふだけでなしに、殊に藝術的に構成し美を高調して、働く獨逸の人々の眼を休憩時間中娯ましめるやうにするのである。斯くて始めて休養、即ち餘暇の意味が全體的に到達されるのである。

これと平行して、更らに第二段の行動が取られることになつてゐる。それは暖かい食物を勤勞者一般に支給することを目的とするものである。よく吟味して適當に配合した共同賄ひを最低價額で支給することは多くの點で利益がある。これは僚友精神を强め、極めて徹底して計畫的な保健の促進をなすものであり、消費を巧妙に指導することに依つて我々の食糧自立の爲めの戰に於ける强力なる支柱となるのである。此の行動は國民保健局及び國榮養職團との共同作業で遂行される。

その次ぎの任務は、鑛業勞働者の爲めに新しい洗身舍を建設することである。獨逸の建築家

にその設計を送るやうにと懸賞で募集してゐる。この洗身舍は鑛夫が綺麗な外出着で坑口へやつて來て、此處で全く隔離された室の中で自分の着物を保管して貰ひ、浴室を通つて更衣室に赴き、こゝで作業衣を着て仕事に赴くといふやうにし、仕事を終つた時は、その逆の順序で瀟洒たる外出着で坑から家に歸るといふ仕掛けなのである。

「よい光[1]」運動の爲めに、同局は專門家から成る特別委員會を持つて居り、大管區にはその爲めの相談所が設けられてゐる。これ等の諸努力と並行して、又凡べての工場に「よき空氣[2]」といふ運動も行はれてゐる。[3]」

二、農村美化事業

農村美化の根據は農村の一切の生活條件に適應した社會政策と數十年來考へ拔かれた計畫的な文化事業とにあるのであつて、此の意味の文化事業は唯だ農村に都會的な塗色を施した慰樂の供給ではなくて、農民風俗習慣の向上と覺醒とにあるのである。此の農村文化事業の一番最初に行はるべきものが此の農村美化事業なのである。そして一九三六年迄はまだ僅數の農村がその初期の事業の中で模範的と云はれ得たにすぎなかつたものが、一九三七年には五千以上の村が此の事業に參加してゐる。

1) „Gutes Licht"　2) „Gute Luft"
3) August Piontek, „Kraft durch Freude" auf dem Vormarsch.— „Schönheit der Arbeit" mit neuen Plänen. („Arbeitertum", 7. Jahrg. Folge 22, 1938)

どの大管區にも、小管區にも農村美化事業委員會が出來てゐて、此の美化の事業を發展さすべく骨を折つてゐる。即ち毎年委員會によつて試驗が行はれて、どの村に模範村[1]の名譽稱號を認めるかを決定する。だから前年度の管區模範村が本年度にはこの名譽を喪失するといふ場合も生じ得るので、これは同じ管區の他の村が更らに模範的な仕事をしたといふ事によつてゞある。從つて村落間に毎年のやうに競爭が行はれて、いよ〳〵農村の文化事業が展開して行くのである。

此の事業の爲めに、各村は游泳場、競技場、ヒットラー・ユーゲント寮[2]、ナチス婦人宿泊所[3]、立派な農村協同廣場[4]、殊に冬の夜に一切の文化的な催を行ひ得る協同集會場[5]を設置する必要がある。

扨て今、此の農村美化運動の狀況を知る爲めにロェーン地方に於ける農村美化運動の紹介と、リューネグルクの野の中央に橫はる一模範村の叙述とを左に掲げやうと思ふ。

ロェーン地方に於ける農村美化運動

獨逸中部山脈中の一地方ロェーン、約三千平方メートルの地域に二十萬人が住んでゐるが、人口の密度は中部獨逸のそれに及ばない。しかもそれでも尙ほ人間の數が多すぎる。土地が夫

1) Musterdorf
2) H.J.-Heim　3) NS-Schwesterstation
4) Dorfgemeinschaftsplatz　5) Gemeinschaftshaus

等の人を養ふに十分でなく、又工業も存しないからである。

農業と牧畜とが此の地方の生命であるが、その昔、農民戰争の時までは、これが此の地方の人々を養ふのに十分であつた。所が其處に二つの事情が生じて、この狀態を一變せしめた。その一つは僧侶出の領主の人民のことは顧慮しないで唯だ己れと權力とをだけ考へた偏頗な無謀な移民策であり、その二は其の後に入つて來て農民の生活とは全く沒交渉な自由主義の流入によつて血と土との間の結合を崩壞してしまつた爲めであつて、その結果、遂に今日では七、七一二の農家經營の中、やつて行かれるものは僅かに六一五だけで、その他のものは皆貧窮のどん底にある。これがナチス政權掌握までの狀態だつたのである。

然るに此處に「オットー・ヘルムート計畫[1]」といふものが生じた。これはマインフランケン大管區長の名に因んで名づけたものである。此のプランの大目的は積極的人口政策である。

先づ其の第一着手は道路の構築による全地方の開發である。其の次は耕地整理の外に、農民職團[2]を創り、十六萬日程の荒蕪地の開墾をした。又已にある工業の保護と新しい工業部門の移植をした。そして全ローン地方の再植林を行つたのである。斯くて此の地方は全く面目を一新して、驚くばかり清淨な地方となつた。そしてKdFの旅行のルートに指定さるゝに至つた

1) Otto-Hellmuth-Plan
2) Bauernstand

のである。

模範村の一模型

リューネブルクの野の眞中、ゲルダウの谷に沿うた人口僅か三百五十の小村、アイムケが模範村となつた。勤勉な農民と職人の小さい群が自分達の村を實用的に、清淨に、綺麗に作り上げたのだ。ウェルツェンとゾルダウとの間を一日に唯だ一回だけ通ふ郵便自動車が立寄るだけで、凡べての交通から鎖ざゝれて、此の牧歌の小村は波打つ穀畑、肥えた牧場、詩人ロェーンスの歌つた荒野に取り繞かれて靜かに横はつてゐる。

此の地を一渡り見て廻つて、此處には秩序が支配してゐることを知つたのである。飾つた住宅を持つた七つの世襲農場、がつしりとした厩や納屋は昔からどつしりと落着いた農民が眞面目に働いてゐるといふ事をよく表はしてゐる。年たつた高い槲の樹が農場を圍み、よく手の入れられた小さな前庭と窓に据えた植木の函は美に對する感覺を表はしてゐる。農村は萬事が清淨で目的的に設備されてゐ、兎角躓いたり醜惡な觀を與へ勝ちな汚水溜や屑穴なぞは見たくもない。近代的設備を備へた白い漆喰で塗つた模範的な厩舍は大小の家畜や馬の健康な飼育を念

としてゐるもので、農民各自がする綠地や田圃の優れた耕作と利用とは撓まぬ𪊍勉と努力のいゝ證據となつてゐる。

村の商賣や手工業は隨分繁昌で、車大工は耕作用の車や取り入れの車を作つたり修繕したりする。鍛冶屋は收穫に用ゆる車輪の製作に忙しい。ヒットラー・ユーゲント寮やゲルダウ浴場の建設が計畫されてゐて、村の建築關係業者達は此處に大いに感謝して働いてゐる。

二級から成る新しい學校とうまく編成されてゐる有志消防隊の設備は此の模範村にとつての建設的協同意志の證左である。村落協同體の夕べの催には、近鄕の農民達まで自轉車や自動車でやつて來る位であるが、それは子澤山の村の居酒屋「クロェーガー・ブール」で催され、此の居酒屋の主人公は此の目的の爲めに大廣間を特に作らせた程だ。尙ほ此の主人公の許には、木樵や獵師、ハイカーの連中が泊り合はせて、愉快な晩を過ごすことも屢々である。

これが我々の總統ヒットラーの意圖に描く勞働と勤勉と美と歡びとの輝かしい模範、ゲルダウの谷に橫はる一模範村アイムケなのである。

三、模範營舍等の設計

勞働營舍、模範天幕等の設計に當つてゐて、已に早く一九三四年には國營自動車道路建設所

の爲めの模範バラックの設計を委託されて新考案をなしたが、獨逸勞働戰線はこの新設計に依る模範バラックの建設に對し二百萬マルクを提供してゐる。又フリードリヒスハーフェンにあるツェッペリーン工場との協同下に新樣式の天幕裝置を考案して、運搬及び組立てに極めて簡便な天幕を案出し、優に八百人を收容し得る性能のものを創り出した。更らに建設、撤去及び運搬に極めて容易なＫｄＦ舞臺の設計にも當つたのである。今、一九四〇年一月十五日號の „Arbeitertum" 誌上に紹介された同局考案の勞働營舍の設計を左に示して參考に供しようと思ふ。

新樣式の勞働營舍

勞働の美局は最近完全な新しい勞働營舍の型を創案した。其の樣式は左の如くである。此の營舍は二百人を收容するのを目標として居り、八個の建物より成る。卽ち各四十名を容るゝ居住の間と寢室を備へた五棟、食堂及び調理室一棟、經理室一棟及び浴場洗面所及び便所一棟である。建築の各部は皆同じ規格となつてゐるので、これを建てることが容易であり、その爲めの時間も短くてすむばかりでなく、僅かな手數で建物を擴めたり縮めたりすることも出來る。

居室寢室の棟は夫々各八名宛が寢ることの出來る部屋五個と、書間用室一個、爐部屋一個とに分けられてゐて、夫等は一・五〇メートルの幅の廊下で連結されてゐ、その一端に便所がある。五つの部屋にはベッドが壁際に取り付けられてゐて、着衣脫衣には十分に餘地が取つてある。晝間用室には長い机が四個備付けてあつて、此處に此の棟の全員が餘暇の時間を一緒に集まることが出來る。爐部屋にはストーヴが備付けてあり、同時に濡れた衣類の乾燥室にもなつてゐる。此の居室寢室の建物の煖房は熱氣煖房であつて、其の導管は皆窓下に取り付けられてある。部屋の容積は法規に準じて定められて居り、居住者各一人に付き一〇立方メートルの空氣が宛てられてゐる。

食堂は百名を收容し得て、これには二方から光線を採つてゐる廣い厨房が付き、更らに準備室と貯藏室とがある。厨房には小さな事務室もあれば、厨房に働く人々の爲の小さな控え室もある。此の食堂では、ＫｄＦが催す藝術的な催しや協同體の夕べが行はれる。それで此の爲めに演壇や映寫室があり、其の反對壁面に映寫幕（スクリーン）が設けてある。食堂に接して小さな酒保があり、廣間に向つて酌机が据えられ、玄關には窓口があつて、此處で煙草其他の物を販賣するやうになつてゐる。

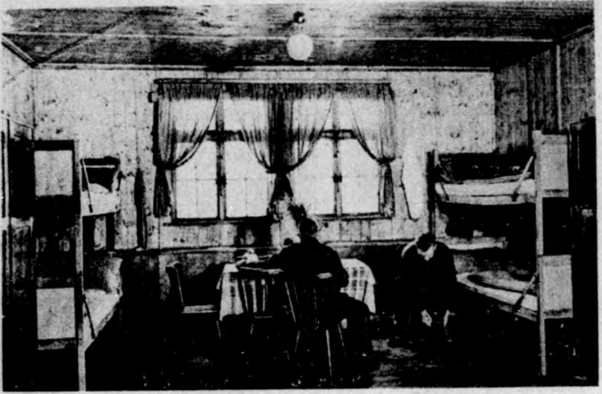
經理室は中々忙がしい。先づ營舍長の事務室があり、會計係の室があり、物置もある。其の外に營舍長、副營舍長、會計係及び衛生係の寢室と居室とがある。此の建物の前面に他の部屋から區切られて、衛生部が置かれてある。此の建物には此處で必要な仕事部屋もある。

浴場、洗面所及び便所の一棟はこの土地の下水網への連結が不可能で、夫々の居室を五メートル延ばして此處に夫々夫等を設備することが出來ない場合に建てるもので、四十名を收容することが出來る設計である。エタニット板で貼つた新しい洗面所浴場には冷水と湯とが給され、一時に三十八人の洗面が出來、六個の雨浴器を備へた灌水浴室が一つある。

此等の建物の配置には、單に目的に適するやうにといふ丈けでなく、土地の美觀といふ事にも顧慮されてゐる。五棟の居室の建物を順々に並べて建て、これに順々に經理室の建物、食堂を街道に近く建てる。そして點呼の爲めの廣場を含めると、約二乃至三・一ヘクタールの地坪が必要である。もつと土地があれば大きな芝生のスポーツ場が設けられゝばよく、全面積は約三・九ヘクタールともなる。

四、勞働の美局制定優良章

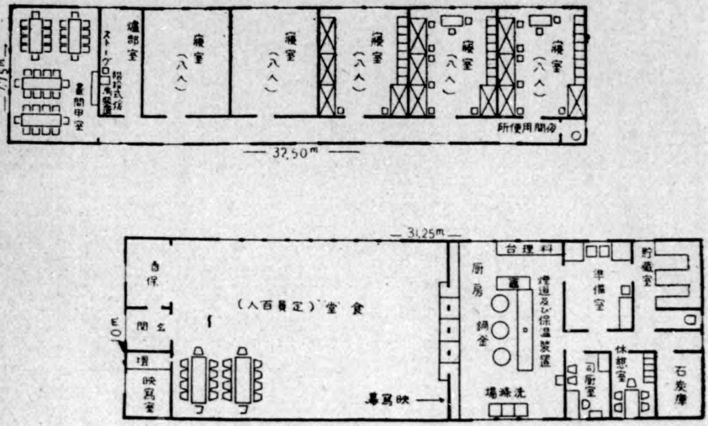
同局は更らに一九三九年に優良章を制定した。此の優良章は唯だ機械ばかりでなく、事務室



模範營舍の居室(155頁參照)



同上の洗面室(156頁參照)



模範營舍の設計圖（154—156頁參照）



勞働の美局制定優良章

用具、職場用具、仕事机、道具戸棚、更衣戸棚、洗面シャワーの設備等にまでも與へられるのである。

共の交附については、製作者の申請によるものであるが、この申請は勞働の美局が獨逸勞働戰線の夫々の專門家、獨逸技師協會、國立勞働保護局、工業經濟關係諸團體等と協力して投與を決するのであり、共の審査の標準は、

（一）技術的に合目的的なること

（二）出來るだけ國內原料を使用せること

（三）規格に適應しゐること

に置かれてゐる。

審査には手數料を徵せず、たゞ審査の際生ずる費用は申請者の支辨にまつことになつてゐる。

第三　事業成績

工場美化の方面では、一九三四年の終りまでに全國で一千七百萬マルクがその費用として事業經營者の側で使用されたが、一九三五年には二億マルクに增加し、一九三六年には四億マルクに

達した。そして一九三六年末迄に、倶樂部、集會所約一、〇〇〇、酒保及び休憩室約三、〇〇〇、工場内綠地約三、五〇〇、各種スポーツ設備數千、プール約二三〇、洗面所、更衣室約一五、〇〇〇が新設されたのである。そして其の他に三百隻以上の國内船と、一千隻の海洋汽船とが勞働の美の意味での改善を施された。

農村美化の方面では、一九三六年末には模範農村の數已に七十餘を算し、それまでに已に六十三の農場と約三千二百ヶ村が美化されてゐる。

以上は一九三六年末迄の成績であるが、其の後の躍進には驚くべきものがある樣である。

附録

戰時下に於けるＫｄＦの活躍

獨逸に於ける厚生運動の國家的機關であるＫｄＦは每年十一月二十七日に其の創立記念日を慶祝して大會を開催し、過去一年間に於ける運動を顧望すると同時に、その將來への展望を行ひつゝあるのである。

而して一九四〇年十一月廿七日に伯林の國立オペラ座で催された第七回記念大會に際しては、同協同體の指導員ラフェレンツ博士（Dr. Lafferentz）によつて、一年間に於ける事業の報告演說が行はれたのであるが、同報告は實に獨逸が其の國運を賭し、其の國家及び民族の隆替の重大な岐點に立つての果敢なる戰を展開しつゝ、其の時までに已に一年と三ケ月を經た間に於て、獨逸國民の社會生活新體制の編成を目指して驀進し來つたＫｄＦが此の時局の線に沿うて其の運動を如何なる方向に推進せしめたか、而して更に世界的大時局に直面して、其の運動を如何に發展せしめんと意圖しつゝあるかは、世界新秩序の建設といふ同一使命に勇躍し專念しつゝある我が

國民に對して、有益なる示唆を與ふると共に、特に此の方面に重大關心を懷きつゝある人々に取つて好箇の實際資料ではあるまいかと思ふ。

此處に私は其のラフェレンツ博士の報告演說の內容の概要を紹介する次第である。

× × ×

戰爭の勃發はＫｄＦの從來の事業の配分に或る變化を齎らし、以前の計畫に變更を生ぜしめた事は言ふ迄もない所であるが、然し其の事業の原則は確乎として不動であり、其の運動の目標は依然として微動だもしない。否！ 寧ろ各個の部門に課せられた任務は以前にも増して一層强度に敢行さるべきである、といふ根本方針が確立されたのである。然しながら、戰時下ＫｄＦの事業に於て特に擴大されて目覺ましい活躍の跡を示しつゝあるものは、何と云つても、先づ

軍隊慰問事業

である。戰爭突發するや、ＫｄＦは逸早く軍司令部及び啓發宣傳省と協定して、軍隊に對する文化的慰問の全事業を引受けることゝなつた。尤も映畫提供の事業だけはそれから除外されてゐた。そしてＫｄＦは軍隊のこれに關係した諸施設と緊密なる提携を保つて其の活動を展開せしめ

たのであつて、一九二九年十一月一日には已に波蘭に於ける軍隊の爲めに『獨逸勞働戰線附屬國立巡回演劇隊』の初演を行つてゐる。而して嚴冬と道路の劣惡と、宿舍の窮屈とを冒して、此の慰問事業は其の後間斷なく續行されて來た。

一九三九年から四〇年への長い冬の待機期間には、KdFは西部戰線の軍隊慰問事業を大規模に遂行したが、殊に西部戰線攻勢開始前の二三ケ月間といふものは、月平均一萬五千回の軍隊慰問の催を行つてゐる。

六月廿六日には、已に丁抹へ『獨逸勞働戰線附屬國立巡回演劇隊』と『獨逸屋内管絃樂團』とを派遣して慰問事業を開始したが、之れに次いで『伯林フィルハルモニー管絃樂團』の公演旅行を行はしめて、空前の大成功を收めた。それと同時に、ノルウェーに少人數から成る演奏團を多數派遣したが、これは遠い距離の間に分宿してゐる部隊の慰問を考慮した爲めである。

七月十二日には、已に巴里に於て『KdF戰線劇場』が『ミンナ・フォン・バルンヘルム』を上演して大喝采を博したが、七月十八日には和蘭に於ける軍隊の慰問事業も開始された。

× × ×

今日KdFが慰問の事業を展開しつゝある範圍は、實に舊獨逸領の四倍の廣さに及んで居り、

ＫｄＦの諸劇團は北はナルヴィックよりオスロ、コーペンハーゲン、アムステルダム、ガン、フンスを經て遠く西班牙國境に及ぶ蜒々たる全海岸を巡回してゐる。そして戰爭開始以來已に十八萬回の特別上演によつて軍隊に歡喜を通して力を齎らしてゐる。實に五千萬以上の觀衆聽衆を迎へ、特別上演の中五萬五千回は占領地區內で行はれたのであるが、將來の計畫はこれを更らに一層增さしめやうとしてゐる。

そして本年十二月の一ヶ月だけで、佛蘭西と白耳義とに百個の樂團を差し向ける事になつてゐる。其處には大物中の尤なるものが提供される事は言ふまでもないが、今試みに其中の著名なるもの二三を擧げるならば、指揮者としてはローベルト・ヘーゲル、オイゲン・ヨッフーム、ハンス・クナッペルブッシュ等があり、獨唱家にはエリー・ナイ、ロザリント・フォン・シーラッハ、ウイルヘルム・ケムプ等があり、演奏は『ドレスデン・フィルハルモニー團』『ライプチヒ織物市場管絃樂團』『ウィーン國立放送局管絃樂團』『伯林國立オペラ屋內樂團』『獨逸オペラ座屋內樂團』が之に當るのである。『バルナバス・フォン・ゲクツィー管絃樂團』は已に幾度か軍隊慰問の無料演奏を行つてゐる。舞臺の方では、ハンブルク、シュトゥットガルト及びワイマールの國立樂劇團、フランクフルト・アム・マインの市立樂劇團、カッセル、オルデンブルクの國立

劇場、ウィーンのライムント座等々を擧げる事が出來る。

傷病兵慰問事業

傷病兵を病院に慰問する事業はＫｄＦに課せられた最も偉大な名譽義務の一つであるが、此の病院といふ特別の狀態を考慮して、その催しは多くの場合小さい組や少數の演技者によつて行はれてゐるのであつて、此の特別な任務を委託されてゐるのはＫｄＦの中のスポーツ局併びに社會教育事業局である。

病院で行はれる體育競技には、負傷者の狀態を十分考慮して考察された多方面の種目が擧げられてゐるが、ＫｄＦ競技が特に目指してゐる目的は、健康の囘復と全能率の再獲得への衝動を自然に強めるといふ事にある。

社會教育事業局は軍司令部及び獨逸赤十字社の支援の下に、初心者養成講座を開催してゐる。これは負傷して快癒した兵の精神を昂揚し、教育的に價値のある仕事を授けるといふ大切な要求に應じてゐるのであつて、負傷者の初心者養成といふ事は、それが唯だ彼等に歡喜と慰樂とを與へるのに役立つのみならず、心身の創痍を急速に癒す上にも少なからぬ效果があるのである。

慰安娯樂局の事業

ＫｄＦの同局では本年（一九四〇年）初めて、毎年催されるバイロイトの祭典演劇を訪問する企てをしたのであるが、總統の命によつて、此の祭典演劇には、兵士と勞働者と丈けが特に參列する事が許されたのであり、約二萬の兵士と勞働者とが參列して、バイロイトの名藝術家の演技に接することが出來たが、藝術家の側でも、まだ曾て斯かる感謝と感激とに滿ちた觀衆に對した事がないと云つてゐる。

同時に伯林の國立歌劇場はＫｄＦの爲めにオペラの巡回興行を行つた。伯林のプラッァ座、キョルンのアポロ座、ボーゼンのメトロポール座を手に入れて三つの大演藝園（エテー）（バリ）が仕事を始めたし、ハノーヴァーのメリニ座、デッサウのフリードリッヒ座、マクデブルクのアドルフ・ヒットラー座で三つの舞臺が之れに續いた。それで伯林のプラッァ座の『ＫｄＦ童話劇場』だけでも百七回の公演を行つて、約十九萬の入場者を數へてゐるが、いよ〳〵舞臺監督の參議官ティートェンが同劇場の藝術指導の役を引請けることゝなつたので、其の藝術的向上が特に期待されてゐる。

此處に特說し度いのは、非常な大規模の計畫の下に行はれてゐる『勞働者協同營舍』に於ける慰安事業である。これは最初『國營自動車道路營舍』で始められて、西部國境方面に及んだのであるが、全國の勞働者協同營舍にまで及んで、今日では一千六百の勞働者協同營舍でそれが行はれてゐる。そして戰爭開始以來、此等の營舍に於て約四萬回の慰安の催しが行はれた。

× × ×

此のやうな工合で、國內に於ける慰安娛樂の事業は相當に重視されてゐるが、それは今日國家有事の際に於ては、戰線に立つ兵士も、職場に働く勞働者も何等の差別が無いからである。

今此の事業の成績を概括すれば、慰安娛樂の催しの數だけを取つても、一九二八年の十四萬四千回から二十二萬四千回に激增し、參加者の數も、五千五百萬人から六千百萬人へと飛躍的な增加を示してゐる。そして、一九四〇年の前半期に於ては催しの回數は八萬五千、參加者の數は二千六百萬を算してゐる。その開催回數と人員とが少しばかり減少してゐることは、軍隊の爲めの特別な催しに驚くべき增加を示してゐる事を以て、十分相殺し得て餘りがあるといひ得やう。

社會教育事業局の事業

開戰以來、先づ『社會教育所』の擴張が問題となるに及んで、舊獨逸領の各縣の外に、特に新領土が選ばるゝことになり、東部國境、ズデーテン縣、東上部シレジア、ワルテ縣併びにダンチヒ、西部プロイセン縣などに、盛んにその設置を見たのである。

此處で著しく目に着くのは、各國語の語學講習の聽講者の激增であるが、他の學科の聽講者の數も亦甚しい增加振りを示してゐる。

スポーツ局の事業

軍隊と產業戰士の爲めのスポーツ局の事業も擴大されたが、工場、鑛山等の事業場に於ける職場スポーツ團の數は一九三八年に約一萬四千を算したのが、今日では二萬を遙かに超えてゐる。

旅行局の事業

ＫｄＦの一部局で、然かも最も喜ばれてゐる部局であるが、戰爭の爲めに最も大きい打擊を蒙つてゐるものは、此の旅行局である。何しろ、旅行が交通上の取締や軍事上の必要から、殆んど全く停止されざるを得ない狀態にある現狀から見ても、無理のない事ではあるが、然しこれは、

遊歴ハイキングを盛んにするといふ事で幾分の補ひが付けられてゐる。

ＫｄＦが誇る船隊は開戰前も已にそうであつたが、戰爭開始後はいよ〳〵特殊なる重要任務に就く事になつた。それは、例へば戰爭前に西班牙からの『コンドル』部隊の歸還に際して此の船隊が使用されたが、戰端開始後は『ローベルト・ライ』『ウィルヘルム・グストロッフ』『シュトゥットガルト』の三大ＫｄＦ船は病院船として海軍に歸屬し、波蘭戰やノルウェー戰に活躍した。

『勞働の美』局の事業

前の局と同じく、戰爭によつて相當大きな痛手を受けたのは此の局である。然し戰爭によつて要求される經營の大規模擴充と相併んで、此の局の仕事も新しい相貌を備へて、一層强度に推進さるゝに至つた。卽ち『工場に暖かい食事』『よい光線を與へよ』『健康なる空氣を』等々の運動がそれである。而して戰爭による制限にも拘らず、約九千個の工場で、約八千五百萬マルクが『勞働の美』の爲めの改良事業に投ぜられた。

× × ×

以上が全國民の總勢力を擧げて唯だ捷利にのみ集中させた此の戰爭開始以來十五ケ月に於けるＫｄＦの事業報告の簡單なる概要である。我々は此の間に或る偉大なる敎訓を讀み取り度いと望んでゐる。

昭和十七年一月十五日印刷
昭和十七年一月二十日發行

ナチス厚生團（KdF）
㊕定價貳圓

會員番號 108502

著作權者　大原社會問題研究所
代表者　森戸辰男

發行者　永田周作
東京市神田區神保町一ノ三九

印刷者　松村保
東京市神田區西神田一ノ四

發行所　株式會社　栗田書店
東京市神田區神保町一ノ三九
振替東京一一二三四
電話神田二一六一(5)

配給元　日本出版配給株式會社

年 3 月 10 日

閲覧済